●国際連合大学 2016-2017 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

東京都・東京都狛江市・千葉県八千代市・千葉県

2017 年 1 月 17 日(火) ― 1 月 23 日(月)

国　際　連　合　大　学（UNU）
公益財団法人ユネスコ･アジア文化センター（ACCU）

●国際連合大学 2016-2017 年国際教育交流事業●

韓国教職員招へいプログラム

実施報告書

東京都・東京都狛江市・千葉県八千代市・千葉県

2017 年 1 月 17 日(火) ― 1 月 23 日(月)

国　際　連　合　大　学（UNU）
公益財団法人ユネスコ･アジア文化センター（ACCU）

はじめに

国際連合大学（United Nations University）は、持続可能な人類の安全保障、気候変動、開発、平和構築など、国連とその加盟国が直面している、喫緊の地球規模の諸問題の解決への取組に、研究、教育、能力開発、知識の普及を通じて寄与することを目的とする国連機関です。

国際連合大学は、2002 年に主にアジア太平洋地域の教職員や教育分野の専門家等の資質の向上と相互理解の促進を目的とし、日本政府からの拠出金をもとに「日本国際教育交流プロジェクト」を開始しました。2000 年に設立された「ユネスコ青年交流信託基金」で実施されていた「韓国教職員招へいプログラム」は、同年より本事業のもとで開催されることとなり、同大学からの委託を受けて公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）が実施を担当し、昨年まで 16 回にわたり、1,877 名の韓国の教職員を日本に招へいしてきました。

今回の国際連合大学国際教育交流事業・韓国教職員招へいプログラムは、2017 年 1 月 17 日（火）から 1 月 23 日（月）までの 7 日間にわたり、韓国の小・中・高等学校の教職員等 118 名を我が国に招へいしました。このプログラムは学校およびその他の教育・文化施設を訪問・見学することにより、日本の教育制度およびその現状についての理解を深め、ひいては、両国の相互理解と友好を促進することを目的としています。

実施にあたりましては、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部、および東京都狛江市・千葉県八千代市・千葉県の各教育委員会、訪問先の学校、その他の教育・文化施設等、多数の方々の多大なるご支援とご協力をいただきました。ここにあらためて関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

2017 年 3 月
国際連合大学
公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター

目次

はじめに

第I章　実施内容

1. 全体プログラム（東京都・千葉県）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
2. 地域受入れプログラム（各県・市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
3. 全体プログラム（千葉県成田市）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

第II章　コメントと提案

1. 韓国教職員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
2. 受入れ教育委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49
3. 主な受入れ学校および機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
4. プログラム運営担当者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

付録

1. 実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
2. プログラム日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
3. 参加者リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
4. 関係機関リスト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
5. 文部科学省講義資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
6. 過去のプログラム実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85

第Ⅰ章

実施内容

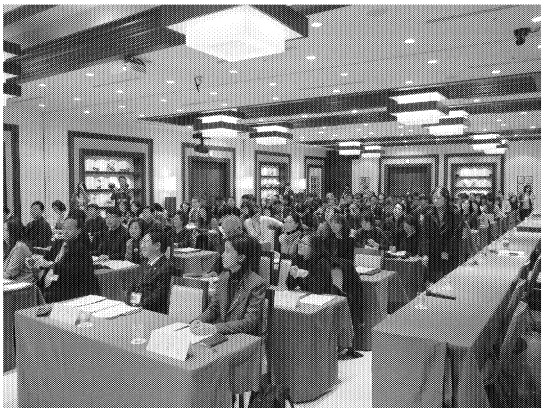
1. 全体プログラム（東京都・千葉県）
2. 地域受入れプログラム（各県・市）
3. 全体プログラム（千葉県成田市）

１.全体プログラム（東京都・千葉県）

1. 来日、オリエンテーション（第１日）

「韓国教職員招へいプログラム」の参加者 118 名は、2017 年 1 月 17 日（火）に来日した。同日、成田空港からほど近い「ホテル日航成田」にて、プログラムのオリエンテーションが行われた。

はじめに、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）人物交流部長進藤由美から参加者に歓迎のあいさつが述べられた後、各グループに随行する ACCU 担当スタッフが紹介され、最後に職員よりプログラム日程の説明や滞在ガイダンス等が行われた。


オリエンテーションの様子

2. 講義（第１日）
「日本の初等中等教育について」
文部科学省　初等中等教育局
初等中等教育企画課 専門職
市川　清治　氏

その後、同会場にて、「日本の初等中等教育について」というテーマで、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課専門職の市川清治氏による講義が行われた。

Ⅰ）日本の初等中等教育制度
①学校体系
②学校数、児童・生徒、教員数
③在籍者数、就園率・就学率の経年変化
④義務教育制度の概要
⑤義務教育費国庫負担制度の概要
⑥教科書無償給与制度
⑦教員養成・免許制度の概要
⑧教育行政制度の概要（国･都道府県･市町村の役割）
⑨学習指導要領とは
⑩学習指導要領改訂の視点

Ⅱ）日本の教育政策の一部の紹介
①高大接続改革
②高大接続改革の必要性
③高大接続改革の全体像

市川氏による講義の様子

講義の質疑応答

3. 日韓夕食交流会（第 1 日）

同日 19 時 30 分より、日韓夕食交流会が行われた。昨年に続き 2 回目の実施で、参加者のうち事前に申請をした希望者のみが参加し、日本の教職員と一緒に食事を楽しむという交流会であった。日本側、韓国側からそれぞれ約 10 名が参加し、通訳を介さずに英語や片言の日本語・韓国語で交流を楽しんだ。日本側の参加者の多くは、対となるプログラムで韓国を訪問した経験があったり、韓国の教職員の訪問を受け入れた経験があったりと、教育という共通点を差し引いても、共通の話題には事欠かないようすであった。

オリエンテーション・講義を経て、疲れがたまっているタイミングでの食事会ではあったが、ゆっくりと食事をしながら交流ができる貴重な機会とあって、参加した韓国教職員からは「本当に楽しく、すばらしい時間だった」との声が上がった。

4. 東京近郊校訪問（第 2 日）

A グループ

町田市立小山田小学校

プログラム 2 日目の 1 月 18 日（水）、A グループ一行は町田市立小山田小学校を訪問した。同校は、東京都町田市の都立小山田緑地公園が広がる自然豊かな場所にある。「小山田学習」と呼ばれる、地域の自然を利用した学習や、地域住民との連携による ESD（持続可能な開発のための教育）を実践している。

一行は同校に到着すると、全校児童が集まる体育館に案内された。手作りの日韓の旗を手に持った全校児童が『アリラン』を合唱し、訪問団は盛大な歓迎を受けた。校長の三瓶昌信氏より、「創立 65 周年を迎える記念の年に、みなさまを迎えることをうれしく思う」との歓迎のあいさつがあった。続いて、町田市教育委員会学校教育部指導課指導主事の赤司祐介氏が紹介され、歓迎のあいさつを述べた。訪問団を代表して、順天旺之（スンチョンワンジ）小学校校長の鄭東朝（チョン・ドンジョ）氏が答礼で、「貴校の良い施策を通じ、韓国の学校教育を振り返り、両国の教育の良い点が、お互いの教育の発展に寄与することを期待している」と述べ、訪問団より記念品が贈呈された。その後、児童代表 7 名により、韓国語を交えた歓迎のあいさつがあった。そして、同校の児童が参加する地域住民によるお囃子を鑑賞した。歓迎式の最後に、日韓の友好の楽曲として知られる『U&I』を全校児童が日本語と韓国語で合唱した。歓迎式が終わり、児童が退場すると、同校の主幹教諭の百田明弘氏による学校説明があり、同校の教育目標や ESD 活動としての環境教育や食育について紹介があった。

続いて、一行は授業参観のため 2 班に分かれ、各教室を回った。算数や国語、家庭科の授業などを見学し、生活の授業見学では、コマなどの日本の遊びを児童が披露した。その後、一行は各クラス 2～3 名に分かれて授業に参加し、授業交流を行った。児童から質問を受けたり、韓国語や韓国の文化について教えるなどした。昼食は、同クラスで児童と給食をとり、韓国語や英語で交流を深めた。

午後は、同校の教職員との意見交換会が行われた。訪問団からは以下のような質問

が挙がった。

・同学区の中学校との関係
・小学校での進路指導
・「生きる力」、礼儀正しい児童生徒の教育方法について
・いじめについて
・情報社会でパソコンなどの教育方法はどのようにしているのか
・地域からのどのように協力を得ているか
・ESD を導入したきっかけ
・保護者の授業参観について

訪問の最後に、体育館で記念撮影を行い、同校の学校訪問を終了した。

体育館での歓迎式の様子（町田市立小山田小学校）

B グループ

文京学院大学女子中学校高等学校

B グループの参加者 40 名は、1 月 18 日（水）、東京都文京区の文京学院大学女子中学校高等学校を訪問した。同校は、創立 92 年となる私立女子校であり、中学・高校を通して、将来のグローバルキャリアを視野においた、グローバルスタディーズ（国際教養）、アドバンストサイエンス（理数キャリア）、スポーツサイエンス（スポーツ科学）の 3 コース制による教育活動を展開している。文部科学省より、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）・スーパーグローバルハイスクール（SGH）アソシエイトの指定を受け、発展的な探究学習に取り組んでいる。国際塾など英語教育に力を入れており、海外連携校との交流や語学研修旅行、短期・長期の交換留学も盛んに行っている。

学校到着後、同校中高一貫部校長の南部和彦氏より、「皆様との交流を通して両国の絆が一層深まることを期待しております」と歓迎のあいさつがあった。また、同校統括校長の佐藤芳孝氏と大邱西部（テグソブ）高等学校校長の梁成潤（ヤン・ソンユン）氏による記念品交換が行われた。続いて、学校概要の説明が行われ、学校創立の経緯や理念のほか、伝統教育の例としてペン習字・運針・茶道・華道・給食指導などの事例、将来のキャリアを意識した 3 種類のコース、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）としての活動や SGH（スーパーグローバルハイスクール）としての活動など同校の取組みが紹介された。その後、授業参観が行われた。授業参観時には保護者の方々に通訳協力をいただき、6 つのグループに分かれて少人数での参観が実現した。数学、家庭科、英語などの授業のほか、図書室などの施設見学も行われた。また、同時に韓国教職員による同校生徒を対象とした特別授業も行われた。中学 2 年菊組（グローバルクラス）、高校 2 年藤組（国際教養クラス）では、「韓国の韓紙工芸と韓紙手鏡作り」というテーマで授業が行われ、高校 2 年桜組（国際教養クラス）では「韓国のお正月文化」というテーマで英語での授業が行われた。授業参観および特別授業が終わると、カフェテリアにて同校の

生徒と一緒に給食をいただいた。開始時・終了時に韓国語であいさつをする生徒たちに、訪問団から拍手があがった。午後は感想共有や意見交換の時間が持たれた。意見交換の際も保護者の通訳協力のおかげで少人数グループに分かれての話し合いができた。各グループでは、本日の学校概要説明・授業参観での感想が述べられたほか、入試制度、中高一貫教育、英語教育やグローバル人材育成をはじめとし、様々な話題があがった。最後に、高等部校長の清水直樹氏による閉会のあいさつがあり、「韓国の教育、日本の教育、お互いがその長所を上手に取り入れながら両国の子どもたちのために『持続可能な開発のための教育』とは何かを常に考えてお互いに発展していければと思います」と述べた。また、訪問団を代表して彌鄒忽（ミチュホル）外国語高等学校の鄭正浩（チョン・ジョンホ）氏が答礼を述べ、訪問受入れに対する謝意を示すとともに、「いま、ここにいる皆様方と日韓両国のより友好的な関係のためにより多くの交流の場が持たれることを楽しみにしています」と今後の交流への期待が述べられた。最後に記念撮影を行い、一行は同校をあとにした。

チマチョゴリを着て韓国文化についての授業を行う訪問団員（文京学院大学女子中学校高等学校）

C グループ

浅野中学・高等学校

C グループの参加者 39 名は、今回のプログラムでの 1 校目の訪問として、神奈川県横浜市にある浅野中学・高等学校を訪問した。同校は 90 年以上の歴史をもつ中高一貫の私立男子校で、2016 年夏に対となるプログラムで教職員が韓国を訪問したことがきっかけとなり、今回訪問団が同校を訪問することとなった。

訪問団は学校に到着後、会議室で歓迎を受けた。最初に校長の前田渉氏が訪問団への歓迎の意を述べつつ、「『九転十起』を校訓とする本校では、学業・学校行事・部活動という三本の柱を身につけさせることを重視している。短い時間ではあるが、有意義な訪問となることを願っている」と挨拶をすると、それに応える形で訪問団を代表し、水原（スウォン）外国語高等学校校長の徐東信（ソ・ドンシン）氏がお礼の意を述べた。その後、両者で記念品の交換を行った。

続いて学校紹介および同校におけるグローバル教育の紹介が行われ、その中では韓国でも「地球市民教育（GCED）」の一環で取り入れられている「模擬国連」活動の紹介もあった。学校紹介の中で触れられた、充実した設備に驚く参加者も多くいた。

その後、訪問団は 2 つのグループに分かれて授業を見学した。同校は中学・高校の一貫校であるが、訪問の時期が大学受験シーズンと重なっていたこともあり、中学の授業を中心に見学した。図書館で行われている模擬国連の授業や一般の教室で行われている講義形式の授業など、さまざまなタイプの授業を見学し、また、学校の歴史

を紹介する史料室といった、独自の要素を垣間見ることもできた。

授業見学後は昼休みの時間となり、生徒と一緒にお弁当を食べながら交流をした。韓国では高校まで給食を提供する学校がほとんどであり、生徒の持参していた手作り弁当に注目する参加者も多かった。交流に参加した生徒たちは英語が堪能で、大人数の外国の教職員の間でも堂々と話をする様子を見せており、参加者は「彼らのような高校生が将来日本を背負っていくと思うと、頼もしい一方で脅威を感じる」と感想を語り合った。

生徒たちの昼休みが終了すると、教職員同士の交流の時間となった。前半は質疑応答形式で、後半はグループごとに自由に意見交換をした。質疑応答では、「補助教材の作成について」「進路別のクラス編成について」「生徒の英語力について」などの質問があがった。少人数でのざっくばらんな意見交換は大変盛り上がり、もっと話していたいと後ろ髪を引かれつつ、浅野中学・高等学校への訪問を終えた。

模擬国連の授業を見学する様子（浅野中学・高等学校）

２.地域受入れプログラム（各県・市）

Ａグループ：東京都狛江市

訪問団団長である韓国教育開発院院長の金載春（キム・ジェジュン）氏が所属し、吉州（キルジュ）小学校の校長の張國洙（チャン・グクス）氏をグループ長とするＡグループは、1月19日（木）から21日（土）までの３日間、東京都狛江市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校３校の訪問、日韓教育交流会、地域団体によるお囃子の鑑賞とホームビジットが実施された。

◆ 狛江市教育委員会表敬訪問

プログラム３日目の1月19日（木）午前、一行は、狛江市教育委員会への表敬訪問を行った。狛江市役所４階の特別会議室に到着すると、まず同市教育委員会教育長の有馬守一氏が、「各学校の特色ある教育活動に触れてもらい、この訪問を機に、両国の教育がさらに発展することを祈念する」と歓迎のあいさつを述べた。続いて、訪問団を代表して訪問団団長の金載春（キム・ジェチュン）氏が、「教育現場訪問を通じて狛江市と日本の教育についてより深く理解したい。今日まで準備くださった関係者のみなさまに感謝する」と答礼した。その後、狛江市からの出席者が紹介され、両氏による記念品交換が行われた。最後に、狛江市のゆるキャラ（えこまさんと安安丸）を交えて、記念撮影をした。

続いて、同会場にて狛江市のオリエンテーションが行われた。同市教育委員会教育部指導室統括指導主事の細谷俊太郎氏が同市教育政策の説明をした。教育活動の展開として「知・徳・体」についての説明があり、オリンピック・パラリンピック教育や個々の児童生徒への支援、子どもの安全確保、学校運営支援と教員育成などにおける取り組みが紹介された。また、教育部社会教育課文化財担当係長の宇佐美哲也氏より同市の歴史についての説明があり、縄文・弥生時代から続く同市の歴史について紹介があった。

質疑応答では、以下のような質問が挙がった。

・学校満足度検査表について
・教育委員会の第三者の評価の構成について
・学校に対する評価の方法
・総合的学習の時間について
・防災教育について

訪問団長金載春氏（左）と狛江市教育委員会教育長有馬守一氏（右）の記念品交換の様子

◆ 狛江市立狛江第一小学校

同日午後、一行は狛江市立狛江第一小学校を訪問した。同校は、創立145周年の歴史があり、地域には卒業生の方も多い。狛江市教育研究協力校として、地域との交流を重視し、伝統教育・国際理解教育を推進している。

一行が校門に到着すると、日韓の国旗を持った児童が校内まで列をつくって「アンニョンハセヨ」と元気にあいさつをし、訪問団は温かい歓迎を受けた。一行が会場に案内されると、同校校長の岡前克之氏より歓迎のあいさつがあり、同校は地域の人々につくられ、地域の人々に支えられた地域の学校であることが紹介された。続いて、訪問団を代表して、安東東部（アンドンドンブ）小学校校長の林圭銑（イム・ギュソン）氏が「今回の訪問を大変うれしく思うと同時に、ここを訪れた私たちが貴校の教職員と良い友だちになり、世界にはばたく、夢と希望を持てることを願う」と答礼し、張國洙（チャン・グクス）グループ長より、記念品が贈呈された。

一行は、2 グループに分かれ 5 年生の授業を見学した。1 グループは、体育館にて児童が琴、浴衣の着付け、茶道を実演する様子を見学した。2 グループは、児童による華道・着付け・書道についてのプレゼンテーションを見学した。訪問団は、地域住民が講師として子どもたちに日本文化を教えている様子に関心を持った。

続いて、一行は会場に戻り、同校の岡前校長による学校説明をうけた。教育目標、教員の取組目標や、学校行事が紹介された。また狛江市研究協力校として、各学年で特色ある教育が実施されていること、地域や日本の伝統文化を学ぶことで、世界にはばたく狛江の子どもを育成していることが述べられた。

その後、同校の教職員との交流が行われ、以下のような質問が挙がった。

・保護者や地域住民との関わり方
・日本教職員の教授方法
・ICT 教育は、スマートフォン中毒を助長するという批判もあるが、どう考えるか
・多文化共生教育について
・特別支援教育について

最後に記念撮影を行い、一行は同校をあとにした。

子どもたちから茶道を教わる韓国教職員
（狛江市立狛江第一小学校）

◆ 歓迎交流会

同日午後 6 時より、狛江市中央公民館地下ホールにて狛江市主催の歓迎交流会が開かれた。狛江市教育委員会教育部指導室指導主事の坂本尚毅氏の司会進行で行われたこの歓迎交流会には、狛江市副市長の水野穰氏、教育長の有馬守一氏をはじめとし、教育委員会の職員、訪問校を含む狛江市内の各小学校・中学校の教職員などが出席した。はじめに、水野副市長より「3 日間のプログラムをとおして、日韓両国の相互理解と友好が一層推進され、両国の子どもたちにとって、よりよい教育環境が構築されていくことを願っている」と歓迎のあいさつがあった。続いて、訪問団グループ長の張國洙（チャン・グクス）氏が、訪問団受け入れの準備に対するお礼とともに「貴市の教育政策について深く学びたい」とこれからの訪問に対する期待を述べた。その後、両氏による記念品交換が行われ、

狛江市教育委員会委員長の佐藤正志氏が乾杯の音頭をとり、それぞれ歓談の時間を過ごした。参加者の中には、2015 年の 8 月および 2016 年 7 月に訪韓した日本教職員もおり、両者ともに再会を喜んだ。歓迎交流会の中盤、韓国教職員による歌『私の暮らしていたふるさとは』（韓国の小学校の教科書に載っている歌）と『明日があるさ』が披露された。伝統衣装に身を包み、楽器の生演奏を加えた合唱で会場は歓声に包まれた。また狛江市教職員は同市の歌である『水と緑のまち』を披露し、「音楽の街」と称される同市にふさわしく音楽を通じて、お互いの心を通わせた。最後に狛江市立緑野小学校校長の大場一輝氏が韓国語で締めの音頭をとり、張國洙グループ長も最後にあいさつを述べ、歓迎交流会は終了した。

グループ長張國洙氏（左）狛江市副市長の水野氏（右）

歓迎レセプションで合唱する教職員

◆ **狛江市立緑野小学校**

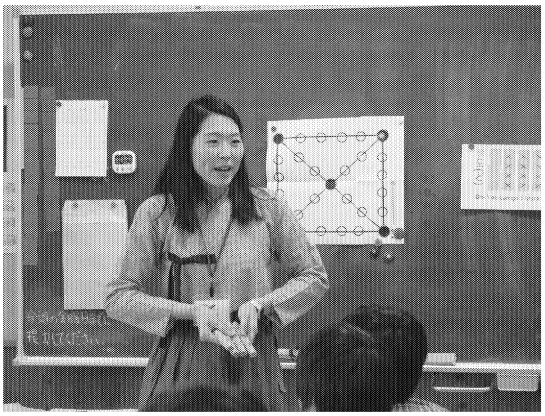
プログラム 4 日目の 1 月 20 日（金）午前、一行は狛江市立緑野小学校を訪問した。同校は、2005 年に狛江市内の小学校 2 校が統合され開校した。「音楽の街」狛江市で伝統ある取り組みとして 6 年生のブラスバンド活動が評価されているほか、東京オリンピック・パラリンピック教育重点校として、学校図書館を活用した国際理解教育を推進している。

同校に到着すると、列をつくった児童より拍手で出迎えを受けた。はじめに、同校校長の大場一輝氏が、韓国語を交えた歓迎のあいさつをし、張國洙（チャン・グクス）グループ長は、「7 月に訪韓した大場校長と半年ぶりの再会を大変うれしく思う。相互交流によって、日韓の初等教育の発展に大きな恩恵をもたらされることを期待している」と答礼し、記念品を贈呈した。その後、大場校長による学校紹介があり、小学校 6 年間、地域に貢献する児童の育成を目指していること、同校の特別支援学級などが詳しく紹介された。

一行は、1～6 年生で構成される固定制の特別支援学級であるえのき学級を参観した。一行は、児童のリズム演奏や発声の練習を見学したあと、児童によるトーンチャイムの演奏を鑑賞した。リズムよく演奏する様子に訪問団も感心した。そして、12 名の訪問団は、児童から教わりながら一緒にトーンチャイムを演奏した。訪問団は、「私も緊張しましたが、やさしく教えてもらえて自信が持てました」と感想を述べた。

続いて、一行は、10 クラスに分かれて韓国の文化を紹介する文化授業を行った。韓国の伝統衣装に着替え、韓国の伝統的な遊

びのユンノリ（すごろく）やタクチ（メンコ）などを児童に教え、児童も楽しく韓国の文化を学ぶ機会となった。



児童に韓国の伝統の遊びユンノリを教える韓国教職員
（狛江市立緑野小学校）

◆ 狛江市立狛江第三小学校

同日午後、一行は狛江市立狛江第三小学校を訪問した。同校は、1957 年に開校し、東京都言語能力向上拠点校として国語科で実施された 3 年間の研究成果を生かし、算数科でも研究活動を 2 年間実施している。また、教職員が共通の目標に向かって様々な教育課題に対応するための「チーム三小」をつくり、組織力を高めている。

一行は、同校に到着すると、給食の配膳の様子を見学した。その後、同校の児童が作成したハングルや河回タル（ハフェタル）とよばれる、韓国の仮面の装飾がされた会場に案内された。同校の栄養士から給食の説明があり、同校の人気メニューであるジャンボ餃子を味わった。その後、同校校長の渡辺秀貴氏より、「本校の教員がチームで指導力を高めている研究授業の取組について見ていただき、皆さまのご助言もいただきたい」とあいさつがあった。続いて学校説明が行われ、めざす学校像や教育目標について紹介された。

次に一行は、理科・体育・社会・算数の 4 グループに分かれ、事前に用意されていた指導案を参考に授業を見学した。授業終了後は、見学した教科についての授業研究協議会に参加した。始めは、同校の教職員が授業中に撮影していた写真などを使用しながら授業のフィードバックをしている様子を見学した。その後、韓国教職員から「問題はどのように作るのか」、「学習の目的が明快であった」、「児童の集中力がすばらしかった」など、授業に対する質問や感想があり、両者にとって教育を振り返る有意義な時間となった。

一行は会場に戻り、渡辺校長より、「アジアをリードする、韓国と日本の人材を育成することを共に頑張っていきましょう」と最後のあいさつがあり、訪問団代表の石泉（ソクチョン）小学校校長の朴泰妍（パク・テヨン）氏が、「授業を公開してくださり感謝する。授業研究協議会を通して日本の教育を理解できたので、韓国でも生かしたい」と答礼した。最後に、張國洙グループ長より記念品が贈呈され、記念撮影をして同校をあとにした。

社会の授業研究協議会の様子
（狛江市立狛江第三小学校）

◆　日韓教育交流会

プログラム 5 日目の 1 月 21 日（土）10 時より、狛江市教育委員会教育部指導課指導主事の坂本尚毅氏の司会・進行のもと、狛江市立緑野小学校にて日韓教育交流会が行われた。狛江市の 9 校の小中学校から計 30 名が参加し、訪問団員と①教科横断型授業、②健康教育、③特別支援教育、④いじめ・不登校、⑤外国語活動・英語教育の 5 つのテーマ 10 グループでディスカッションを行った。

まず､5～6 人グループで各自が用意してきたシートをもとに英語で自己紹介・学校紹介をした。その後、それぞれのテーマについて①現状／成果および課題、②解決に向けて、③相手国の取り入れたい点を中心にディスカッションをし、模造紙にまとめた。休憩をはさみ、同じテーマのグループ同士での情報共有の時間を持ったあと、最後に他のグループの成果物を自由に見てまわる時間が設けられた。各グループの担当者が模造紙の近くに残りで成果についての説明を行い、交流会は終了した。交流会終了後も両国の教職員は同会場で一緒に昼食をとるなど親睦を深めた。

ディスカッションの成果を発表する様子

◆ お囃子鑑賞・情報共有会・ホームビジット

同日の午後、一行は狛江市中央公民館で狛江市の猪方はやし保存会によるお囃子を鑑賞した。狛江市には、数多くのはやし保存会があり、狛江市のお祭りや結婚式などでの公演を行い、伝統を守り活躍している。約 40 分の公演では、獅子がじゃれる様子や、子どもが演じるひょっとこの様子に、訪問団も心が和み、狛江市でどのように伝統が継承されているのかを肌で感じることができたようであった。その後に行われた情報共有会では、翌日の報告会に向けて、今回の訪日を通して得られた成果や学んだことについて振り返った。情報共有会が終わると、同会場にてホームビジットの対面式が行われ、2 人 1 組で各家庭を訪問した。ホストファミリーの中には、訪問校の児童の家庭も多くいたため、子どもたちや保護者の家庭での様子を知る機会となった。同日の 20 時になると、ホストファミリーとともに韓国教職員も笑顔で戻った。日本の家庭料理を食べたり、地元のスーパーへ一緒に買い物に行ったり、K-POP や韓国ドラマについて語り合うなど、あたたかいおもてなしを受け、各々思い出の時間を過ごした。

お囃子を鑑賞する訪問団（狛江市中央公民館）

B グループ：千葉県八千代市

汝矣島（ヨイド）中学校の校長、宣鍾福（ソン・ジョンボク）氏をグループ長とするBグループは、1月19日（木）から21日（土）までの3日間、千葉県八千代市を訪問した。同市教育委員会の協力により、小学校1校、中学校1校、大学1校に加え、国立歴史民族博物館を訪問した。

◆ 秀明大学

1月19日（木）午後、一行は秀明大学を訪問した。同校は、優れた人物を育成し国家の反映を図ることを目的に、「常に真理を追究し、友情を培い、広く社会に貢献する人間形成を行う」という建学の精神と「知・技・心の調和のとれた人材を育成する」という教育目標を掲げ、1988年に開学した。現在、学校教師学部、総合経営学部、英語情報マネジメント学部、観光ビジネス学部の4学部で構成されているが、2017年4月より看護学部を新たに開設する予定になっている。

学校到着後、はじめに学校教師学部学部長の近藤公一氏より歓迎のあいさつがあった。近藤氏は、「限られた時間ですが、学部紹介や、授業見学、そして今春4月より教壇に立つ4年生への質問を通して、学校教師を養成する本学の特色をご理解いただきたいと思います」と述べた。訪問団を代表して鹽光（ヨムグァン）中学校校長の李炳坤（イ・ビョンゴン）氏が、「今日、ここで学んだ内容をもとに日本の教育の良い部分を韓国で共有することで両国の発展に寄与したいです」と答礼を述べた。続いて、記念品交換が行われた。学校説明では、高い教員就職率を誇る同校がどのようにその成果を出すことができたかについて説明があり、47都道府県および20政令指定都市の求める教師像の共通項である「教育に対する使命感・情熱」、「豊かな人間性・社会性」、「確かの専門的知識」、「実践的指導力」を伸ばすための同校のシステムが紹介された。また、同校の特色である「生きた英語力の育成」および「海外教育視察研修」の事例が紹介された。そのあとの授業参観では、初等教育課程論、法政治学概論、教育基礎論、環境生物学を参観したほか、施設見学として理科実験室および教職支援センターを見学した。質疑応答では、4月から教壇に立つ同校の学生も参加した。近藤氏に対しては、「養成している教職員の校種について」、「志望校種の比率について」などの質問があがり、学生に対しては、「4年制大学卒業後、すぐに教員に採用されるのはどれだけ難しいか」、「文化祭など学校生活で楽しい行事はあるか」などといった質問があがった。質疑応答終了後、記念撮影を行い、一行は同校をあとにした。

学生の話に熱心に耳を傾ける訪問団（秀明大学）

◆ **八千代市市長・教育長表敬訪問**
西八千代調理場見学
八千代市オリエンーション

同日、秀明大学訪問後、西八千代調理場2階会議室にて市長および教育長表敬訪問が行われた。まずはじめに、八千代市長である秋葉就一氏より歓迎のあいさつがあった。秋葉氏は、「大韓民国から来日された教職員の皆様，ようこそ八千代市にお越しくださいました。心から歓迎申し上げます。」と述べた。続いて、八千代市教育委員会教育長の加賀谷孝氏があいさつを行い、歓迎の意を表すと共に、同市の特色である「子どもサミット」などを紹介し、結びに、「このプログラムを機に、大韓民国と日本の友好がさらに深まることを祈念します」と述べた。次に訪問団を代表してグループ長の宣鍾福（ソン・ジョンボク）氏が、「日本との協力を通して両国の文化交流が活発になり、友好関係が続いていくことを願っています」と答礼を述べた。その後、八千代市教育委員会からの出席者の紹介、訪問団の紹介を挟み、秋葉氏と宣鍾福氏による記念品交換を以って表敬訪問が終了した。

続いて、会場である西八千代調理場の施設見学が行われた。荷受室、検収室、下処理室、上処理室、揚げ物・焼き物・蒸物室、煮炊き調理室、和え物室、果物室、アレルギー食調理室、消毒保管・配送室、洗浄室などについての説明を聞き、実際に見学を行った。韓国ではこのような給食センターが一般的ではなく、教職員からは費用や運営などについて多くの質問があがった。

会議室に戻り、八千代市オリエンーションが行われた。子どもたちの可能性を引き出す取組みや「学ぶ意欲の向上」のための取組みが紹介された。また、教育を核とした地域社会の構築の例として、学校支援地域本部の設置の推進や子どもサミット・教育サミットなどの紹介があった。このほか、学校規模の適正化に関する話や、英語で図工を行うイマージョン授業の映像の視聴などがあった。説明終了後の質疑応答では、「小学校の統合の過程について」、「イマージョン授業を行う教員の英語能力向上のための教育委員会からの支援について」、「不登校の生徒および対策について」、「給食などで食中毒が発生したときの対応について」など多岐にわたる質問があがった。

秋葉市長（前列左から 4 番目）、宣鍾福グループ長（前列左から 5 番目）、加賀谷教育長（前列左から 6 番目）を囲んで。

◆ **歓迎交流会**

同日午後 6 時半より、八千代緑ヶ丘Passoにて、歓迎交流会が行われた。八千代市教育委員会教育長の加賀谷孝氏、訪問団グループ長の宣鍾福（ソン・ジョンボク）氏のあいさつに続き、訪問校校長紹介が行われた。教育委員の石井伸一氏の乾杯のあいさつで楽しい歓談の時間が始まった。交流会の途中では、八千代市訪問中のボランティア通訳協力をいただいた東京成徳大

学の李允希（イ・ユニ）氏よりあいさつおよび同校の学生の紹介があった。続いて、韓国訪問団より八千代市立高津中学校教諭の谷脇光氏へのお礼の言葉が述べられた。谷脇氏は本プログラムと対を成す「韓国政府日本教職員招へいプログラム」に2015年8月に参加し日韓交流に興味を持ち、今回の受入れにあたり、高津中学校の生徒が作成した八千代市や千葉県、東京都の魅力やおすすめスポットをまとめたポスターを訪問団来日前にKNCU（韓国ユネスコ国内委員会）を通してすべての参加者にプレゼントしたことから、訪問団から歓迎交流会の場を借りてお礼を伝えたいとの申し出があり、この場が設けられた。その後、八千代市の若手教員による出し物が行われ、日本でも話題となったPSY（サイ）の『江南スタイル』のダンスが披露された。続いて、韓国教職員がトロット（韓国の演歌）の『南行列車』を日韓両言語で披露した。訪問団員のメンバーらが、韓国語の歌詞を日本語に訳したとのことで、八千代市の教員は熱心に耳を傾けた。最後に校長会会長の佐藤雅英氏より閉会のあいさつがあり、歓迎交流会は幕を閉じた。

『南行列車』を披露する訪問団（歓迎交流会）

◆ **八千代市立萱田小学校**

1月20日（金）、一行は八千代市立萱田小学校を訪問した。同校の校地には飼育舎、栽培園が続く「ふれあいの小道」、アスレチック施設を中心とした「ぼうけんの丘」、ポニーを飼育している「ボルピィ牧場」などがあり、情操豊かな児童の育成に努めている。また校舎にはオープンスペース、ランチルーム、屋上プール等の施設があり、これらの学校施設を利用した学習活動や学習形態の工夫に取り組んでいる。「次代に生きる国際人を育む」という学校教育目標のもと、伝えあい活動や課題解決活動など、アクティブラーニングを意識した授業実践に取り組み、研究実践テーマである「21世紀型能力を育てる授業の工夫」を実践している。

学校到着後、同校校長の宮崎芳雄氏より歓迎のあいさつがあり、「今回の訪問を通じ、文化や教育についての理解を深め両国の教職員の素晴らしい関係を築き交流の輪がさらに発展していくことを願っております」と歓迎の意を表した。続いて、訪問団から仁川萬寿（インチョンマンス）高等学校校長の李海景（イ・ヘギョン）氏が、「本日、萱田小学校を訪問して先生や児童と交流できることを非常に光栄に思います」と答礼を述べた。続いて両氏による記念品交換が行われた。2グループに分かれて行われた授業参観では、生活科、理科、音楽、家庭科、英語の授業を見学した。オープンスペースの教室を活用した授業を訪問団員は熱心に参観した。休み時間には、高学年の児童が低学年の児童と一緒に遊ぶボルピィ活動を見学した。その後、学校概要説明の時間が持たれ、同校の学校教育

目標、経営の重点、児童や職員の特徴、不祥事防止の取組み、保護者との連携、地域との連携、学力向上の取組み、食育、道徳教育などについて説明を受けた。質疑応答では、携帯の持参や体育の授業での服装、ボルピィ活動の効果などについて質問があがった。質疑応答終了後、一行は同校をあとにした。

家庭科の授業を見学する団員（八千代市立萱田小学校）

◆ 八千代市立萱田中学校

同日午後、一行は八千代市立萱田中学校を訪問した。平成3年に大和田中学校の分離校として開校した学校である。生徒数は893人で26学級ある、市内でも大規模な学校である。校舎内にはオープンスペース、武道場、屋上プールがあり、これらの学校施設を利用した学習活動や学習形態の工夫に取り組んでいる。「自ら考え、主体的に判断し，行動できる生徒の育成」という学校教育目標のもと、学力の向上・豊かな心の育成・活力のある学校づくり・教育を核とした地域社会の構築を重点目標に掲げ、取り組んでいる。

学校到着後、 同校校長の嶺岸秀一氏より、韓国語を交えた歓迎のあいさつがあった。嶺岸氏は結びに、「今回の交流が日韓両国の友好に役立てられれば幸いです」と述べた。続いて、同校の生徒代表からも歓迎のメッセージが述べられた。訪問団からは、泳熏（ヨンフン）国際中学校の黄聖希（ファン・ソンヒ）氏が答礼を述べた。そのあと、嶺岸氏と忠清南道教育庁の秋盛植（チュ・ソンシク）氏による記念品交換が行われた。学校概要説明では、部活動や修学旅行、学校行事やボランティア活動などのようすが写真と共に紹介された。また、嶺岸氏の「よい教師は説明する。優秀な教師はやってみせる。しかし最高の教師は子どもの心に火をつける」という言葉に訪問団員は感銘を受けたようだった。

昼食時には、各クラスに教師2～3名が入り、生徒と一緒に給食を楽しんだ。授業参観では、2つのグループに分かれ、家庭科・英語・数学・国語をはじめ、たくさんの授業を見学した。特にオープンスペースの活用に参加者は興味を示していた。帰りの会の見学では、給食時と同じ教室で帰りの会を見学したが、各教室では歌のプレゼントなど生徒からのサプライズがあり、訪問団が感動する姿が随所で見られた。部活動見学時には、運動部・文化部を問わず多くの部活動を見学し、特に吹奏楽部見学時には、楽しそうに楽器を演奏する生徒を見て、感涙する訪問団員の姿も見られた。質疑応答時間には、4つのグループに分かれて、少人数でのディスカッションが行われた。教員の1日のスケジュール、生徒への生活指導、生徒の放課後の過ごし方、進学についてなど様々な話題があがり、話し合いは盛り上がりを見せた。

すべての内容を終え、一行が同行を出発する際、生徒からの最後のサプライズが用意されており、階段に並んだ生徒たちに見

送られながら1階に下りると、待機していた生徒たちによる歌のプレゼントがあった。最初から最後まで感動の連続だった同校の訪問を終え、一行は別れを惜しみながら同校をあとにした。

少人数での質疑応答（八千代市立萱田中学校）

◆ 国立歴史民族博物館

1月21日（土）午前、Bグループ一行は、千葉県佐倉市にある国立歴史民族博物館を訪問した。日本の考古学、歴史、民俗に関する実物資料に加えて精密な複製品や学問的に裏付けられた復元模型などを積極的に取り入れた展示を見学し、日本の歴史と文化についての理解を深めた。

貴族の生活についての展示を見学する団員
（国立歴史民族博物館）

◆ 情報共有会・ホームビジット

同日、13時より訪問団による情報共有会が行われた。この情報共有会では、同日までに学んだことやそれぞれの感想が共有され、また、翌日の報告会に向けての準備が行われた。後半では、「訪問させていただいた学校になにかお礼がしたい」という団員のアイデアで感謝の気持ちを込めて歌を歌う様子を撮影し、後日、訪問校に送る準備もなされた。最後に、八千代市教育委員会教育長の加賀谷孝氏、学務課長の大澤紀子氏が会場に駆けつけ訪問団を激励された。

同日、15時10分よりホームビジットの対面式が行われた。ホームビジットの受入れ家庭は八千代市の教職員を中心に構成されており、本プログラムと対をなす、「韓国政府日本教職員招へいプログラム」の過去参加者などの姿も多くみられた。家庭訪問中、両国の教職員は、学校について、日本の家庭について、また互いの文化についてなど様々なことについて語り合い楽しい時間を過ごした。

C グループ：千葉県

松峴（ソンヒョン）女子高等学校校長の金玲補（キム・ヨンボ）氏をグループ長とする C グループ 39 名は 1 月 19 日（木）から 21 日（土）までの 3 日間、千葉県を訪問した。千葉県教育委員会協力のもと、高等学校 1 校、特別支援学校 1 校のほか、千葉県立中央博物館を訪問した。

◆ 千葉県教育長表敬訪問

訪問団は 1 月 19 日（木）の午後、千葉県庁を訪れ、教育長を表敬訪問した。千葉県教育長の内藤敏也氏は、「千葉県の教育、文化についてご理解いただくとともに、千葉県内の教職員や児童・生徒にも韓国の教育や文化について皆様から学び、相互理解を深めることを期待している」と訪問団を歓迎した。その後、訪問団を代表してグループ長の金玲補（キム・ヨンボ）氏が千葉県でのプログラムに期待を寄せる挨拶を返し、双方で記念品の交換を行った。同日の表敬訪問には、千葉県教育委員会の様々な部署の職員の方が臨席し、訪問団を拍手で迎えた。

その後、同会場で実施されたオリエンテーションでは、訪問団からの質問に様々な部署から専門の方が回答され、訪問団はとても感激したようすであった。

記念品交換の様子（左：内藤敏也氏、右：金玲補氏）

◆ 歓迎交流会

同日の午後 6 時半より、ポートプラザちばにて千葉県による歓迎交流会が行われた。各テーブルには訪問団のほか、千葉県教育委員会の職員や県内の教職員、そして韓国語を学んでいる大学生の通訳ボランティアが同席した。2016 年の夏に韓国を訪問した教職員も歓迎交流会に参加しており、半年振りの再会を喜ぶ姿も見られた。また、歓迎交流会の後半には、日本・韓国のそれぞれの教職員による出し物の披露もあった。まずは韓国の教職員が『さくらさくら』の歌と『アリラン』を扇の舞とともに披露した。伝統衣装を着用する参加者も多く、日本側の参加者からは「自分の学校の生徒たちにも見せたい」という声があがった。日本の教職員は『ふるさと』を披露し、和やかな雰囲気となった。その後、韓国側の参加者によるサプライズ・クイズ大会をはさみ、盛会のもと三本締めでお開きとなった。

訪問団による扇の舞と歌

◆ 千葉県立印旛特別支援学校

1 月 20 日（金）の午前中、訪問団は千葉県立印旛特別支援学校を訪問した。同校は昭和 55 年 4 月に、知的障害のある児童生徒の学校として開校した。全校児童・生

徒数は 232 名であり、「児童・生徒が希望の登校、満足の下校ができる学校」を目指している。

到着後、会議室にて訪問団の歓迎式が行われた。座席にはお菓子の袋と学校・地域を紹介する資料が置かれ、壁には韓国語で「印旛へようこそ！」のメッセージが書かれていた。歓迎ムードの中で校長の平山昌宏氏から挨拶があり、それに呼応する形で訪問団を代表し、安東永明（アンドンヨンミョン）学校教頭の権寧春（クォン・ヨンチュン）氏が感謝の意を述べた。

学校の概要説明・質疑応答を経て、一行は授業や設備の様子を見学した。ここではプログラムを通して随行する通訳者に加え、同校に通う韓国の生徒の保護者による通訳サポートがあった。充実した作業用の設備を見学した後、ある教室で「韓国の先生が来るから、習字で『韓国』と書いた」という生徒がおり、訪問団と習字の前で笑顔の記念写真を撮影する場面も見られた。

授業見学後は、体育館で児童・生徒との交流の時間となった。日本・韓国の国旗を手に持った生徒たちが訪問団を拍手で歓迎し、生徒会長のスピーチと記念品の交換を行った。その後、全校児童・生徒による歌（校歌と合唱曲『ビリーヴ』の 2 曲）と有志による和太鼓演奏のプレゼントがあり、感動した訪問団がサプライズで『さくらさくら』と『アリラン』をお返しに披露した。

その後会議室に戻り、昼食を食べながら教職員・保護者との交流の時間をもった。半日という短い滞在時間であったが、学校全体のあたたかいおもてなしに感謝しながら、訪問団は学校をあとにした。

歓迎メッセージの前で（千葉県立印旛特別支援学校）

◆ 千葉県立国分高等学校

同日午後、訪問団はユネスコスクールである千葉県立国分高等学校を訪問した。同校はユネスコスクールとして海外修学旅行を中心とした国際理解教育に加え、ESD（持続可能な開発のための教育）に取り組んでいる学校で、本プログラムと対になっている「韓国政府日本教職員招へいプログラム」に参加経験のある教職員も勤務している学校である。

到着後、会議室で歓迎式が行われた。まず、校長の田邊昭雄氏から歓迎の挨拶があり、訪問団を代表して長省（チャンソン）女子高等学校校長の張在晩（チャン・ジェマン）氏がそれに応えた。その後、両者の間で記念品の交換が行われた。

同校では訪問団のうち 9 名が、3 つのクラスに分かれて韓国の文化を紹介する授業を実施した。韓国では、プログラムの直後にお正月（旧正月）を迎える時期とあって、韓国と日本のお正月文化の比較や、お正月遊びの紹介を行った。生徒たちはみな積極的に参加し、似ているようで異なる、韓国のお正月遊びを楽しんだ様子であった。

文化紹介の授業と並行して、授業担当以

外の訪問団は高校1年生から3年生までの授業を見学した。「自身の勤務校と雰囲気が似ていて、親近感を感じた」という参加者も見られた。

授業の後は会議室に戻り、大塚雅信教諭が同校の ESD の取り組みについて紹介した。その後同校教職員との意見交換・質疑応答では、麗澤大学の韓基煥（ハン・ギファン）氏がバイリンガルの進行役を務め、「防災教育」「地域との連携」「いじめや校内暴力への対応」など忌憚ない意見交換が行われた。韓国は地震が少ないといわれていたが、昨年（比較的）大きな地震が起こったことから教育現場でも日本の防災教育に対して関心が高まっており、同校においてある防災用品のキットを興味深く見つめる参加者の姿があった。

韓国のお正月遊びを紹介する教職員（千葉県立国分高等学校）

◆ 情報共有会

1月21日（土）の午前中、一行はポートプラザちばの多目的ルームにて情報共有会を行い、翌日の報告のために発表準備をする時間をとった。報告会には日本側の関係者も参加することを念頭に置き、日本語の堪能な参加者がリーダーシップをとって準備を行った。

報告会のため、プログラムを振り返る訪問団

◆ 千葉県立中央博物館見学

同日午後、一行は千葉県立中央博物館を見学した。到着すると館長の中村祥一氏が韓国語で始まる挨拶を披露し、続いて博物館の説明が行われた。その後地域の学校との連携についても紹介があり、参加者からは博物館における教員の研修等について質問があがった。

この日、博物館には千葉県のイメージキャラクターである「チーバくん」が訪れていた。滞在を通して訪問団にはすっかりお馴染みとなったチーバくんの登場とあって、訪問団はとても喜んでいた。

特別展示の前で記念撮影（千葉県立中央博物館）

◆ **ホームビジット**

博物館見学後、宿泊ホテルのロビーにてホームビジット受入れ家庭との対面式を行った。ホストファミリーと面会した後、それぞれの家庭へ出発した。短い時間ではあったが、各家庭で食事をごちそうになったり、家の周辺を散策したりなど温かいもてなしを受け、日本の文化に触れることができた。受入れ家庭の多くが訪問校の教職員や教育委員会の職員であり、教員同士の会話は共通点も多く、盛り上がった様子であった。千葉県の郷土料理である太巻き寿司をご馳走した家庭も多く、訪問団はホームビジットの時間を大いに楽しんだ様子であった。

３.全体プログラム
（千葉県成田市）

1. 報告会（第 6 日）

プログラム 6 日目の 1 月 22 日（日）、A・B・C の各グループはそれぞれ滞在していた地域から成田に集まった。昼食を挟み、ホテル日航成田 1 階の会議室「大空の間」にて、報告会が行われた。式には訪問団の他、国際連合大学サステイナビリティ高等研究所事務局長の古田知美氏、文部科学省国際統括官付ユネスコ振興推進係長の岡本彩氏、今回の韓国教職員訪問にご協力いただいた教育委員会および学校の方々、過去の韓国政府日本教職員招へいプログラムで訪韓した日本教職員数名が日本側の来賓として出席した。

報告会では、各グループ代表より（逐次通訳を含み 20 分ずつ）プログラムの感想、成果等についての発表が行われた。各グループの報告は以下の通りである。

－A グループ－

A グループを代表し、吉州（キルジュ）小学校の教諭の崔娟實（チェ・ヨンシル）氏と安川（アンチョン）小学校教諭の盧姃姮（ノ・ジョンア）氏より、町田市立小山田小学校および狛江市でのプログラムについての下記のような発表があった。

- 町田市立小山田小学校では、児童が『アリラン』や『U＆I』を歌ってくれ盛大な歓迎を受けた。同校の特色は、「小山田学習」と呼ばれる、自然環境を活用した環境教育や地域と一緒に学ぶ食生活教育といった ESD 教育である。授業参観や給食交流、授業交流をし、児童・教職員と交流を深めることができた。
- 狛江市教育委員会では、有馬守一教育長を表敬訪問し、その後、狛江市の教育や歴史について紹介された。特に、同市の教育活動の展開について、小中学生のサポートや子どもの安全、学校運営支援や教員育成などについて紹介があった。
- 狛江市立第一小学校は、145 年の歴史を持つ学校で、地域と連携した日本文化の授業が印象深かった。児童は、地域の方から学んだ、琴の演奏や着物の着付け、茶道を紹介してくれた。また、両国の教職員交流では、地域の連携教育やサークル活動などについて、多様な意見を交わすことができた。
- 狛江市立緑野小学校では、まず、特別支援学級のえのき学級を授業参観した。その後、韓国の伝統衣装を着て 10 クラスで授業を行った。
- 狛江市立第三小学校では、同校の給食を体験し、数学・理科・社会・体育の授業参観し、その後授業研究協議会で日本教職員と意見交換をした。
- 日韓教育交流会では、両国の教職員約 70 人が 5 つのテーマ（授業横断型授業、健康教育、特別支援教育、いじめや不登校、外国語教育）について、課題を探し、協力的に問題の解決策を話し合った。
- 学校訪問の感想
  ①倹約的な生活…経済的に豊かに暮らす国の学校や生活の様子は、とても節約する姿が印象的だった。子どもたちは給食を残さずに食べるなど、環境保護と食品の大切さも実践していた。

②自分で考える授業…日本の学生は授業に積極的に参加し、自分で考えて、協力的に問題を解決していた。

③子どもの防災教育…日本は地震などの災害が多いため、自分で考え、自分自身を保護することができるように教育していた。

④生活指導…放課後、私たちの昔の姿のように、学生が熱心に掃除に取り組んでいた。

⑤地域と連携した伝統文化継承…地域連携が形式にとどまらず、地域の方々を講師として教育に活用し、彼らの伝統を後世に伝えていた。

報告会 A グループ

－B グループ－

次に B グループを代表し、世宗（セジョン）国際高等学校校長の金南訓（キム・ナムフン）氏が発表を行った。文京学院大学女子中学校高等学校と八千代市を訪問した B グループは、次のように発表した。

● **文京学院大学女子中学校高等学校**

過去の苦しかった時代を忘れないため、また、基本的かつ実用的な技術を身につけるため、毎週金曜日の朝、7 分間の運針の時間を 94 年間続けてきたということに驚かされた。また、ペン習字では年間 600 枚以上書くという点も印象的だった。高校では、3 コース制をとっているのもこの学校の特徴であると感じられた。また、韓国教職員が文化授業を行ったのも良い体験となった。

● 秀明大学

同校は、全国最高の教員採用率を誇る学校であり、厳格なルールと責任感を強調し、実習やグローバル教育を重視していることが印象的だった。

● 八千代市オリエンテーション

同市では学校が地域社会の中心的役割を担い、市と教育委員会が一致団結して学校を支援していることが感じられた。特に教育委員会の大澤紀子氏、種村保氏が期間中随行してくれたため、プログラムがより充実したものになったことに御礼申し上げたい。

● 八千代市立萱田小学校

雪が降る中訪問した八千代市立萱田小学校では、6 年生が 1 年生と一緒に遊ぶ「ボルピィ活動」を見学することができ有意義な時間となった。校長先生が毎日ホームページを更新し、広報の役割を担っているのも印象的であった。

● 八千代市立萱田中学校

最もユネスコ精神が感じられたのが八千代市立萱田中学校の訪問であった。生徒第一であり、生徒も自分がこの学校に所属しているという意識をきちんと持っており、また校長先生の教育への情熱のおかげで生徒たちがいつも明るく笑顔で積極的な姿勢で楽しく学校生活を送っているのが感じられた。オープンスペースの教室を上手に活用した授業、剣

道や合唱、ブラスバンドなど多様な部活動を見ることができ、良い機会となった。自分と同じくらいの大きさのチューバを上下左右に揺らしながら楽しそうに演奏する女子生徒、あまり目立たない楽器であるかもしれないが、それでも真剣にタンバリンを叩く生徒の姿から、自身の役割をきちんと果たすことを幸せに感じていることが伺えた。

最後に訪問の成果について以下のようにまとめた。

韓国では、伝統を守る活動が疎かになっていたり、基本的な生活ルールを守ることができていない点を反省した。帰国後、全国単位のネットワークで研究会を組織し、1学期に1回、Bグループ内のユネスコスクールを訪問し、交流を続けることを約束し合った。文京学院大学女子中学校高等学校訪問時に中高一貫部校長の南部和彦氏があいさつに引用したように、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というユネスコ精神を継承し、明るい笑顔と本当の涙を見せることのできる美しい青少年たちが、戦争や憎しみ、暴力がない世界を築き、平和と助け合い、人類共栄が永遠に続くのを手助けする教師としての役割を誠実に果たしていきたいと思う。教師の小さな実践が大きな変化をもたらすことと信じている。

報告会Bグループ

－Cグループ－

Cグループを代表し、鵲田（ジャクジョン）女子高等学校の閔庚姫（ミン・ギョンヒ）校長より、浅野中学・高等学校および千葉県でのプログラムについての発表がなされた。

- 浅野中学・高等学校では、図書館で行っている模擬国連の授業をはじめとしたグローバル教育を視察した。昼食の時間に直接交流した生徒たちの英語力とコミュニケーション能力の高さには、非常に驚かされた。大学進学に重きをおく、私立の一貫校としての教育を垣間見ることができた。
- 千葉県立印旛特別支援学校は、愛にあふれる学校であった。韓国と日本の国旗を持って訪問団を歓迎してくれた児童・生徒たち、昼食の時間に意見を交わした教職員・保護者との交流から、皆がひとつになって取り組んでいる学校であることを感じた。
- ユネスコスクール加盟校である千葉県立国分高等学校では、韓国の教職員による文化紹介の授業を行った。生徒たちが積極的に参加し、有意義な時間となった。

また、同校のESDの取り組み事例の紹介や、教職員同士の意見交換など、充実した時間を過ごすことができた。

- 千葉県立中央博物館では、館長が韓国語で挨拶してくださり、とても嬉しかった。博物館と学校教育との連携についても紹介があり、参考になった。
- ホームビジットでは、細やかに準備し、もてなしてくださった姿に感動した。ご家族だけでなく、友人が集まったり、勤務先の学校を案内してくれたりした。短い時間ではあったが、ホストファミリーのホスピタリティーを感じ、心からの交流ができた。

学校訪問やそのほかのプログラムを通して、日本は基礎を大切にしながらも、もてなしの心を忘れないという印象をもったと語り、プログラム期間中の写真をまとめた動画を流した。動画の終わりには、Cグループの参加者それぞれが日本語が一文字書かれた紙を持ち、「2017年、日本での冬は本当に暖かかったです。ありがとうございました、また会いましょう！」と伝えるメッセージで締めくくった。

訪問団からのメッセージ（Cグループ）

各グループの発表後、プログラムを契機に勤務校で日韓交流を推進している2名の教職員から、交流事例の発表があった。

発表を行ったのは、2015年に韓国政府日本教職員招へいプログラムに参加した狛江市立狛江第六小学校 校長の川﨑貴志氏と、同じく2015年に訪韓した東京都立石神井特別支援学校の町田直美氏であった。

―川﨑貴志氏の発表―

川﨑氏は、勤務校である狛江第六小学校が韓国の漁防（オバン）小学校と姉妹校の締結の仮調印を行ったことから、交流の経緯とアドバイスを述べた。狛江市教育委員会による韓国教職員招へいプログラムの受入れに伴い同校は、2015年、2016年と2年連続で教職員が韓国を訪問した。2016年の韓国政府日本教職員招へいプログラム中に知り合った漁防小学校の教員と交流が深まったことから、漁防小学校の管理職が狛江第六小学校を訪問することになり、交流が進み、姉妹校締結に至ったと述べた。

姉妹校締結までのアドバイスとしては、共通言語として英語を使用すること（英語での意思疎通が可能な教職員が担当に加わること）と、確実に連絡を取り合えるメールアドレスを複数交換しておくこと、一定の年数ごとに交流の意思を互いに確認することなどを挙げた。

川﨑氏の発表スライドの一部

―町田直美氏の発表―

町田氏は、プログラム参加後の勤務校での活動、および韓国の教職員と親交を深め、共同授業を行ったことを報告した。勤務校での活動としては、韓国で訪問した小学校の児童との手紙交換、日本の児童に韓国について紹介する「うりはな新聞」を発行し、その韓国語版を韓国に送ったこと、韓国から送られてきた児童の作品を勤務校の展覧会で展示したことを挙げた。

続いて、韓国の教職員との交流については、2016 年 2 月の韓国教職員招へいプログラムの際に実施した夕食交流会で知り合った教職員を訪ねて韓国を訪問し、学校に行ったり家族ぐるみの交流にまで発展したことを述べた。また、2017 年 1 月には、韓国の学校で共同授業を実施するに至ったことを写真とともに伝えた。

町田氏は、自身が韓国語を勉強し、韓国語でコミュニケーションをとっていることが交流の発展に寄与したことを伝えるとともに、韓国のことわざ「始まりが半分（何かを始めたら、それはもう半分達成したも同じ）」と「千里の道も一歩から」を引用しながら、まずは交流を始め、そして続けていくことの大切さを語った。

また、町田氏は過去に勤務校で掲示した新聞や交流の写真を持参し、報告会の後に行われた歓送レセプションの会場近くに展示した。訪問団のみならず日本側の参加者も非常に興味を持ったようすであった。

町田氏の発表

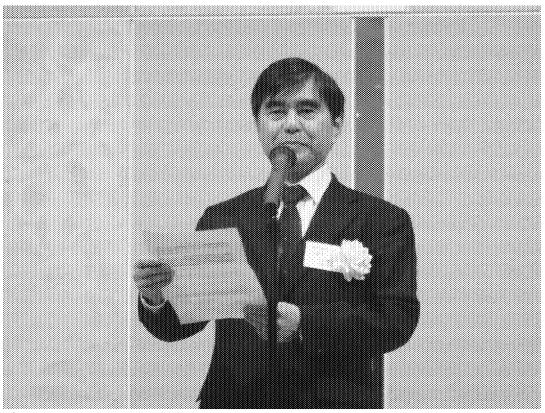
2. 閉会式

報告会の後、「鶴の間」にてプログラムの閉会式が行われた。最初に文部科学省国際統括官の森本浩一氏が、「日韓はたいへん重要な隣国であり、草の根で交流することが重要である。今回の訪日の経験を活かし、日韓交流を進めていける子どもの育成に努めていただきたい、次の世代の担い手となる子供たちの教育を担う先生方の役割は重いものである」と述べた。

続いて、国際連合大学サステイナビリティ高等研究所事務局長の古田知美氏が、「自身も A グループとともに狛江市立狛江第一小学校を訪問し、また報告会での各グループの報告を聞く中で、訪問団が学校や教育文化施設の訪問を通して、日本の学校教育制度や ESD の推進状況について多くのことを体験し、学んだことを感じ、嬉しく思っている。また、今回のプログラムで得られた日韓の教職員のネットワーク、交流の場を広げていってほしい」と述べた。

最後に、韓国教職員訪日団代表を代表して、韓国ユネスコ国内委員会政策事業本部教育チーム長の徐賢淑（ソ・ヒョンスク）氏よりあいさつがあり、「1週間という短い時間ではあったが、今回のプログラムは日本の教育と文化に対する理解を新しいものにする貴重な機会であった。このプログラムがこれからも続いていき、両国間の相互理解を深められることを願い、このプログラムの趣旨を生かすため、この場にいる全員が教育現場で大切な役割を担っていくことを期待し、信じている」と述べた。

その後、文部科学省と韓国教育部、国際連合大学と訪問団代表、ユネスコ・アジア文化センターと韓国ユネスコ国内委員会それぞれの間で記念品の交換が行われ、閉会式は幕を閉じた。

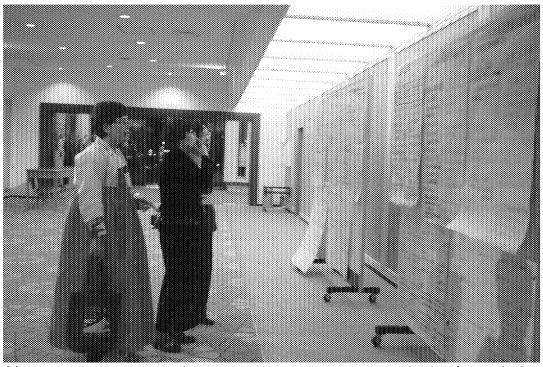

森本国際統括官の挨拶

国際連合大学の古田事務局長と韓国ユネスコ国内委員会の徐賢淑教育チーム長の記念品交換

3. 歓送レセプション

閉会式に続き同会場にて、歓送レセプションが行われた。公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター理事長の田村哲夫が、「次世代の人材を育てる教職員同士が、お互いに交流を深め、情報を交換し、啓発しあうことは今後の日本と韓国双方の教育の発展にとって意義深いことであり、ぜひ今回の貴重な経験をご帰国後に教育現場で生かしてほしい」と乾杯の挨拶を述べ、レセプションがはじまった。訪問団はお互いに一週間の思い出を語り合いながら、和やかな時間を過ごした。報告会や閉会式に続いて出席した日本側の参加者とも、数日振りの再会、あるいは韓国政府による日本教職員招へいプログラム以来の半年振りの再会を喜び合った。韓国で訪問した学校で出会った生徒が、長期休みに日本の学校を訪れたといった嬉しい報告もあり、場は大いに盛り上がった。食事や記念写真を楽しみながら、1週間のプログラムの締めくくりとなった。

記念写真を撮影する訪問団


歓送レセプション会場外に掲示された、日韓教育交流会議（A グループ）の成果物を見る訪問団

夏に韓国を訪問した日本の教職員との再会

第II章

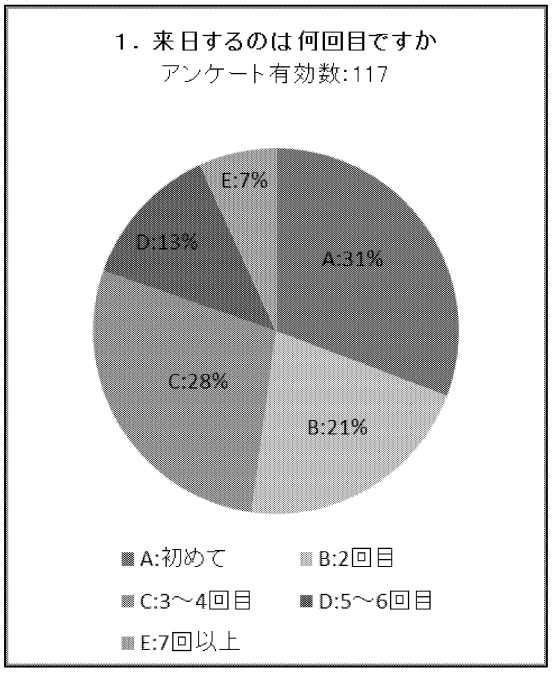
コメントと提案

1. 韓国教職員
2. 受入れ教育委員会
3. 主な受入れ学校および機関
4. プログラム運営担当者

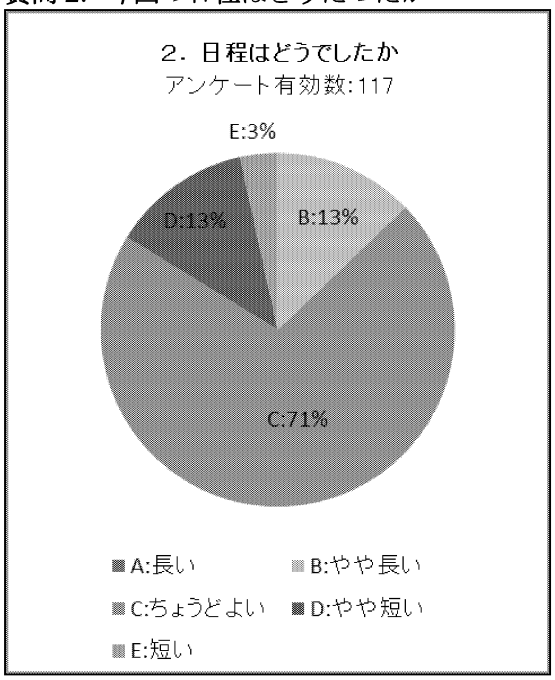
1. 韓国教職員

＊原文は韓国語。ACCU 翻訳。

質問 1. 来日するのは何回目か



質問 2. 今回の日程はどうだったか



【主な意見】

A-02　チャ・ジョン（ちょうどよい）
1 週間という期間は適当だが、各日のスケジュールは文化体験や休憩時間などを含めてほしい。

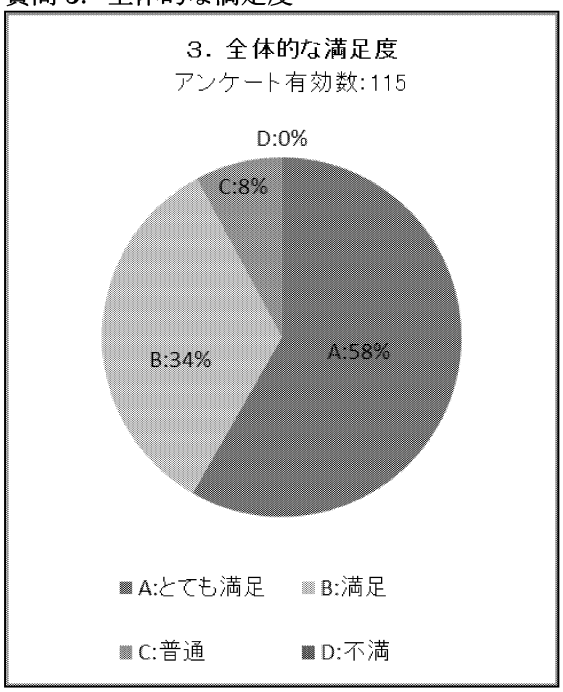
A-08　ホン・ギョンヒ（やや長い）
学校訪問が多いのは良かったが重複する部分も多く 6 泊 7 日間ずっと忙しい日程に追われ考える時間や若干の余裕を持つことができなかった。良い考えは十分な休息から生まれるため 6 泊 7 日の短くない旅程ならば 1 日ぐらいは美しい景色を見れる場所や博物館などで訪問国の歴史や文化を体験できればより実りのある訪問になったと思う。

A-10　チャン・グクス（ちょうどよい）
少しタイトな面もなくはなかったが両国間の教育を相互理解できる日程であった。

B-20　イ・ギョンファン（ちょうどよい）
小中高大のすべてを詳しく見学し日本の教育について討論するのに、適切な日程だった。国立歴史博物館の見学やホームビジットもできてよかった。

C-03　チョ・ジェスン（ちょうどよい）
学校訪問、交流、すべてが適切な時間と内容だった。朝食・夕食の時間を余裕のある休める時間にスケジュールしてくれたのも満足した体験に貢献したと思う。

質問 3. 全体的な満足度



【主な意見】

A-02　チャ・ジヨン（満足）
学校教育課程の運営にも特色の活用がよくなされている 4 校を訪問できてよかった。教職員交流もできてとてもよかったが、もう少し交流の時間があるとさらによかった。

A-05　チェ・ドゥルナム（満足）
プログラムが体系的によく準備されていたので訪問目的を充分に達成できた。プログラムだけでなく運営陣・添乗員・通訳・学校関係者・学生など会った人々が親切だったのが印象に深い。

A-08　ホン・ギョンヒ（満足）
まずこれほどきめ細かく学校訪問・授業見学・意見交流会などを企画し、提供していただいたことに感謝を申し上げる。特に授業参観と授業研究協議会、テーマを決めて意見交換をできたのが良かった。ただ日程がタイトだった。

A-10　チャン・グクス（満足）
両国間の教育への理解が深まった。両国の教職員の連帯が強化された。

A-11　チャン・ミョンス（とても満足）
1. 複数の学校を訪問できてよかった。
2. 授業参観、授業協議、テーマ別討論などを通じて日韓教育の相違点・類似点を理解できた。
3. ホームビジットを通じて日本の家庭生活と子女教育への理解が深まった。

B-20　イ・ギョンファン（とても満足）
プログラムが綿密でほぼ 100%計画通りに進行した。特に八千代市の関係者と訪問した各学校が丁重に訪問団を迎えて下さり、多くを学んだ。

B-31　パク・チャンイム（とても満足）
小中高大を訪問し日本の教育の現状と底力を知ることができた。

B-34　ソン・ジョンボク（とても満足）
家庭訪問。お互いの考えを感じることができた。

C-03　チョ・ジェスン（とても満足）
学校訪問時に充分な授業参観時間と質疑応答の時間があったことが見学と交流の満足度を高めたと感じる。

C-20　キム・スンジャ（とても満足）
日本の教育現場で韓国の現在の教育現場に取り入れたい部分を発見できた。現在韓国で実践している部分にもうまくやっているという自信も得ることができた。

C-32　ハ・スニョン（満足）
日本の小・中・高校の教育内容や教職員および生徒の学校生活を直接感じることのできる機会となった。スケジュールをこなすのが少し大変ではあったが、得るものが多いスタディープログラムだったと思う。

C-36　ソ・ドンシン（とても満足）
教育機関の訪問、学校訪問、ホームビジット、歓迎会、交流会などとてもよく構成されていて、内容もとてもよかった。

C-39　ユン・ヨンソン（とても満足）
プログラムを作った努力と情熱が感じられた。ホームビジットを受け入れてくれた家庭の情熱もそのまま伝わってきた。

質問 4. 参加目的は何か

【主な意見】

A-02　チャ・ジヨン
日本の初等教育がどのように行われているのかを知りたかったのと、日本の先生との交流を通じて持続的な意見交換や担当学級学生との交流についても考えてみたかった。

A-08　ホン・ギョンヒ
韓国ユネスコ国内委員会を通じて参加したプログラムなので、主に ESD、GCED、Children's right、多文化教育、EIU について協議し発表するものだと思っていた。しかしこうした部分も含んだ授業参観及び情報共有会まで含まれていたため教員にとっては非常に有益なプログラムだった。

A-10　チャン・グクス
日本での基礎・基本教育の方法の習得。日本の小学校の教育環境。

A-11　チャン・ミョンス
1. 日本教育の懸案と授業交流を通じて韓国教育を振り返る。
2. 平和と人権教育について学ぶ。
3. 日本家庭の生活と子女教育について知る。
4. 世界市民教育についてアイディアを得る。

B-20　イ・ギョンファン
日本の教育現場を見て私の学校教育の改善のための糸口を見つけたかった。また先進国日本の発展の秘訣が何なのかを知りたかった。

B-22　イ・ヒョンドク
ユネスコスクールの活動を積極的に支援しようと思い、外国のユネスコスクールの活動を見たかった。

B-26　イ・ギョンソク
ESD の事例をみて、自校でも実践すること。

B-29　ノ・ボクスン
1.ESD の成功例を学び共有すること。
2.日本の公教育と韓国の公教育での教育交流を通じた民間交流。
3.オープンさと多様性を尊重する上での世界市民教育の運営方案。

B-30　ジョン・インスク
日本の教育の現状を理解する。ESD の好事例を探る。

B-31　パク・チャンイム
ユネスコの価値と ESD、世界市民教育がどうやって実施されているかを知りたかった。日本の教育を通じてアイディアを得たかった。

B-34　ソン・ジョンボク
日韓の教育方法の比較を通じて長所を見つけ、交流を通じてお互いが発展すること。

C-02　キム・ギョンウン
環境教育、防災教育、平和教育の事例をみたかった。

C-05　キム・ビョンギュ
日本における学歴偏重の有無や学校生活に対する満足度を確認する。

C-20　イ・ギョンモク
隣国であるのにこれまであまりよく知らなかった日本の教育現場をみてみたかった。分かち合いや思いやりの教育について知りたかった。

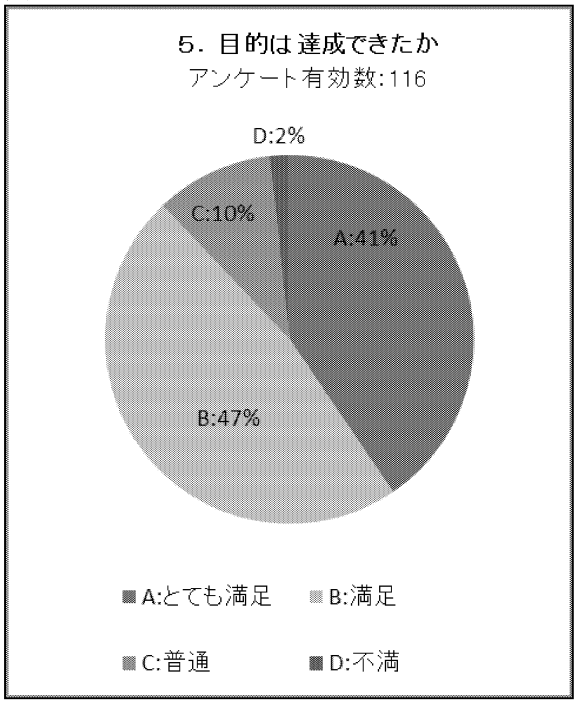
C-26　ジョン・ミギョン
日本の教育の潮流とユネスコの理念をカリキュラムに活かす方法を知りたかった。

C-32　ハ・スニョン
ユネスコの理念と ESD に関する理解を深め、韓国のユネスコスクールへの支援方法を模索するため。

C-35　パク・ジョンウク
世界市民教育の方向を知り、私の学校と他の学校の教育方法を違いを知りたかった。

C-36　ソ・ドンシン
1.日本の高校の世界市民教育、ESD の現状を知るため。
2.日本の高校での授業、学生の学校生活などの全般について知りたい。

質問 5. 目的は達成できたか



【主な意見】

A-02　チャ・ジヨン（満足）
複数の学校を訪問し日本の初等教育の現状を知ることができた。日本の先生との交流については、韓国の先生と議論する時間をもち 1 対 1 のマッチングを行なって、学校訪問や教職員交流会や歓迎会などの多くの時間を共にできれば、さらに意義のある交流及び持続的な交流が可能になったと思う。

A-05　チェ・ドゥルナム（普通）
初等教育の現状は十分に把握できたが中等学校の生活及び教授方法はスライドを通じて知れただけだったので、知りたいことが残っている。日程がタイトで疲れるため他の参加者と自由に話す機会があまりなかった。

A-08　ホン・ギョンヒ（とても満足）
目的以上のものを得ることができとてもうれしい。狛江市教育担当者、狛江市立狛江第一小学校、狛江市立緑野小学校、狛江市立狛江第三小学校の先生方のご尽力のおかげであり、非常にうれしく感謝でいっぱいだ。訪問がまったく教育だけに絞られたのは少し残念ではある。

A-10　チャン・グクス（とても満足）
学校訪問を通じて目的を達成できた。細やかなスケジュールで教育に対する理解が深まった。

A-11　チャン・ミョンス（とても満足）
1. 日韓の教育があまり変わらず類似点が多かったが、日本教育は教師と学生の関係を中心に授業が行われ、基礎の反復教育に忠実な反面、韓国はコンピューターに依存する授業が増えており残念だ。
2. 人権と生態教育がちゃんとなされており、韓国でも徐々にされているため、世界市民として育つのに希望が見えた。
3. 日本家庭の生活が謙虚で素朴だったのが印象的で、来客にオープンなのは簡単ではないはずだが、楽しく接してくれ、お互いに理解することができた。

B-20　イ・ギョンファン（満足）
基礎・基本に忠実で、伝統を重視し、未来に備える教育がきっちりと行われていることに大きな気付きを得た。ただ社会・文化・風土が違う韓国の教育現場でそのまま適用するには相当な困難が予想される。この困難を克服するよりも深く思慮して良い答えを探したい。民と官がそれぞれの役割を全うしている国だと感じた。

B-22　イ・ヒョンドク（満足）
ユネスコ活動よりも交流活動と日本教育を見るのも多く考えさせられた。日本人の日常生活と教育がユネスコの追及する理念と一致すると思う。

B-29　ノ・ボクスン（普通）
世界市民教育及び ESD の教育現場よりも日本教育の現場を見ることに重点が置かれていたため、世界市民教育について考えたり討論することができなかった。しかし、日本教育現況を見て韓国教育の様子を反省し補完できる余地を把握する契機になった。

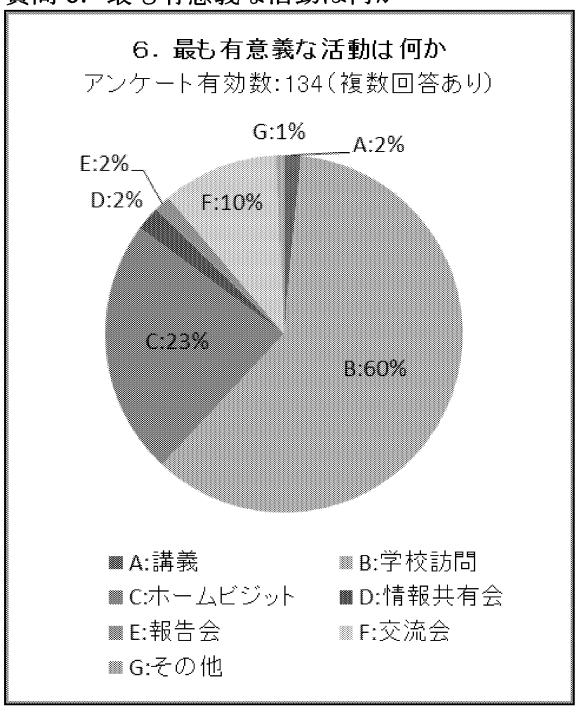
B-31　パク・チャンイム（普通）
訪問する学校ごとに校長の教育哲学で学校運営が実施されているように感じ、特別にユネスコ活動や世界市民教育、ESD が強調されておらず、校長の教育方針が重視される傾向があった。

B-34　ソン・ジョンボク（とても満足）
ホームビジット時に対話を通じてお互いに共感した。

C-03　チョ・ジェスン（満足）
1.基礎と基本教育の充実さ。2.質素な生活。3.小さなことにもきめ細かく、計画通りに実行し、記録も誠実に行う。4.教師の権威。

C-36　ソ・ドンシン（とても満足）
1.授業や生活指導など学校生活の全般が基本に忠実だという感じを受けた。
2.ESD 教育が名ばかりのプロジェクトでなく、すでに実生活で適用されているのを見ることができた。

質問 6. 最も有意義な活動は何か



【主な意見】

A-02　チャ・ジョン（交流会）
交流会を通じて教員としての悩みについて虚心坦懐に話せたことで、より深層的な対話が可能になった。（ホームビジット）ホームビジットを通じて実際の日本の学生の家庭教育について知ることができ、日本の家庭でも韓国について関心があったため文化交流をたくさん行えた。

A-05　チェ・ドゥルナム（その他: 授業公開）
公開授業で日本教育の現状を討論する機会があり、教諭協議会の過程から韓国にも生かせるヒントを得た。協議会で交流する時間がもっと長ければよかった。

B-20　イ・ギョンファン（ホームビジット）
日本の家庭生活を体験し、今日の日本の発展の根幹と底力がわかった。他者に配慮し、清潔で、素朴な姿に、審美的な印象を持った。

B-22　イ・ヒョンドク（学校訪問）
学校訪問で日本の教育の多くを見学し韓国の教育を振り返るきっかけになった。たくさん考えさせられた。ホームビジットも日本の生活像をのぞける貴重な時間だった。

B-29　ノ・ボクスン（学校訪問）
実際に日本の学校に訪問する機会は普段個人的にはない。学生の教育活動の様子を色々と見ることのできる貴重な体験だった。

B-31　パク・チャンイム（学校訪問）
八千代市立萱田中学校では学生の基本生活教育にとても忠実な学校運営がなされていて、学生・教師ともに渾然一体となり校長の学校運営に協調していた。感動的な学校訪問だった。

B-34　ソン・ジョンボク（ホームビジット）
日韓の家庭教育の長所・短所を共有できた。

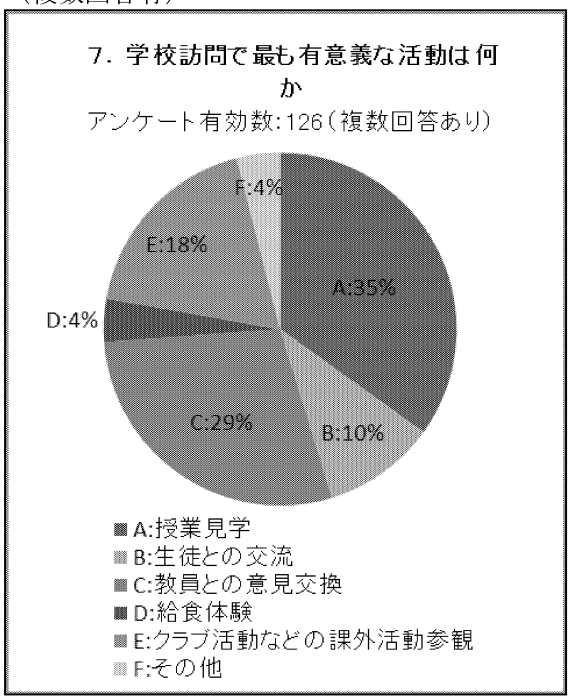
C-20　キム・スンジャ（ホームビジット）
日本の家庭の姿を見ることができ、温かさを感じることができた。日本をより理解する契機になった。学校ではユネスコの理念を実践する教育の現場を見ることができた。

C-21　キム・ヨンボ（学校訪問）
学校の実際の教育活動を学び、韓国の学校で適用できるから。

C-36　ソ・ドンシン（学校訪問）
私立の学校、一般的な公立高校、特別支援学校などいくつかの学校を訪問し、各学校の教育活動を直接見て感じることができた。

C-39　ユン・ヨンソン（ホームビジット）
家庭訪問は本当に予想だにしない期待以上の日本の教科教育・家庭教育の状況を詳しく知ることができ、個人的に最も満足した活動だった。交流会も少人数で対話することができ、多くのことを共有できる時間だったのでよかった。

質問 7. 学校訪問で最も有意義な活動は何か
（複数回答有）



【主な意見】

A-02　チャ・ジョン（生徒との交流・授業見学）
日本の学生は韓国文化に触れる機会が多くないのに韓国語・国旗・アリランなどの歌を通じて韓国文化を知ろうとするのが伝わってきた。韓国文化・遊びをとても積極的に学ぼうとする姿を見ることができてよかった。
また、日本の先生の授業と授業後の協議を見学して、日本から学ぶべき点や韓国がリードしている点を一緒に話すことができ、日本の先生と共感することができたのがよかった。こうした時間がプログラム内でもっとあればよかった。

A-05　チェ・ドゥルナム（教員との意見交換）
実際の教育活動を担当している校長・教頭・教師の考えと意見を聞きお互いの意見を交換することで両国の教育の現状への理解がより深まった。「見えるままに」でなくそれ以上の「発展可能な」潜在力を発見できた。教師の基本生活教育への徹底した指導をもとに日本国民の勤勉さと環境を保護する国民性を垣間見られた。

A-08　ホン・ギョンヒ（教員との意見交換）
授業参観は学生の日常の学習生活及び学習態度を観察するのに難しい点がある。たとえば日常では先生が学生の注意喚起や指導に困難を感じることもあるが公開授業では自然に楽に学生をコントロールできるからである。そのため日本の先生と関心のあるテーマについて細かくありのままの現状とその問題点・補完点・示唆点について意見・情報を交換できたのが良かった。

A-10　チャン・グクス（給食体験）
低学年が自ら給食配膳することや、靴箱が整理されていることなどが印象的だった。

A-11　チャン・ミョンス（授業見学）
日本の先生の授業の方法と進行について観察することでICT教育に依存した授業進行に対して反省する機会になり、良い授業に対するアイディアを得る良い機会だった。

B-20　イ・ギョンファン（クラブ活動等の課外活動参観）
韓国教育の問題点(私教育の蔓延・教科教育外の活動の貧弱など）への代案を発見できた。特に剣道・バレーボールなどのスポーツ活動と音楽教育が日常的に行われているのが印象的だった。

B-22　イ・ヒョンドク（教員との意見交換）
日本の教育制度など気になっていたことを確認できた。日本の教育環境、学生と教師の様子などを見られてとてもよかった。

B-29　ノ・ボクスン（授業見学）
日本教育の様子を見て感じることができ、秩序、礼儀、清潔指導の結果が一目で分かった。授業の様子、授業内容、授業中の学生の参加度は韓国がはるかに進んでいることがわかり、日本の講義中心、一括指示中心の授業よりも学生主体の教育を重視する韓国の教育がはるかにリベラルだと思った。

B-31　パク・チャンイム（給食体験）
担任の先生と一緒の落ち着いた給食時間は、韓国の給食と非常に対照的で、学生個々人が自らやるべきことをやる姿、残飯整理、食器の整理などをする姿が非常によかった。すべての学生がハンカチを持ち歩き、周囲の清潔のために努力する様子が見られた。部活動では、ブラスバンドの演奏や剣道の練習を見て、熱心に取り組む学生の様子は身震いを覚えるほどだった。日本人の底力、団結など、ノー

ベル賞受賞者が多い理由がこうした教育から出るのではないかと思った。

B-34　ソン・ジョンボク（教員との意見交換）
日韓の教職員の立場・責務などを知ることができた。

C-21　キム・ヨンボ（授業見学）
日本の高校の授業の構成と進行を理解し、韓国の教育と比較することができたから。

C-20　キム・スンジャ（授業見学）
印旛特別支援学校を訪問し感動した。児童・生徒と一体になり教育している教師の姿勢が涙させた。教師の明るい表情、児童・生徒の幸せな顔がすべてを物語っていたと感じた。派手ではないが、素朴で子どもたちの視線に合わせた教育を見ることができた。

C-35　パク・ジョンウク（教員との意見交換）
学校教職員との対話はとても役に立った。対話を通じて、校内の見学だけでは把握しきれなかった教育活動に関する疑問を解消できた。

C-36　ソ・ドンシン（教員との意見交換）
授業がすでに準備されていたり、脚本があるのではなく、普段の授業を見せてくれたと思うが、基本に忠実な授業だと感じた。浅野中学校 2 年生の教室で世界地理と古典文法の授業を参観した。中学校 2 年生の国語の授業で古典文法を習うという事実が驚きだが、生徒全員が古典文法の詩を準備してきたことにもっと驚いた。現代国語だけでなく古典の勉強を通じ自国語に対する愛着を育てられるのではないかと思う。

質問 8. 他にどのようなプログラムがあったらよいか

【主な意見】

A-02　チャ・ジヨン
1 対 1 のマッチング交流（趣味・学年・教育活動で関心のある分野などを考慮してマッチング）。プログラム中の交流会や歓迎会でもこうしたマッチングがなされるとよかった。

A-05　チェ・ドゥルナム
4 校を少しずつ訪問するよりも 1、2 校を訪問して公開授業・教師協議会・給食体験・部活動などすべての活動をする方がお互いのためになるのではないか。疲れないようにスケジュールを立てれば高齢の参加者もより積極的に参加できるのではないか。

A-08　ホン・ギョンヒ
生徒同士の手紙交換、小さなプレゼント交換を通じた友達作り。
両国の各学校の教科研究チームの先生との相互情報交換（関心のある科目であるため互いに情報交換しやすいと考えられる）。

A-10　チャン・グクス
日本の文化体験、日本の保護者や児童・生徒と対話する時間がもっとあるとよかった。

A-11　チャン・ミョンス
授業協議会と意見交換会の時間をもう少し増やしてほしい。

B-20　イ・ギョンファン
日韓両国の個々の学校の教職員間の教育活動がよりよい教育交流になれると思う。

B-29　ノ・ボクスン
テーマのある両国の教師討論会。日本文化（音楽会・伝統芸能・舞踊・文学・映画など）体験と質疑応答の時間。

B-31　パク・チャンイム
学校全体の紹介も意味があるが、ユネスコ活動をする教師、国際理解教育に携わる教師がお互いにグループになり、討議をしたり、アイディアを共有したりする活動が追加されるとよいと思う。

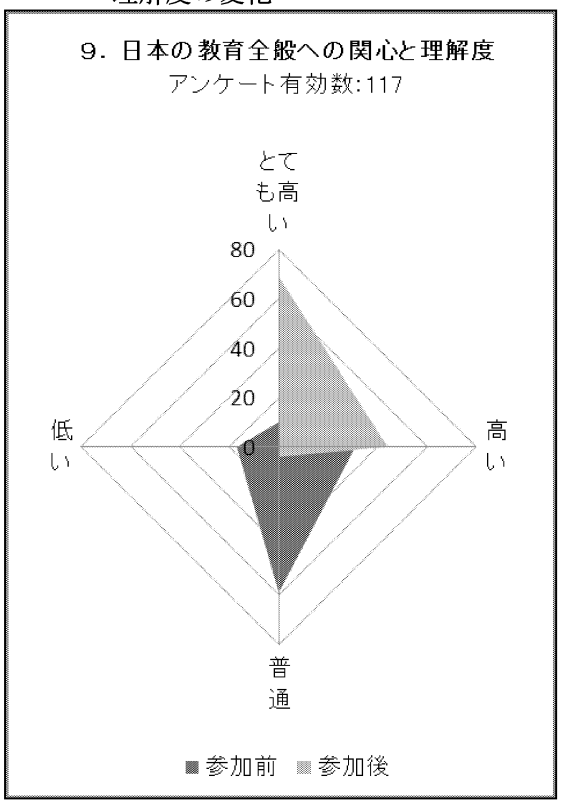
C-03　チョ・ジェスン
「平和」のような人類の普遍価値をテーマにする授業。討論などをして一緒に実践できるものを見つけられるとよい。

C-20　キム・スンジャ
公式的な日程のほかに自由に日本を体験できる時間があればよかった。

C-21　キム・ヨンボ
日本の教職員と情報共有および意見交換が可能なスケジュールが必要。

C-35　パク・ジョンウク
この日韓交流事業の回数を、予算の許す範囲で、もっと増やすといいと思う。

質問 9．日本の教育全般への関心と理解度の変化



【主な意見】

A-05　チェ・ドゥルナム（普通→とても高い）
韓国の教育は 1990 年代まで日本教育の影響を強く受け日本式の教授方法を採用していたが、欧米（特にフィンランド）の教育を導入し教授方法と教育環境が内容よりも形式にフォーカスされるようになった。短期間に教育環境が変化したことで教師・児童・生徒・保護者は混乱している現状であるが、一方で日本は新しい革新的要素を取り入れるよりかは基本教育に忠実だということが分かった。韓国の教育も「新しいもの」より内容を強化する必要がある。

A-08　ホン・ギョンヒ（とても高い→とても高い）
個人的に何度か訪日したがいくつもの教育機関を訪れて日本の学校生活・学校環境・追及する教育目標及び人間性についての理解を深められる貴重な体験であった。デジタルとアナログが共存する学校生活、学生の生活態度、掃除する姿、きれいなトイレなどが印象的だった。

A-10　チャン・グクス（高い→とても高い）
教育環境がとても良いと思ったが、先進国に比べて ICT などの教育施設などが充実していない。だが思考・創意的授業活動がなされていた。

A-11　チャン・ミョンス（普通→高い）
基礎・基本に忠実な教育活動に大きな関心が生まれ、もっと知りたくなった。

B-20　イ・ギョンファン（高い→とても高い）
各学校の授業と学生活動の具体的な場面を詳しく見ることができ、理解度が高まった。

B-22　イ・ヒョンドク（高い→とても高い）
このプログラムに参加する前にも交流を通じて日本の教育について関心が高かった。毎回感じるが、伝統の強調、秩序、社会的規則に対する尊重、基本的な生活習慣に対する徹底など韓国が参考する点が多いと思う。日本に対して持続的な関心と研究が必要だ。

B-29　ノ・ボクスン（高い→とても高い）
日本教育の長所短所をしっかりと把握してみることがまず重要であり、それから韓国の教育に取り入れられる部分を考えるべきである。今回の交流を通じて見た学校の教育内容を日本教育の全容だと判断することは危険なため、関連書籍やインターネットでより研究する必要があり、日本の教育についての研究意欲が高くなった。
未来の主人公である両国の青少年が健康で望ましい友好関係を維持し、世界市民的な側面で全地球的な問題を解決し、生きていける能

力を育てる教育が重要であり、民間での持続的交流を広げる必要がある。

B-31　パク・チャンイム（普通→とても高い）
児童・生徒の教育のため情熱を傾ける日本の先生の誠実さに驚き、韓国の先生がたくさん学び、交流をして、発展のために努力しなければならないと思った。

C-03　チョ・ジェスン（普通→高い）
1.教員の職務に対する誠実さ。2.秩序だった教育および生活。この二つをどうやって韓国の教育に反映できるだろうか。

C-20　キム・スンジャ（低い→とても高い）
隣国である日本に対して漠然とした拒否感がなくなるきっかけになった。さらに交流が増え、お互いが役に立てる関係に発展することを願う。日本の教育の長所を見ることができ、韓国の教育の長所も広く知らせられる機会があるとよい。

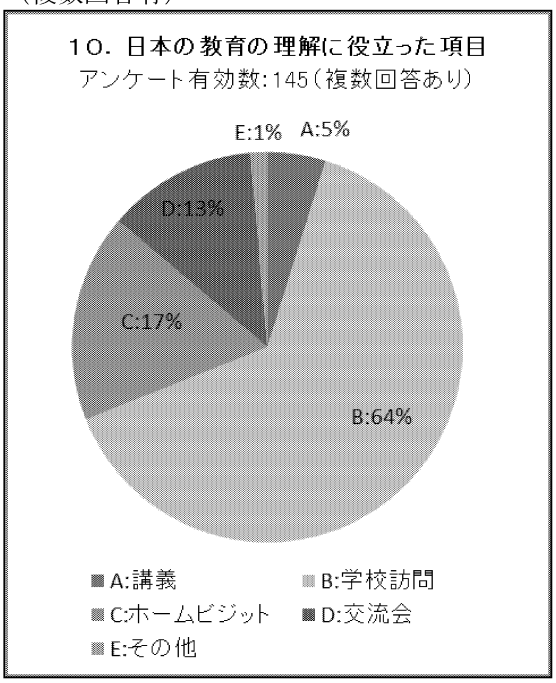
C-21　キム・ヨンボ（高い→とても高い）
日本の教育を理解し、教育の重点と目標を把握することができ、日本の教育への関心と親密度が高くなった。

C-35　パク・ジョンウク（高い→高い）
日本の教育は変化を追及しながらも、伝統の価値を非常に重要に考え、哲学のある、つまり生徒指導に対する国家的次元で合意された哲学が核心に存在する教育だと思い、韓国の教育の変化を振り返るきっかけを与えてくれるように思えるため、関心が高い。

C-36　ソ・ドンシン（とても高い→とても高い）
日本語教育の専門家であるため、いつも多大な関心を寄せてきた。しかし、実際の授業参観と学生・教師との対話及び交流は久しぶりだったのでことさらその意味が響いた。

C-39　ユン・ヨンソン（低い→高い）
日本の教育に漠然とした情報と正確ではない内容だけ知っている状態で本プログラムに参加したが、実際に見学しながら日韓両国の教育的視点と準備していく方向には類似点と相違点があることを確認した。単純にどの国家の方法の長所短所を考えるよりも、お互いの違いが生まれた根本的な理由と今後の方向についてもう少し理解しようという努力の時間と考えをもてた 7 日間だった。

質問 10. 日本の教育の理解に役立った項目
（複数回答有）



【主な意見】

A-02　チャ・ジヨン（学校訪問）
学校授業見学、施設及び学習活動の成果物の展示を通じて日本の教育について理解することができた。

A-05　チェ・ドゥルナム（学校訪問）
百聞は一見にしかずということわざの如く、実際に見て感じて考える良い機会だった。授業に参加し児童を理解する機会が与えられ、未来の世代は日韓両国を発展させせられる Win-Win 教育を実践しなければならない時期だと考えた。

A-08　ホン・ギョンヒ（学校訪問）
学校を訪問し生徒の学校生活、授業・給食・掃除、そして各特別教室の状況を見ることができとても有益だった。特にすべての学校で、ひとりひとりを大切にする教育が強調されていたのが韓国と同じ流れであり共感した。

A-10　チャン・グクス（学校訪問）
基礎・基本教育の充実。内実のある教育。保護者の支援が積極的である。

A-11　チャン・ミョンス（ホームビジット・交流会）
日本の家庭教育・生活についての理解が深まった。交流会では、日本の教師の授業・業務・学校生活についての理解が深まった。

B-20　イ・ギョンファン（学校訪問）
児童・生徒の日常生活と授業の様子、また多様な部活動を見ることができ、日本の教職員との対話も理解に役立った。

B-22　イ・ヒョンドク（学校訪問）
小中学校の訪問は初めてで印象深かった。教科書を実際に手にすることができ、学級環境、ともにした食事、校長先生の影響が学校をどうやって変えるのかについて、具体的な実例を知ることができた。

B-29　ノ・ボクスン（学校訪問）
学校訪問により学校施設・学校組織・学校経営方式・学校と児童・生徒の関係などをよく観察できた。ホームビジットでは日本の教員の私的空間である、家庭の雰囲気、生活文化を体験できた。

B-31　パク・チャンイム（学校訪問）
学校訪問をし、校長の学校経営哲学、学級目標などの価値を守るため努力する校長と先生、学生の努力を見て、基本を守り、伝統を重視する教育の重要さを知った。

C-20　キム・スンジャ（学校訪問）
見せるための授業ではなく、ありのままの授業を見、基本教育に忠実な日本の教育に大きな拍手を送りたい。特に、礼儀・節約・整理整頓を当然視する教育がうらやましかった。

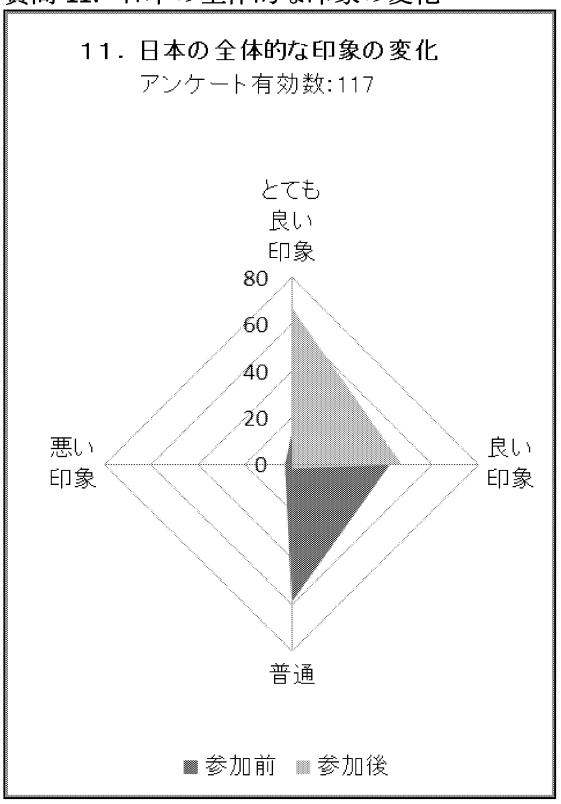
C-21　キム・ヨンボ（学校訪問）
学校の教育課程の運用、授業、学生活動の実態を学べた。

C-35　パク・ジョンウク（学校訪問）
特別支援教育について広く理解することができた。統合教育ではない特別支援学校での特別支援教育について理解することができた。

C-36　ソ・ドンシン（学校訪問）
理論として聞くより実際の教育現場を見ることができてとても役に立った。

C-39　ユン・ヨンソン（交流会）
少人数で行われた交流会はもっとも身近で正直な話をすることができてよかった。やはり大人数だと個々人の意見を交換するには困難が伴うため、個別で行われたホームビジットもよかった。

質問 11.　日本の全体的な印象の変化



【主な意見】

A-02　チャ・ジョン（普通→良い印象）
韓国に対して関心をもち好意的な態度で歓迎してくれた姿に良い印象を持った。

A-05　チェ・ドゥルナム（良い→とても良い印象）
正確にはわからないが、日本人の礼儀や他人に迷惑をかけないようにするところが良かった。プログラムを通じてより深く日本を理解し日本人との交流を持続的に実施したいと思った。(歴史や政治ではなく個人同士が互いに理解し合うきっかけになった)

A-08　ホン・ギョンヒ（とても良い→とても良い印象）
経済大国であり、スポーツ強国でありながらノーベル賞受賞者を多数輩出している国だが、

ある意味韓国よりも遅れた方式（手で床の雑巾がけをすることや、古い施設を使っていること）を固守していて、生徒に基本生活の礼儀を教える点がとても印象的だった。

A-10　チャン・グクス（良い→とても良い印象）
親切さが身に染み込んでいる。ごみの分別が生活化されている。

A-11　チャン・ミョンス（普通→良い印象）
質素、謙遜、基本生活習慣がよく身についている。

B-20　イ・ギョンファン（良い→とても良い印象）
みな優しく親切で、真心こめて訪問団を受入れ、それぞれのプログラムも誠意を持って実施してくれたことによりよい印象を持ちました。特に家庭に招待してくださった萱田小学校の長坂先生の厚意に感激した。

B-22　イ・ヒョンドク（良い→とても良い印象）
素朴な日常生活、実質的なこと（誇示・誇張がないこと）、他者に対する親切と配慮など毎回新しく感じる。

B-29　ノ・ボクスン（良い→良い印象）
彼らのおもてなしに対する手厚く心のこもった態度に感動した。政治とは別で個々人はとても礼儀正しく、時間をよく守り、やわらかい人々だと思った。全体的に、決められた型の中で、規則を最優先する姿が、少し自由さに欠け、心の余裕がないように感じた。

B-31　パク・チャンイム（普通→とても良い印象）
日本人はとても親切で誠実で目標に向かって最善を尽くす人々だと思う。

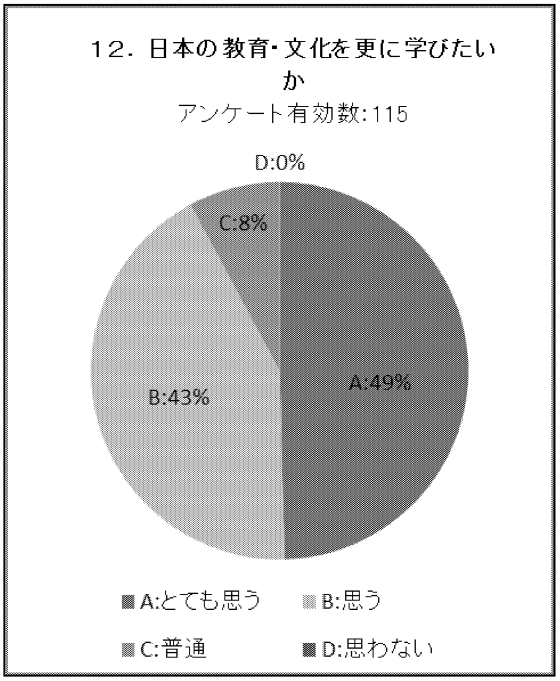
C-20　キム・スンジャ（普通→とても良い印象）
日本に対する漠然とした拒否感をなくす時間になった。隣国としてお互いに、拒否感を持たず、良い関係に変化してほしい。

C-21　キム・ヨンボ（良い→とても良い印象）
親切な態度が日常化されており、自分の責任をちゃんと果たそうとする気持ちがよく表れていた。

C-35　パク・ジョンウク（良い→良い印象）
親切で自身に与えられた仕事に対する責任感はいつも学ぶ点であり、良い印象である。

C-39　ユン・ヨンソン（とても良い→とても良い印象）
文化の多様性、自身の人生を構成する要素を考え、また認めるなら、ある国家・市民に対して否定的な印象を持つ必要はないと考える。しかし、初の訪日がこのプログラムを通じた訪問だったため、日本人の考えを、生き方を、実際に体験することができ、より良い印象を持つことができた。またプログラム中に出会った方全てがあたたかく、とてもよかった。

質問 12.　日本の教育・文化を更に学びたいか



【主な意見】

A-02　チャ・ジョン（思う）
算数の授業見学時、算数教科の団員構成及び学年別教育課程について知りたかった。（算数の原理・問題解決については理解できたが、これが教科書の内容に含まれているのか特別テーマの授業だったのか、連携する教育内容が何なのかを知る時間がなかったため）

A-05　チェ・ドゥルナム（思う）
言語を学ぶのが好きなので、日本の言語と文化、文学について理解を深めたいという気持ちが起きた。

ホームビジットを通じて日本の伝統的家庭ではなく、ある意味で西洋化された、一般的な家庭を見ることができて良かった。

A-08　ホン・ギョンヒ（思う）
まず言葉を学べばコミュニケーションできる機会が増えるだろうし、言語は文化の鏡であるから日本の文化をより深く学べるだろうと思い、日本語を勉強したいと思った。

A-11　チャン・ミョンス（とても思う）
基礎・基本教育に忠実な授業方法及び授業準備など。

B-20　イ・ギョンファン（とても思う）
日本の発展の原動力が教育にあると考えるからである。また個人的に日本文化に大いに興味があるから。

B-22　イ・ヒョンドク（とても思う）
日本に対して複雑な感情を持っていたため、これまで日本語を勉強してこなかった。このプログラムをきっかけに考えが変わり、初めて日本語を勉強しはじめた。個人的な感情や事実と、現状などを区別し、整理する必要がある。日本をより理解するために今後も日本語の勉強を継続する。

B-31　パク・チャンイム（とても思う）
まず日本語を勉強したい。日本文化ももっと体験し、日本について理解したい。それから日本の学校と交流もしたい。

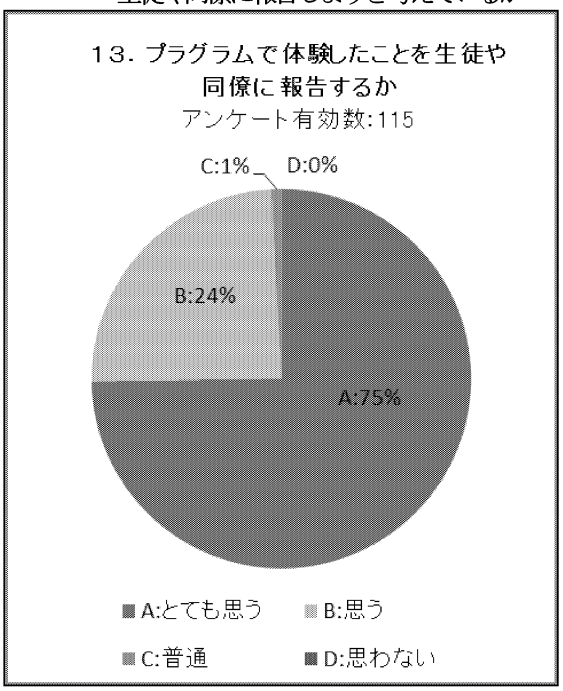
C-20　キム・スンジャ（とても思う）
伝統、基本を大事にする文化、他者を配慮する文化を学びたい。

C-21　キム・ヨンボ（とても思う）
日本の教育と文化の変遷と変化を知り、韓国の教育に適用したい。

C-35　パク・ジョンウク（思う）
伝統教育の教育方法と社会的な雰囲気（伝統を大事にする側面）を学びたい。

C-39　ユン・ヨンソン（とても思う）
両国の教育も差があると思う。良い悪いではなく、教育を通じて追求しよう、量産しようとする人材の違いがそのまま教育と教室に現れるのだ。この差を理解し今後未来を準備するのに教育を通じて両国のよりよい関係を作れるように今後も日本の教育について理解を高めたい。

質問 13.　プログラムで体験したことを生徒や同僚に報告しようと考えているか



【主な意見】

A-02　チャ・ジョン（とても思う）
地域の教師協議会で、今後参加を希望する学校の先生に参加体験を共有したい。
児童・生徒も日本に先入観を持ったり、日本のことをよく知らなかったりするという現状があるが、日韓は似ている部分が多く、日本の学生も韓国文化に関心があることを教えたい。

A-05　チェ・ドゥルナム（とても思う）
国家間の教職員の大規模な交流があまりない状況で、文化体験中心ではなく教育体験が中心のプログラムであるため教育者にとっては示唆が多いと思う。
学生の礼儀正しさ・授業への集中力は学生にとって充分に良い例として提示できる。
教師にはやはり基本教育を忠実に行えるように研修をする必要がある。

A-08　ホン・ギョンヒ（とても思う）
日本の学校環境、教師の公開授業、教科研究会の活動及び授業評価、児童・生徒の生活態度などを報告したい。

A-11　チャン・ミョンス（とても思う）
日本で学び感じた良いアイディアと授業などに関する内容を共有したい。

B-20　イ・ギョンファン（とても思う）
韓国教育の問題点を補完する鍵を見つけたと思う。

B-22　イ・ヒョンドク（とても思う）
ルールをよく守ること、素朴な日常生活、質素な食卓、他者への配慮、社会的規約の尊重など、これらすべては社会のためであり、結局思いやりは自分に戻ってくるということ。

B-29　ノ・ボクスン（思う）
世界市民教育の重要性の強調。日本についての正しい理解（建前だけの話ではなくて深みのある日本の教育現場の観察と韓国教育の発展・補完方法の考察。日本の学生と交流する方法の考案）。

B-31　パク・チャンイム（とても思う）
今回目にした日本の教育の現状やパワーについて知らせて、韓国の生徒と同僚に伝統と基本教育の重要性を認識させたい。

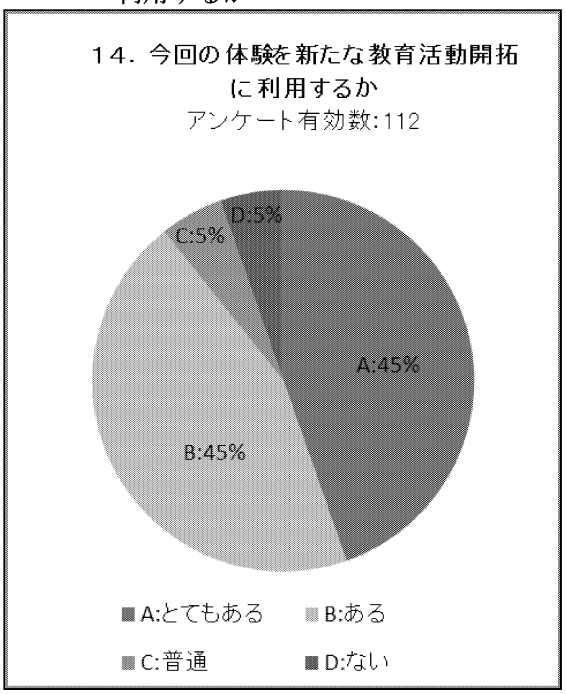
C-03　チョ・ジェスン（とても思う）
日本の児童・生徒たちと社会の清潔さや秩序、質素な生活について伝えたい。

C-21　キム・ヨンボ（とても思う）
日本の教育と文化の特徴を理解し、ユネスコの教育理念と目標を説明するため。

C-36　ソ・ドンシン（とても思う）
韓国の教育で逃している部分がないのか、振り返ってみて、一段階発展させるため、基礎をよりしっかりしなければならないと思う。

C-39　ユン・ヨンソン（とても思う）
生徒指導と教育・教室・授業の内容を体験した内容をもとに、生徒たちの未来だけのためではなく、現在の関係をよくしたい。

質問 14.　今回の体験を新たな教育活動開拓に利用するか



【主な意見】

A-02　チャ・ジヨン（ある）
現在の韓国の小学校でもアクティブ・ラーニング能力と関連して、学習スケジュールの管理、ノート整理などを強調したりもするが、日本ではとても規則的に厳しく時間に合わせて学校生活をしている姿と、自分の考え・授業内容などを清書してノートを作る姿を参考にし、こうした部分を実践してみたい（書道・授業内容整理・方法指導（ノート整理））

A-05　チェ・ドゥルナム（とてもある）
指導主事ではなく学校経営者として日本の基礎教育の忠実さに対する良い点は現場に適用できる。教室が学年ごとでオープンになっている点も十分に考慮して適用可能だ。

A-08　ホン・ギョンヒ（ある）
校長として教師には公開授業及び授業評価会。保護者には地域社会とのネットワークと学校に対する信頼・支持。児童・生徒には基本生活態度。

B-20　イ・ギョンファン（ある）
学校の教職員の研修及び県教育委員会主幹などの世界市民教育の際に日本の教育及び文化を紹介するつもりだ。

B-22　イ・ヒョンドク（とてもある）
生徒は毎年日本を訪問している。そのとき学習資料を学生に課題として提示したい。私たちが感じるべき点、学ぶべき価値・徳目などに関する発見点・経験などを具体的に確認するように訪問計画を立てる必要がある。

B-29　ノ・ボクスン（ある）
日本の部活動紹介（ブラスバンド・剣道・体育活動）、日本の学生のボランティア清掃。

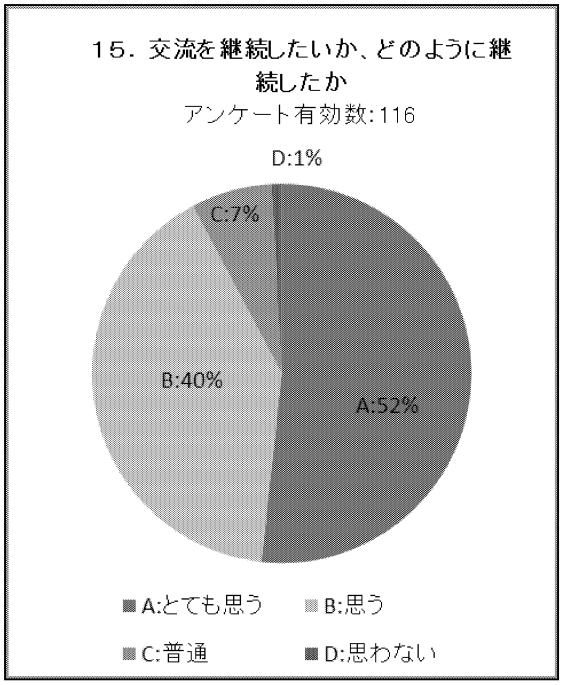
C-20　キム・スンジャ（とてもある）
基本に忠実な教育、礼儀の教育、他者を配慮する教育、ユネスコの理念に忠実な教育。

C-21　キム・ヨンボ（とてもある）
国際理解の授業およびプログラムの設計と適用期を活用する。

C-35　パク・ジョンウク（ある）
学校の先生が献身すると児童・生徒がどうやって変化するのかを一緒に討論し共有したい。

C-36　ソ・ドンシン（とてもある）
実際に授業を担当することはないが、先生と一緒に協議し授業の活動を積極的に考える予定。

質問 15．交流を継続したいか、
どのように継続したいか



【主な意見】

A-02　チャ・ジョン（普通）
交流を望むがあまりにも多くの先生に会ったため相手が覚えていてくれるかが心配。交流をするなら E メールなどでお互いが交流したい内容・意地などを打診して、学習交流・国際理解教育の活動をやってみたい。

A-05　チェ・ドゥルナム（とても思う）
世界人として日本への理解をもとにしてよりよい市民になれるプログラムの開発が必要。児童・生徒がお互いに理解し共感できるプログラムが必要。

A-08　ホン・ギョンヒ（思う）
国際的な交流は児童・生徒の国際理解教育及びグローバルリーダーシップの力量強化のためとても重要であり役立つ教育活動だと思う。しかし今年は学校を移る年であり新しい学校環境でチャレンジするには時間が必要であり 1、2 年後に新しい学校で教育課程を把握し教師との協議を通じて活動を決定するのが良いと思う。

A-10　チャン・グクス（とても思う）
教育活動、内容だけでなく日本文化の体験の計画拡大が望まれる。

A-11　チャン・ミョンス（とても思う）
1．授業交流を持続的に行いたい
2．教師の業務に関しても共有したい。

B-20　イ・ギョンファン（とても思う）
現在佐賀県の武雄青陵中学校と行っている交流をより活性化し、既存の生徒中心の交流から、教職員同士の交流も行いたい。

B-22　イ・ヒョンドク（思う）
とても近い隣国であり、お互いにとても行きやすい。学校同士の公式的交換訪問プログラム、教師の個人同士の交流プログラムなど、どんなものでもよいと思う。

B-29　ノ・ボクスン（思う）
交流に伴う現実的な問題を考慮中である。ホームビジットチーム 4 人の教師とまずメールで写真交流をする予定。萱田中学校の校長先生に感謝の手紙を書く予定。

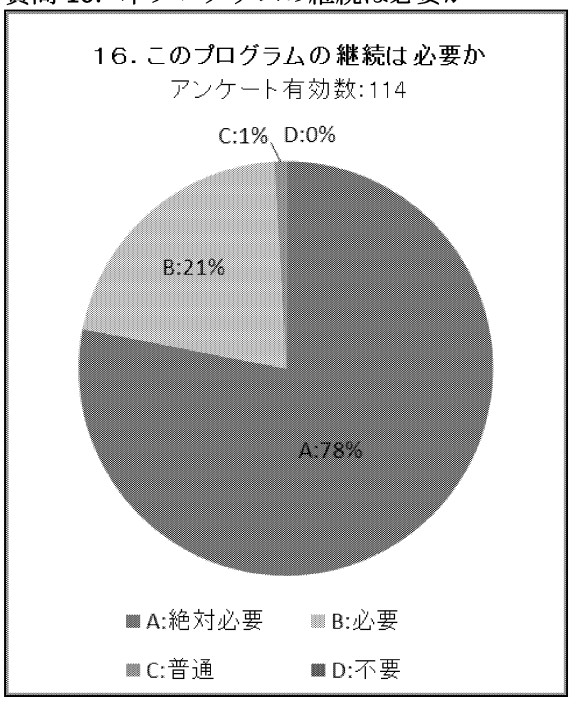
B-31　パク・チャンイム（とても思う）
日本のユネスコスクールとの交流を申請した。一番簡単な方法のひとつは、メール交流やビデオ交換などで、学校交流をし、双方の準備ができれば学校訪問もしたい。時差がないのでビデオチャットなどが他国よりも楽である。

C-03　チョ・ジェスン（とても思う）
隣国として交流は当然であり、単純な出会いを超えて人類社会の発展に貢献できるテーマを通じて交流できれば良い。（平和・人権など）

C-21　キム・ヨンボ（とても思う）
学校間の交流（学生・教員）、地域別の教員交流など。

C-39　ユン・ヨンソン（とても思う）
この質問に先立ち、過去にこの交流に参加した人々も同一の質問を答えたと思いますが、今まで交流活動がどうだったのか、またどうやって実施されたのかが、まず気になります。そうした内容を元に実施したり、発展させることも可能だと思う。

質問 16. 本プログラムの継続は必要か



【主な意見】

A-05　チェ・ドゥルナム（必要）
韓国教職員の世界に対する認識を広めるという意味でよいプログラムである。日韓の教育の現状を比較し長所を生かして学校現場に適用することが期待される。

A-08　ホン・ギョンヒ（絶対必要）
学校の教育課程と教育の方向を教職員と一緒に協議して国際交流活動をするには校長と教員がこうしたプログラムに参加し活動するのがはるかに推進する可能性が高いため相互が参加するべきだと思う。

A-10　チャン・グクス（必要）
両国間の教育を発展させるため。

A-11　チャン・ミョンス（絶対必要）
とても必要である。このプログラムはユネスコが謳う、平和と人権についての教育に大いに効果をもたらすと思う。

B-20　イ・ギョンファン（必要）
しっかりした日本教育を体験することで韓国教育の改善に役立つ。日韓両国の理解の促進のきっかけになる。

B-22　イ・ヒョンドク（必要）
たくさん交流することに欠点はない。新しいことを感じて学ぶ機会である。

B-31　パク・チャンイム（絶対必要）
教師が国内外の教師との交流を通じてお互いにアイディアを共有し、学ぶことができる。

C-20　キム・スンジャ（絶対必要）
もう少し広い場所で多様な教育の方法を学ぶべきだと思う。

C-21　キム・ヨンボ（絶対必要）
日韓の文化と教育活動を理解しユネスコの教育理念と活動を理解できるため。

C-36　ソ・ドンシン（絶対必要）
日韓両国でユネスコ活動をどうやっているのかお互いに学べた。単純な見学ではない交流を通じて、両国の理解を深められた。

C-39　ユン・ヨンソン（絶対必要）
認識の変化は小さくとも、「バタフライ・エフェクト」のようにそれが後に与える影響は大きいと思う。私もたくさんの学びを得たため、生徒たちに大きな変化を与えられるかもしれないと思う。

質問 17. その他気付いた点

【主な意見】

A-02　チャ・ジヨン
日本の学校訪問で教職員と学生たちの歓迎がオーバーにも感じたがこれも彼らの文化だと知った。

A-05　チェ・ドゥルナム
公共交通（電車・バス）を利用して実際に人々に触れ合う過程が必要。ホームビジットの移動中にバスに乗り、ホスト以外の人に触れ合えたのが良かった。

A-08　ホン・ギョンヒ
ACCU でこうして両国の教育内容を深く考察できるようプログラムを企画してくれたことに驚いた。これからも良いプログラムを通じて各国の教育関係者がお互いに対話する機会が増えればと思う。

B-20　イ・ギョンファン
経済力のほかに日本の強みは個々人の品性（誠実・秩序・礼儀・質素・清潔）にあると感じた。良いプログラムの企画・運営に感謝する。日本の先生の韓国の教育に対するコメントも聞きたい。

B-29　ノ・ボクスン
テーマのある交流になるとよいと思う。最善を尽くしていただき感謝する。

B-31　パク・チャンイム
日本に対して偏見があったが、別の視点を持てるようになり、非常に魅力的な国であることを知った。

C-03　チョ・ジェスン
たくさんの教職員に訪問の機会を与えるべく、今後もプログラムの継続を望む。

C-20　キム・スンジャ
こうした機会を拡大し、教育の発展に寄与する足かけになってほしい。本当に感謝する。プログラム期間中、常に真心を感じた。

C-21　キム・ヨンボ
日本の小中高の教育制度および地域教育学校の連携活動、地域の教育委的があることを学んだ。教職員の交流プログラムの拡大を望む。

C-35　パク・ジョンウク
基本秩序の重要さ、余裕がありながらも節約する生活習慣、規則は守らなくてはならないという美しさを感じ、学んだ。

C-36　ソ・ドンシン
千葉県立中央博物館見学を通じて地域社会の機関が学校及び住民と深い関係を持ち、地域社会の学校の役割をしていることに大きな刺激を受けた。

C-39　ユン・ヨンソン
両国の微妙な問題について注意しなくてはならない部分ももちろんあるが、相互間に考えの差があるなら解決できる部分が教育だと思う。これからもこうした部分を扱える挑戦が少し必要だと思う。

2. 受入れ教育委員会

A グループ
狛江市教育委員会
指導主事　　坂本　尚毅

プログラムの全体的印象

- 前年度に引き続き訪問団の受入を行うことができたので、特に学校の協力体制が得られた。このことによって、受入を行った 3 校については、それぞれの学校の特色を生かした教育交流が実施できた。
- 個人的な意見となるが、各国の文化施設や自然遺産等に触れることも大事であるが、教育交流の目的は、教員同士で、時に子どもを介して、教育についての意見交換ができることであると考える。

プログラム成果

- 本市教職員の国際的な教育交流に関する意欲の醸成。
- 本市小学生及びその保護者の国際交流に関する意識の向上。

苦労した点

- 受入校の教職員の事業に対する理解の促進。
- 歓迎レセプションを行える民間の店舗がないため、自前での準備となる。
- 学校の PC システムの設定上の理由により、教員の顔写真データの取りまとめに時間を要する。

プログラムの改善に向けた助言

- 今回のように、校種を分けたのは大変よかったと思います。小学校の先生と高校の先生ではニーズや意識がだいぶ違うので、小学校の授業を高校の先生が参観してもあまり得るものがありません。
- 訪問団における管理職（校長）の方の割合が多いように感じます。今回のプログラムでは、かなり時間的な余裕をもたせ、韓国の先生同士の情報交換の時間も設けるようにしましたが、「プログラムが詰まりすぎ」との声が出ているとの話を聞きました。体力的な面で難しい方もいらっしゃると思いますので、今後の教育を担うミドルクラスの学校リーダー的な方に来ていただくのがよいと考えます。

B グループ
八千代市教育委員会
学務課　　種村　保

プログラムの全体的印象

- 韓国教職員の方が熱心に日本の教育について学び、自国の教育に取り入れようとする姿勢がすばらしいと感じました。特に、市立小・中学校の給食を担当する調理場の施設や運営、学校での授業の様子や部活動などには非常に関心を示しており、参考にしていただけたと思います。
- さらに、日本の教職員や児童・生徒との交流を深めようとする姿勢もすばらしいと感じました。教室では児童・生徒と簡単な英語やジェスチャーを用いて会話をしていただいたり、ホームビジットにおいても、日本の教職員と積極的に交流を深めようとする姿が見られました。

プログラム成果

- 教職員にとってだけでなく、児童・生徒にとっても国際交流の絶好の機会になりました。また、訪問校である萱田中学校においては、事前に韓国語の学習をするなど、韓国教職員の訪問に対してのおもてなしを通して、生徒たちの成長を図ることができた。

苦労した点

- プログラム全体の計画・調整をすることが大変でした。特にホームビジットの引受先や韓国語の通訳ボランティアの確保に苦労しました。また歓迎夕食会における費用面の問題と、歓迎夕食会に見合う会場探しにおいても苦労しました。

加えるとよいと思われる活動

- 日本でしかできない体験をプログラムに取り入れた方が良いと思います。ひらがなやカタカナで名前を書いたり、和食作りや茶道を体験したりするなど、簡単にできるもので可能なプログラムを取り入れてもいいと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 歓迎夕食会の費用を改善してほしいと思います。現在は、韓国の方の不足分を日本人の参加者が負担している状況です。ぜひ、改善してほしいと考えます。

C グループ
千葉県教育庁企画管理部教育政策課
主査　　坂本　和則

プログラムの全体的印象

- 今回で 4 回目の受け入れとなりますが、韓国の先生方の熱心さには、毎回敬服しています。
- 今回もオリエンテーションや学校訪問での質疑応答で時間が足りなくなる程、たくさんの質問をいただき、意欲、関心の高さを感じました。

プログラム成果

- 教育委員会の職員だけでなく、受入校の教員、保護者、地域の方、県内のユネスコスクール加盟校、神田外語大学の学生をはじめとしたボランティアの方々など、多くの関係者が今回の受け入れに関わり、協力できたことは、今後、千葉県教育委員会が国際交流の取組を進めていく上で、大変貴重な経験になりました。

苦労した点

- ホームビジットの受入家庭の確保には毎回苦労しています。
- 特に今回はグループの人数も増えた上、直前の来日キャンセルやホストファミリーの体調不良等で、受入家庭の再調整が必要になりました。
- 今回のような緊急事態に備え、事前に対応を準備することが必要だと感じました。

加えるとよいと思われる活動

- 現状の 3 日間の地域プログラムでは時間をとることが難しいですが、千葉県の歴史・文化施設の視察や文化体験等を加えることができれば、韓国からの訪日教育旅行も増えて、学校交流への発展も期待できると思います。

プログラムの改善に向けた助言

- 過去の受け入れでは 30 名前後だったグループの人数が、今回は 40 名に増えましたが、人数が増えたことで、先生方ひとりひとりとの交流や意見交換の時間は短くなってしまったように感じます。より深く交流を行うためには、グループの規模はもう少し小さい方が良いのではないでしょうか。

3. 主な受入れ学校および機関

A グループ
●町田市立小山田小学校
主幹教諭　　百田　明弘

プログラムの全体的印象

- 国際交流という点で、大変素晴らしい機会をいただきました。本校は都心から離れているため、お客様を迎える機会自体少ない中、外国からのお客様を迎えること自体が教員・児童そして地域の方々にとっても一番の出来事でした。通訳の方を介しての進行にはみんなドキドキしたようです。
- 授業を見てもらえたこと、打ち合わせ不足でしたが授業に参加してもらえたこと、すべて子どもたちにとっては初めてであり、心に残ったようです。外国の方と話せたこと、さらに言葉が通じた喜び、これは子どもたちだけでなく、先生方の心にも強く残ったようです。
- 意見交換会では、双方の教育事情について知ることができたことはもちろん、コミュニケーションの場があったこと自体、気持ちが高まりました。
- 6 年生の担任からは、国際理解が叫ばれる中、クラスの子どもたちにとって非常に有意義な時間であったという感想があった。慣れない英語や全くと言ってよいほどわからない韓国語を駆使しながら、積極的にコミュニケーションしていて、緊張というよりとても楽しんでいた。インターネットの翻訳機能を利用したり、韓国語の会話帳を使ったり、黒板に絵や数字をかいたりしながら、創意工夫していた。

プログラム成果

- プログラムの準備を通して、地域と連携できた。（給食の食材や行政（町田市）との情報交換や協力依頼）特に、お囃子を依頼し学校で獅子舞を披露していただいたことは外国のお客様だけでなく、児童や日本の先生方にとっても、日本文化や地域の文化を認識する機会となった。
- 児童によりよくお客さんを迎えたいという気持ちが芽生え清掃等の行動に表れた。また、積極的にかかわろうという姿が見られ、子どもたちの良さを再発見できた。
- 教員も外国の文化や考え方に触れ、視野が広がり貴重な経験だった。
- 報告会に参加し、たくさんお褒めの言葉をいただいた。その中に「日本や日本人に対する誤解がなくなった。この訪日で日本に対する見方や考え方が変わった。」と韓国の先生に言われた。これは大変うれしいとともに、このプログラムが国際交流という大きな意義をもつことを体感できた。

苦労した点

- 韓国の先生方が日本の授業を参観する時間が非常に短かった。時間は一つ 5 分くらいあるとよいと感じた。選択制にするなどの工夫もできた。
- 地域のボランティアコーディネーターの協力で、通訳ボランティア 12 名に協力いただけた。また、韓国出身の保護者 2 名にも通訳ボランティアをしていただけた。幸い、苦労しなかったがこれがなければ成り立たない部分も多かった。
- 全学級で交流を希望したのですが、韓国側・ACCU に伝わっていなかった。できる範囲で構わなかったが、どこまでならできるのか詳しい情報や状況が知りたかった。
- 準備や事前指導などに時間が取れなかった。
- それぞれの教員がいかに柔軟に対応できるかが問われたように感じた。

加えるとよいと思われる活動

- 世界遺産、日本の最先端施設（大学や研究所）などに触れる時間。
- 社会科見学のように工場や農家などの見学もよいと思う。
- 観光をすることで韓国での授業に生かせるものを得ていただけると思う。

プログラムの改善に向けた助言

- もう少し早い日程で受け入れが決定すると準備や練習がしやすくなると感じました。

●狛江市立狛江第一小学校
校長　　岡前　克之

プログラムの全体的印象

- 5 年生の「日本の伝統文化を学ぶ」授業を参観いただきました。児童にとって、何をどのように伝えたらよいかを考える良い機会をいただきました。
- 学習した茶道の体験を実際に行って伝えるコーナーや琴の実演コーナーでは、積極的に児童に話しかけていただき、韓国のことも教えていただき、国際交流の面でも、よい時間となりました。
- 韓国教職員に、本校の地域を舞台とした学習や地域の方に協力いただく授業は意外に感じられたらしく、違いを超えようとする姿に感銘を受けました。

プログラム成果

- 児童の意識が、学校から外へ広がった。学習を深め児童の参画意識をより高めるためにもよかった。交流につながるとよい。
- 東京オリンピック・パラリンピックに向けて、外国について学ぶきっかけになりました。また、日本の文化の良さを再認識でき誇りをもつことができました。

苦労した点

- 通訳の方が 2 名だったため、授業のねらいや韓国の方の質問にお答えできない場面が多かった。
- 事前に、訪問団がどんな内容を求めているのかが分かると、お迎えの準備がスムーズに行くと思いました。特に掲示物や説明文書など、後からもっと用意しておけば良かったと思いました。

加えるとよいと思われる活動

- 教員の交流が目的のプログラムであるが、日本や韓国の児童の様子がわかる資料などをあらかじめ交換したあとに、このような訪問があると、質問やプログラムを改善できると思います。
- 事前に留学生や在日の方との交流や授業を企画すると、よいのでは。
- ESD について、本校ではまだ進んでいないので、韓国の事情を教えてもらえると、参考になります。

プログラムの改善に向けた助言

- 韓国の先生方が、日本の教育事情を知りたい、韓国のことを教えたいと、とても熱心なので、意見交換の時間を設定することを、どの学校でも行えると良い。

●狛江市立緑野小学校
校長　　大場　一輝

プログラムの全体的印象

- 韓国の方々が熱心に日本の教育の内容と方向性について研究されていた。
- たいへん友好的な雰囲気の中、プログラムを進めることができた。

プログラム成果

- 本校では、韓国の先生方に文化体験授業をしていただいた。児童との関係もとてもよかった。交流を通して、異文化理解を深めることができた。

苦労した点

- 他校への移動時間がタイトであった。着替えの時間として確保し、約15分の余裕がもてるとよい。

加えるとよいと思われる活動

- 日本における研究授業の内容と方法について一層知っていただく機会をもち、参加者のニーズに応じ、柔軟に対応できるとよい。

プログラムの改善に向けた助言

- 毎回、丁寧な対応をしていただいていることに感謝しています。
- 学校や地域の特色を伝えることができています。
- 今後も、引き続きの取組ができることを大いに期待しています。

●狛江市立狛江第三小学校
主幹教諭　　森谷　亨

プログラムの全体的印象

- 韓国を訪問した時にも感じたことですが、同じ地球人・人間として、お互いに交流する、触れ合うということは「心の交流」であり、それが、お迎えする立場となっても同様で、少しでも仲よくなりたい、親しみをもって交流したいという思いで接することができたということです。特に訪韓のときに出会った先生方と日本で再会できたことは感激いたしました。

プログラム成果

- 私たち狛江三小は、全学年が韓国に関わる学習を図工や総合的な学習の時間に絡めて取り組みました。そういう意味では、全校の児童が韓国の方々が来校することに関心をもって、当日を迎えられました。また、高学年は韓国の調べ学習をしてから取り組めたので、国際理解教育として効果的に取り組めました。

苦労した点

- これは、狛江のシステムの問題点ではありますが、メールなどでACCU と連絡を取り合う時、副校長先生のメールのみであったことや、インターネットなどで翻訳を使って何か作業をしようとするとき、学校では自由に使えなかったので、名札作りや紹介文作りなど、面倒な作業になってしまいました。
- 何かしたいことがあっても、自由になる予算が少なく、やりくりに困りました。

加えるとよいと思われる活動

- 狛江市の訪問では、3 つの学校すべてが小学校でした。なるべくいろいろな学校を見学できるようにすることが大切かと思われます。今回は難しかったかもしれませんが、中学の見学があった方がよいかなと感じました。

プログラムの改善に向けた助言

- 教育関係の訪問ということは理解していますが、見聞を広めるという視点で言えば、もう少し「観光」の部分があってもいいように思います。例えば、狛江市の神社仏閣や自然などちょっとした韓国と日本の違いを知ることも大切であり、訪問する方にも楽しみになるかと思います。

B グループ

●文京学院大学女子中学高等学校
国際教育交流主任　　杉本　邦彦

プログラムの全体的印象

- 昨今の政治的な報道もあり、教員も生徒も「韓国の先生たちは日本にどのような印象を持って来校するのだろう」と少し心配していました。しかし、みなさん大変真面目で、親しみやすい先生方であり、訪問後すぐに心配はなくなりました。
- 今回の訪問は、本校教員にとって、また、生徒にとっても大変有意義でした。授業や校舎案内の際に私たちが想定していなかったものに興味関心を持たれました。例えば、災害の際に、生徒全員が最低３日間学校で過ごすための用意がしてあると説明すると、興味津々で「教室の非常食をぜひ見たい」と希望されました。また、生徒を喜ばせようと大変熱心に授業をしていただきました。手鏡や福袋は生徒に大好評でした。
- 通訳ボランティアを務めた５名の保護者にとっても大変楽しい時間を過ごすことができたようです。日韓交流の大きな仕事に関わった喜びが保護者の顔からうかがえました。

プログラム成果

- 教員も生徒も韓国を大変身近な国として理解できるようになりました。訪問１週間前に全クラスに訪問の内容と５つの簡単な韓国語あいさつを掲示すると生徒はすぐにそれを使いたがり、他のあいさつも調べたり、韓国語で質問を用意する生徒もいました。教員も意見交換を通じて共通の悩みを抱えていることが分かり、互いに学び合いたいという気持ちになりました。
- また、韓国の先生方から褒めていただいたことがいくつもありました。廊下での生徒のレポート掲示や教室がきれいであることなど私たちの日頃の教育活動に自信を持つことができました。

苦労した点

- 40 人の先生方に本校をできるだけ身近に感じていただくために、学校案内はできるだけ小人数で行ないたいと考えました。保護者に依頼をしましたが、出自を知られたくないと断られることを心配しました。
- 午後の意見交換会は時間の都合上、中途半端な形で終わらざるを得なかったのは残念でした。

加えるとよいと思われる活動

- 意見を交換することで終わらず、協働して作業するような体験があると面白いと思います。例えば、狛江市の教育委員会の取り組みは素晴らしいと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- もう少し早めに訪問の打診をいただければ、さらに充実した受け入れを行なうことができるかと思います。具体的には、日本の教育のどのような点を知りたいと思っているのかを事前に知ることができると準備がしやすいです。

●秀明大学　学校教師学部
学部長　　近藤　公一

プログラムの全体的印象

- 同じ教育に携わる者として意見を交換できたことはよかったと思います。

プログラム成果

- 参加させた学生はわずか 2 名の学生でしたが、4 月から教壇に立つにあたり、韓国の先生方から温かなエールをいただき、感激していました。

苦労した点

- 苦労した点などは何もありませんが、今回は時間がないこともあり、説明も、授業見学や施設見学が十分ではなかったので、参加された方にとっては消化不良ではなかったのかと心配しています。また、学生との交流の時間があれば、本学の学生にとっても良い刺激になっただろうと思います。

●八千代市立萱田小学校
教頭　　髙原　敬介

プログラムの全体的印象

- 学校訪問の際には通常の授業を参観していただいた。韓国では包丁を使った調理実習は行わないこと、高校であるが、地域の人材を活用して授業を行っていることなどの話があった。地域人材の活用については日本と同じなのだなと感じた。子どもたちと積極的にかかわってくださる方が多かった。

プログラム成果

- 子どもの教育に対する熱意を感じた。自分たちも毎日の指導にしっかりと取り組まなければいけないと改めて考えることができた。
- 子どもたちが韓国の方々と親しくなれたことがよかったと思う。

苦労した点

- 普段の授業が見たいとの要望でしたので、特別なことはあまりしなかった。もう少しおもてなしのことができるとよかったかなと思う。時間も短かったため参観だけになってしまったので、もう少し時間をいただき 6 年生とかかわれる時間を作りたかった。

加えるとよいと思われる活動

- ホームビジットの時間をもう少し長く取れるといいのかなと思います。聞くところによると観光の時間はほとんどないと聞いています。ホームビジットの時に近くの日本らしいところにいっしょにお連れすることもできるかと思います。

●八千代市立萱田中学校
教頭　　藤原　朗

プログラムの全体的印象

- 訪問に対して、初めはとても不安があったし、どこまでやれば良いのかわからなかったが、校長先生がいつも言っている「本気のおもてなし」を全職員そして生徒が取り組め、結果としてとても喜んでいただいたことにとても満足している。本校にとって、前進する良い活動になった。

プログラム成果

- 全校（全職員・全生徒）で訪問者の受入れに本気で取り組み、校内に訪問者に対するおもてなしの心が広がり、本校にとってもとても有意義な活動であった。

苦労した点

- 韓国語の指導に苦慮した。
- お茶の準備で、何が良いのか判断に困った。
- 盛りだくさんの企画であったので、訪問者が疲れていたように思う。

加えるとよいと思われる活動

- レクレーション的なものを取り入れて交流できると、もっと親しくなれたように思う。

プログラムの改善に向けた助言

- 訪問内容が盛りだくさんなので、参加者が疲れていたように感じた。もう少し、ゆとりを持たせた方が良いと感じた。

C グループ

●浅野中学・高等学校
グローバル化推進委員長　　宮坂　武志

プログラムの全体的印象

- 日本教職員派遣団よりも 3 倍の韓国教職員の数に圧倒されました。本校にはその 3 分の 1 が来校されましたが、約 40 名の先生がたを案内するのに精一杯で、満足いただけたかどうか不安はあります。この C グループは高校の先生が多く、こちらが予定していたのが中学の授業見学ばかりとなってしまい、事前にきちんと確認すればよかったと思います。先生がたの質問がきわめて細かいことにまで及んだのに驚きました。模擬国連の授業では、国の選び方や、評価の仕方などまで質問されました。

プログラム成果

- まず、海外からの訪問客を受け入れるのに慣れていないため、今回の訪問事業が一つの本校でのモデルとなったことは大きいと思います。今後、さまざまな外国の学校、教育関係者を招くにあたって、イメージができたことが成果です。そして、何より韓国の方々との交流に、生徒が積極的に対応してくれたことで、韓国を身近に感じてくれたのではないかと思います。

苦労した点

- 限られた時間で、大人数をどのようにスムーズに動かすかは、かなり事前にプランニングしました。また、記念品の返礼をどうするかも悩みました。貴重なものを一つ渡してもすべての先生に行き渡りませんし、一人一人だと荷物になるかと思われたので、粗品と小分けの菓子を用意しました。また、グループ・トークでのコミュニケーション言語をどうするかという点は、韓国側の英語や日本語のできる先生にもお手伝いいただいて切り抜けましたが、2 名の通訳だけでは対応しきれないところです。とはいえ昨夏、私自身が韓国を訪問団に参加して、視察を体験していたため、大きな混乱はなく終えられました。

加えるとよいと思われる活動

- 芸術やスポーツの分野での交流、通訳を交えたチームティーチングなどの時間が取れると良いと思います。

プログラムの改善に向けた助言

- なかなか難しいことですが、訪問人数を限定するか、滞在時間の調整ができるとよいです。

●千葉県立印旛特別支援学校
教頭　　鈴木　敏夫

プログラムの全体的印象

- 当初はどのような形で交流ができるのか心配であったが、韓国の皆様も自然な形で接していただき、大変良かったと思います。また、通訳の皆様も素早く対応していただき、より理解を深めることができました。特に児童生徒との交流場面では、合唱や太鼓を発表させていただいたのですが、韓国の皆様からも「さくら」の歌を披露していただき、大変感動しました。

- また、会議室での昼食でもお互いに意見交換を深めることができ、本当に短時間でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。

プログラム成果

- 韓国と日本の教育の違い等について、意見交換を行うことでよく分かりました。また、お客様を迎え入れるという点についても、学校が一つになって、出来る限りのおもてなしをする。ということができたように感じます。

苦労した点

- 事前に県の教育委員会やACCUとも連絡を密にし、確認ができ、また、かなり早い段階から準備ができたのは、よかったです。
- 交流場面でもう一工夫ができると良かったかなと思っています。

加えるとよいと思われる活動

- 今回が初めてでしたので、より充実したものにしていかれると良いと思いました。その他は特にありません。

プログラムの改善に向けた助言

- 事前に打ち合わせが行えて大変よかったです。情報等もいただけましたので、より、スムーズにお迎えできた部分もあるかと思います。韓国の皆様は目上の方をとても大切にする。そのような習慣等多くのことを学ばせていただきました。国際交流は自国だけでなく、相手を知るという部分でもとても良い機会であると感じました。
- 全教職員で共通理解を図り、出来る限りの対応をさせていただいたつもりですが、不備等また、このような点を改善すれば等がございましたら、お知らせください。

●千葉県立国分高等学校
教頭　　齋藤　諭

プログラムの全体的印象

- 交換授業や意見交換会など、短い時間ではあったが韓国教職員の熱意がよく伝わってきて、本校教職員並びに生徒にも良い刺激となった。韓国のお正月の文化紹介やすごろくゲームなど生徒も興味をもって取り組んでいた。また、意見交換会では「ゆとり教育」や「いじめ」などの言葉もあり、韓国教職員の方々の日本の教育への関心の高さを伺うことができた。

プログラム成果

- 韓国でのESDの具体的な活動報告など、今後の本校のユネスコスクール加盟校としての活動にとても参考になる事例が多くあった。ユネスコスクール加盟校の多い日本と韓国両国の交流促進の必要性を強く感じた。

苦労した点

- 意見交換会の企画で、以前実施した学校とその連携大学の支援を得られたことが非常に助けられました。ホームビジットについては、県教育政策課により県内のユネスコスクールに協力依頼していただけたことがよかったと思う。

プログラムの改善に向けた助言

- 受け入れ訪問校だけでなく、関係学校・機関等との連絡調整を横の繋がりとして体制づくりを行っていくことが大切であると思う。

4. プログラム運営担当者

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
人物交流部　　高松　彩乃

今回で第 17 回を迎えた韓国教職員招へいプログラム。このプログラムを通して日本を訪れた韓国の教職員は、実に 1,995 名に及び、次回にはついに 2,000 名を超えることになります。「国際教育交流事業」の一環として実施している他のプログラムと比較しても、その歴史の長さと規模の大きさを実感します。

今回のプログラムでは、各グループが東京近郊で 1 校ずつ学校を訪問し、その後 3 つの地域に分かれ、地域の教育委員会の受入れのもとで各地域の学校や教育機関、文化施設を訪問しました。各グループ約 40 名という規模の参加者の訪問受入れは容易なことではなかったと思いますが、多くの方々のご協力により、無事にプログラムを終了することができました。本プログラムの実施にあたり多大なご尽力を賜りました日本・韓国の関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

日本と韓国は地理的にも近く、個人の旅行で行き来をしたことがある、という参加者も決して少なくありません。しかしながら、1 週間という短い期間でいくつもの学校や教育機関を訪問し、それぞれの訪問先で「教育」という共通点を持つ人々と出会い、語らうことのできるこのプログラムは、他に類を見ないものです。参加者のコメントからも推察できるように、意識の変化がいたるところで起こっています。

このプログラムが抱えているひとつの課題として、「プログラム終了後の交流の継続」というものがあります。交流を続けたいという気持ちがあっても、学校全体を動かすということは簡単ではありません。また、日々の職務の中にどのように交流を組み込んでいくのか、悩む先生方も多くいらっしゃいます。そこで、今回は 1 月 22 日（日）に実施したプログラム報告会の中で、過去のプログラム参加者による交流事例の発表を行いました。参加校同士の姉妹校締結や、勤務校の中でできる活動など、実例を具体的に提示することにより、帰国後の活動をより現実的に考え、そのモチベーションを高めることが狙いです。今後、どのような交流が生まれてくるのか大いに期待しています。

プログラムの第 1 回が実施された 2001 年から現在に至るまで、日韓をとりまく状況はさまざまに変化してきました。韓流ブームの時期も、緊張感があった時期もありましたが、どんな時もこのプログラムを通した日韓間の教職員交流は続いてきましたし、これからも続いていくことを願っております。

付録

1. 実施要項
2. プログラム日程
3. 参加者リスト
4. 関係機関リスト
5. 文部科学省講義資料
6. 過去のプログラム実績

◆付録 1．実施要項

韓国教職員招へいプログラム

（2017 年 1 月 17 日－23 日：東京都、東京都狛江市、千葉県八千代市、千葉県、千葉県成田市）

実　施　要　項

1.　背　景

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）では、我が国と韓国の教職員間の交流を深め、両国民の相互理解と友好の促進に資するため、国際連合大学の委託を受け、国際教育交流事業として韓国から初等中等教育教職員を招へいするプログラムを実施しております。

また、2003 年からは同プログラムと対をなすものとして、日本の初等中等教育教職員が韓国を訪問するプログラムを実施しております。2016 年 7 月までに韓国から招へいした教職員数は延べ 1,877 名にのぼり、日本から訪韓した 567 名と合わせ、日韓間の相互理解促進、学校間交流に大きく貢献してきました。

第 17 回となる今回も、文部科学省、韓国ユネスコ国内委員会、韓国教育部および各教育委員会のご協力のもと、2017 年 1 月 17 日（火）から 1 月 23 日（月）までの 7 日間にわたり、韓国から初等中等教育教職員 120 名を日本に招へいします。

2.　目　的

(1) 日本の教育制度、学校教育の現状や特色ある取り組みを韓国教職員に紹介するとともに、持続可能な開発のための教育（ESD）について地域の好事例を紹介する。
(2) 学校等での意見交換を通じて、日韓の教育の質を高める。
(3) 日本の文化および社会全般に対する理解を深める。
(4) 訪問する学校や施設などでの交流を通じて、日韓教職員の持続的なネットワークの構築、強化に寄与する。
(5) 日韓の学校間での交流授業および交流プロジェクトのきっかけをつくる。
(6) 日韓両国の相互理解と友好を促進する。

3.　日　程

本プログラムは、東京、日本各地の受入れ県・市において、下記の日程で実施される予定です。

日付	日程	訪問先	活動
1 月 17 日（火）	第 1 日	東京	日本到着 オリエンテーション、文部科学省講義
1 月 18 日（水）	第 2 日	東京	学校訪問（授業見学、教員、児童生徒との交流）
1 月 19 日（木）－21 日（土）	第 3－5 日	受入れ自治体へ移動。3 グループにわかれ、各グループが指定の自治体を訪問	教育長表敬・訪問地教育事情概要説明、 学校訪問（授業見学、教員、児童生徒との交流） 教育文化施設視察 日韓教育交流会 ホームビジット グループ別情報共有会
1 月 22 日（日）	第 6 日	受入れ自治体から成田へ移動	報告会・閉会式、歓送レセプション
1 月 23 日（月）	第 7 日		日本出発

＊ 第 3-5 日目の間、参加者は 3 グループに分かれ、指定された自治体を訪問する。

＊ A・B・C グループは各 40 名とし、以下の自治体を訪問する。
　Aグループ（おもに小学校教職員）：狛江市教育委員会（東京都）
　Bグループ（おもに中学校教職員）：千葉県八千代市教育委員会（千葉県）
　Cグループ（おもに高等学校・特別支援学校教職員）：千葉県教育委員会

＊ 各グループの代表者は、各自治体での活動について、第 6 日に成田での報告会で報告する。

4.　参加者数

120 名

5.　参加資格

(1) 大韓民国の国民であること
(2) 所属する学校等からの推薦を受けた、韓国初等中等教育の教職員であること(教育行政官及び教育専門家を含む)
(3) 日本の教職員との、主に教育分野における交流に高い関心を持つもの
(4) プログラムの全日程に参加が可能であること
(5) 45 歳以下で教員経験 3 年以上のもの
※(5)については、各グループの参加者 7 割以上がこれに該当すること。

なお、参加者は、①日本の教員、児童生徒、学校との交流を希望しているもの、②持続可能な開発のための教育(ESD)・地球市民教育(GCED)の分野において積極的な活動を行っているもの、③英語または日本語の会話能力のあるものが望ましい。

6.　評価と報告

日本出発前(第 6 日)
(a) 各参加者は ACCU の用意する評価票に記入する。
(b) 各グループの代表は、報告会において発表を行う。
帰国後
各個人およびグループで、報告書を作成し、韓国ユネスコ国内委員会に提出する。

7.　渡航費等

ACCU は下記の経費を負担する。
(1) 往復航空運賃
韓国国内の指定された国際空港と、日本国内の指定された国際空港との間のエコノミークラス航空券。
(2) 宿泊と食事
プログラム期間中の宿泊(朝食含、ツインルームおよびシングルルーム)、およびプログラム期間中の食事。食事が提供されない場合については食費を支給する。
(3) 日本国内の移動旅費
プログラム期間中の、自由行動日以外の国内移動旅費。

※上記以外の経費については参加者が負担することとする。

8.　海外旅行傷害保険

各参加者は、プログラム期間中に起こりうる傷害、疾病等の緊急時に備えて、各自の責任において、必ず海外旅行傷害保険に加入すること。

9.　通　訳

ACCU はプログラム期間中、通訳者(日－韓)を必要に応じて手配する。なお、各県・市への訪問時には、専門の通訳が随行する。

10.　申請・推薦手続

韓国ユネスコ国内委員会は、参加者を選定し、プログラム開始約 2 ヶ月前(11 月 17 日)までに参加者リストおよび参加者のデータシート、パスポート控えを揃えて、ACCU へ推薦することとする。

11.　このプログラムに関する照会先

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター　人物交流部　担当:高松・齋藤
〒162-8484　東京都新宿区袋町 6 番地　日本出版会館
TEL: 03-3269-4498
FAX: 03-3269-4510
E-MAIL: accu-exchange_ml@accu.or.jp

◆付録 2. プログラム日程

(1) 全体プログラム（東京）

Day 1	1월17일 (화)	1月17日（火）
	◆복장: 세미정장 ◆석식: 각자 ◆숙박: 호텔 메트로폴리탄 에드몬트	◆服装: ビジネスカジュアル ◆夕食: 各自 ◆宿泊: ホテルメトロポリタンエドモント
09:05	인천공항출발 (KE701) 仁川国際空港発（KE701）	
11:35	나리타공항 도착 成田空港着	
12:45-13:00	버스로 이동 バス移動	
13:00-14:00	점심식사 장소: 호텔닛코나리타 昼食（ホテル日航成田）	
14:00-15:45	오리엔테이션 장소: 호텔닛코나리타 1층 "Ozora" オリエンテーション（ホテル日航成田1階「おおぞら」）	
16:00-16:50	강의 "일본의 초등중등교육에 대해서" 장소: 호텔닛코나리타 1층 "Ozora" 講義「日本の初等中等教育について」（ホテル日航成田1階「おおぞら」）	
17:00-18:30	이동 (나리타⇒도쿄) 移動　（成田⇒東京）	
18:30	호텔 체크인 ホテルチェックイン	
19:30-21:00	한일저녁교류회 (사전신청자에 한함) 日韓夕食交流会（事前申請者のみ）	

Day 2	1월18일 (수)	1月18日（水）
	◆복장: 세미정장 ◆준비물: 자료집*, 명함, 통역수신기* （*오리엔테이션에서 배포） ◆조식:호텔 1층 Beltempo / 석식: 각자 ◆숙박: 호텔 메트로폴리탄 에드몬트	◆服装:ビジネスカジュアル ◆持物:ハンドブック*、名刺、通訳レシーバー*（*オリエンで配布） ◆朝食:ホテルIF「ベルテンポ」 / 夕食:各自 ◆宿泊: ホテルメトロポリタンエドモント
	【Group A】	
07:40	호텔 출발 ホテル出発	
9:20-14:00	마치다시립 오야마다초등학교 방문 유네스코 학교 신청중 町田市立小山田小学校訪問（ユネスコスクール加盟申請中）	
15:40	호텔 도착 ホテル着	
	【Group B】	
09:30	호텔 출발 ホテル出発	
10:00-14:00	분쿄가쿠인대학여자중학교 고등학교 방문 유네스코 학교 신청중 文京学院大学女子中学校高等学校訪問（ユネスコスクール加盟申請中）	
14:30	호텔 도착 ホテル着	
	【Group C】	
08:50	호텔 출발 ホテル出発	
9:50-14:00	아사노중학 고등학교 방문 浅野中学・高等学校訪問	
15:00	호텔 도착 ホテル着	

(2) グループプログラム

【A グループ：東京都狛江市】

Day 3	1월19일 (목)	1月19日（木）
	◆복장: 정장 *환영만찬회에서는 전통의상을 입어도 됨 ◆준비물: 자료집, 명함, 통역수신기 ◆조식:호텔 1층 Beltempo / 석식: 환영만찬회 ◆숙박:호텔 가지가야플라자	◆服装:正装 *歓迎晩餐会では伝統衣装も可能 ◆持物:ハンドブック、名刺、通訳レシーバー ◆朝食:ホテル1F「ベルテンポ」 / 夕食:歓迎レセプション ◆宿泊:ホテル梶ヶ谷プラザ
08:30	호텔 출발 (체크아웃) ホテル出発（チェックアウト）	
10:00-11:50	고마에시 교육장 예방 狛江市教育長表敬訪問	
12:00-12:50	점심 식사 장소:잭팟 고마에 昼食（ジャックポット狛江）	
13:15-15:30	고마에시립 고마에제1초등학교 방문 狛江市立狛江第一小学校訪問	
16:00-17:00	평가회(중앙공민관) 장소: 중앙공민관 情報共有会（中央公民館）	
17:30-20:00	환영만찬회(중앙공민관) 장소: 중앙공민관 지하 홀 歓迎晩餐会（中央公民館　地下ホール）	
20:45	호텔 도착 (체크인) ホテル到着（チェックイン）	

Day 4	1월20일 (금)	1月20日（金）
	◆복장: 세미정장 ◆준비물: 자료집, 명함, 통역수신기 ◆조식:호텔 2층 / 석식: 각자 ◆숙박:호텔 가지가야플라자	◆服装:ビジネスカジュアル ◆持物:ハンドブック、名刺、通訳レシーバー ◆朝食:ホテル2F / 夕食:各自 ◆宿泊:ホテル梶ヶ谷プラザ
08:00	호텔 출발 ホテル出発	
9:00-11:30	고마에시립 미도리노초등학교 방문 狛江市立緑野小学校訪問	
12:10-16:00	고마에시립 고마에제3초등학교 방문 (급식교류) 狛江市立狛江第三小学校訪問(給食)	
17:00	호텔 도착 ホテル着	

Day 5	1월21일 (토)	1月21日（土）
	◆복장: 세미정장 ◆준비물: 자료집, 명함 ◆조식:호텔 2층 / 석식: 초청가정과 함께 ◆숙박:호텔 가지가야플라자	◆服装:ビジネスカジュアル ◆持物:ハンドブック、名刺 ◆朝食:ホテル2F / 夕食:ホームビジット家庭にて ◆宿泊:ホテル梶ヶ谷プラザ
09:00	호텔 출발 ホテル出発	
10:00-12:00	한일교육교류회 (고마에시립 미도리노초등학교) 日韓教育交流会（狛江市立緑野小学校）	
12:00-13:00	점심(고마에시립 미도리노초등학교) 昼食（狛江市立緑野小学校）	
14:00-14:40	오하야시(전통음악) 감상 장소: 중앙공민관 お囃子の鑑賞（中央公民館）	
14:45-16:00	평가회 (발표준비) 장소: 중앙공민관 情報共有会（中央公民館）	
16:00-20:00	가정방문 대면식 및 집합장소: 중앙공민관 ホームビジット(対面式および集合場所：中央公民館)	
20:45	호텔 도착 ホテル着	

(2) グループプログラム

【B グループ：千葉県八千代市】

Day 3	1월19일 (목)	1月19日（木）
	◆복장: 정장 *환영교류회에서는 전통의상을 입어도 됨 ◆준비물: 자료집, 명함, 통역기 ◆조식:호텔 1층 Beltempo / 석식: 교직원 환영 교류회 ◆숙박:호텔 지바 위싱턴호텔	◆服装:正装 *歓迎晩餐会では伝統衣装も可能 ◆持物:ハンドブック、名刺、通訳レシーバー ◆朝食:ホテル1F「ベルテンポ」 / 夕食:教職員歓迎交流会 ◆宿泊:千葉ワシントンホテル
10:15	호텔 출발 (체크아웃) ホテルチェックアウト、出発	
12:00-12:45	점심 식사 장소:토미거든 야치요 昼食（トミーガーデン八千代）	
13:00-14:45	슈메이대학 방문 秀明大学訪問	
15:30-16:00	시장 및 교육장 예방 장소: 니시야치요 조리장 2층 회의실 市長・教育長表敬訪問（西八千代調理場2階会議室）	
16:00-16:30	니시야치요 조리장 시설 견학 西八千代調理場施設見学	
16:40-17:40	야치요시 오리엔테이션 장소: 니시야치요 조리장 2층 회의실 *오리엔테이션 종료후 탈의실 사용가능 八千代市オリエンテーション（西八千代調理場2階会議室 *オリエンテーション終了後、更衣室利用可能）	
18:30-20:30	교직원 환영 교류회 장소: 야치요 미도리가오카 Passo 教職員歓迎交流会（八千代緑ヶ丘Passo）	
21:30	호텔 도착 (체크인) ホテル到着（チェックイン）	

Day 4	1월20일 (금)	1月20日（金）
	◆복장: 세미정장 ◆준비물: 자료집, 명함, 통역기 ◆조식:호텔 1층 가스라이트 / 석식: 각자 ◆숙박:호텔 지바 위싱턴호텔	◆服装:ビジネスカジュアル ◆持物:ハンドブック、名刺、通訳レシーバー ◆朝食:ホテル1F「ガスライト」 / 夕食:各自 ◆宿泊:千葉ワシントンホテル
08:00	호텔 출발 ホテル出発	
9:00-11:15	가야다초등학교 방문 萱田小学校訪問	
11:15-11:30	도보로 이동 徒歩にて移動	
11:40-16:10	가야다중학교 방문 (급식교류) 萱田中学校訪問（給食交流）	
17:10	호텔 도착 ホテル着	

Day 5	1월21일 (토)	1月21日（土）
	◆복장: 캐주얼 ◆준비물: 자료집, 명함 ◆조식:호텔 1층 가스라이트 / 석식: 초청가정과 함께 ◆숙박:호텔 지바 위싱턴호텔	◆服装:カジュアル ◆持物:ハンドブック、名刺 ◆朝食:ホテル1F「ガスライト」 / 夕食:訪問家庭にて ◆宿泊:千葉ワシントンホテル
09:00	호텔 출발 ホテル出発	
10:00-11:20	국립 역사 민속 박물관 방문 国立歴史民俗博物館訪問	
11:20-12:00	점심 식사 장소:국립 역사 민속 박물관 昼食（国立歴史民族博物館内）	
13:00-15:00	평가회 (발표준비) 장소: 평생학습 플라자 다목적 홀 情報共有会（生涯学習プラザ多目的ホール）	
15:10-20:00	가정방문 대면식 및 집합장소: 평생학습 플라자 다목적 홀 ホームビジット（対面式および集合場所：生涯学習プラザ多目的ホール）	
21:00	호텔 도착 ホテル着	

(2) グループプログラム

【C グループ：千葉県】

Day 3	1 월 19 일 (목)	1 月 19 日（木）
	◆복장: 정장 *환영교류회에서는 전통의상을 입어도 됨 ◆준비물: 자료집, 명함, 통역수신기 ◆조식:호텔 1 층 Beltempo / 석식: 환영교류회 ◆숙박:호텔 센루트 지바	◆服装:正装 *歓迎晩餐会では伝統衣装も可能 ◆持物:ハンドブック、名刺、通訳レシーバー ◆朝食:ホテル 1F「ベルテンポ」 / 夕食:歓迎交流会 ◆宿泊:ホテルサンルート千葉
10:30	호텔 출발 (체크아웃) ホテル出発（チェックアウト）	
11:45	점심 식사 장소: 도후로 지바점 昼食（場所：土風炉千葉店）	
13:15-13:35	치바현 교육장 예방 千葉県教育長表敬訪問	
13:45-15:15	오리엔테이션 장소: 지바현 교육청 オリエンテーション（場所：千葉県教育委員会多目的ホール）	
15:45	호텔 도착(체크인) ホテル到着（チェックイン）	
18:30-20:00	환영 교류회 장소: 포토 플라자지바 2 층 "로얄" 歓迎交流会（会場：ポートプラザちば 2F「ロイヤル」）	
20:15	호텔 도착 ホテル到着	

Day 4	1 월 20 일 (금)	1 月 20 日（金）
	◆복장: 세미정장 ◆준비물: 자료집, 명함, 통역수신기 ◆조식:호텔 4 층 Fiore / 석식: 각자 ◆숙박:호텔 센루트 지바	◆服装:ビジネスカジュアル ◆持物:ハンドブック、名刺、通訳レシーバー ◆朝食:ホテル 4F「Fiore」 / 夕食:各自 ◆宿泊:ホテルサンルート千葉
08:00	호텔 출발 ホテル出発	
9:20-12:30	지바현립 인바특수학교 방문 (점심: 도시락) 유네스코 학교 신청중 千葉県立印旛特別支援学校訪問（ユネスコスクール加盟申請中／昼食：お弁当）	
14:00-16:30	지바현립 고쿠분고등학교 방문 유네스코 학교 千葉県立国分高等学校訪問（ユネスコスクール）	
17:45	호텔 도착 ホテル着	

Day 5	1 월 21 일 (토)	1 月 21 日（土）
	◆복장: 캐주얼 ◆준비물: 자료집, 명함, 통역수신기 ◆조식:호텔 4 층 Fiore / 석식:초청가정과 함께 ◆숙박:호텔 센루트 지바	◆服装:カジュアル ◆持物:ハンドブック、名刺、通訳レシーバー ◆朝食:ホテル 4F「Fiore」 / 夕食:訪問家庭にて ◆宿泊:ホテルサンルート千葉
09:00	호텔 출발 ホテル出発	
9:30-11:30	평가회(발표 준비) 장소: 포토 플라자 지바 다목적실 情報共有会（ポートプラザちば多目的室）	
11:30-12:30	점심 식사 장소: 포토 플라자 지바 레스토랑 昼食（ポートプラザちばレストラン）	
13:00-15:00	지바현립 중앙박물관 견학 千葉県立中央博物館見学	
16:00-20:00/ 16:15-20:15	가정방문 ホームビジット	
20:00/ 20:15	호텔 도착 초청가정이 호텔까지 데려다 줌 ホテル着（ホストファミリーがホテルまで送り届け）	

(3) 全体プログラム

Day 6	1월22일 (일)	1月22日（日）
	◆복장: 정장 혹은 전통의상 ◆준비물: 자료집, 명함 ◆조식:각 호텔 / 석식: 환송 리셉션 ◆숙박:호텔 닛코 나리타	◆服装:正装または伝統衣装 ◆持物:ハンドブック、名刺 ◆朝食:各ホテル / 夕食:歓送レセプション ◆宿泊:ホテル日航成田
	【Group A】	
10:00	호텔 출발 (체크아웃) ホテル出発（チェックアウト）	
	【Group B / C】	
10:00	호텔 체크아웃 ホテルチェックアウト	
11:30	호텔 출발 ホテル出発	
	【전체 / 全体】	
12:30-13:30	점심 식사 장소: 스타미나타로 나리타점 昼食（すたみな太郎成田店）	
14:30-17:00	보고회 장소: 호텔닛코나리타 1층 "Ozora" 報告会（ホテル日航成田1階「おおぞら」）	
17:00	호텔 체크인 ホテルチェックイン	
18:00-20:00	폐회식・환송 리셉션 장소: 호텔닛코나리타 1층 "Ozora" 閉会式・歓送レセプション（ホテル日航成田1階「おおぞら」）	

Day 7	1월23일 (월)	1月23日（月）
	◆복장: 케주얼 ◆준비물: 여권 ◆조식:호텔 1층 SERENA	◆服装:カジュアル ◆持物:パスポート ◆朝食:ホテル1F「SERENA」
	【전체 / 全体】	
10:00	호텔 출발 (체크아웃) ホテル出発（チェックアウト）	
10:15	나리타공항 도착, 체크인 成田空港到着、チェックイン	
	【부산 / 釜山】	
12:45	나리타 공항 출발 (KE716) 成田発(KE716)	
15:10	김해공항 도착 釜山着	
	【서울 / ソウル】	
12:50	나리타 공항 출발 (KE702) 成田発(KE702)	
15:30	인천공항 도착 仁川着	

◆付録 3. 参加者リスト

【Aグループ：東京都狛江市】39 名

★Head of Delegation : A-1 Mr. GIM CHAECHUN
☆Group Leader: A-10 Mr. JANG GOOKSU

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
★A-1	김재춘	キム・ジェチュン GIM CHAECHUN	M	한국교육개발원 Korean Educational Development Institute	원장 院長	-	서울 ソウル
A-2	차지연	チャ・ジヨン CHA JIYEON	F	물메초등학교 Mulme Elementary School	교사 教諭	Homeroom Teacher (5th Grade)	제주 済州
A-3	조영주	チョ・ヨンジュ CHO YOUNGJOO	F	광주매곡초등학교 Maegok Elementary School	교사 教諭	-	경기 京畿道
A-4	최연실	チェ・ヨンシル CHOI YEONSIL	F	길주초등학교 Gilju Elementary School	교사 教諭	All	경북 慶尚北道
A-5	최둘남	チェ・ドゥルナム CHOI DULL NAM	F	울산광역시교육청 Ulsan Metropolitan Office of Education	장학사 指導主事	-	울산 蔚山
A-6	전성화	チョン・ソンファ CHUN SUNG HWA	F	광일초등학교 Gwangil Elementary School	교장 校長	-	경기 京畿道
A-7	홍기승	ホン・ギスン HONG GI SUNG	M	광주교육대학교광주부설초등학교 The Attached Elementary School of Gwangju National University of Education	교사 教諭	Music, Art	광주 光州
A-8	홍경희	ホン・ギョンヒ HONG KYUNG HEE	F	서울충무초등학교 Seoul Chungmu Elementary School	교장 校長	-	서울 ソウル
A-9	황경태	ファン・ギョンテ HWANG GYEONGTAE	M	안양남초등학교 Anyang Nam Elementary School	교장 校長	-	경기 京畿道
☆A-10	장국수	チャン・グクス JANG GOOKSU	M	길주초등학교 Gilju Elementary School	교장 校長	All	경북 慶尚北道
A-11	장명수	チャン・ミョンス JANG MYEONG SU	M	군북초등학교 Gunbook Elementary School	교사 教諭	Elementary School	충남 忠清南道
A-12	정유미	チョン・ユミ JEONG YUMI	F	양성초등학교 Yangseong Elementary School	교사 教諭	Special Education	경기 京畿道
A-13	진지민	ジン・ジミン JIN JIMIN	F	신림초등학교 Sinrim Elementary School	교사 教諭	All subjects	전북 全羅北道
A-14	정동조	チョン・ドンジョ JUNG DONGJO	M	순천왕지초등학교 Suncheon Wangji Elementary School	교장 校長	-	전남 全羅南道
A-16	김은아	キム・ウンア KIM EUNA	F	참샘초등학교 Chamsaem Elementary School	교사 教諭	All subjects	세종 世宗
A-17	김학기	キム・ハクギ KIM HAK KI	M	인천청량초등학교 Incheon Cheong Ryang Elementary School	교사 教諭	Elementary Education	인천 仁川
A-18	김정희	キム・ジョンヒ KIM JEONGHEE	F	예림초등학교 Yerim Elementary School	교장 校長	-	경남 慶尚南道
A-19	김지선	キム・ジソン KIM JISUN	F	서울염경초등학교 Seoul Yeomkyoung Elementary School	교사 教諭	English	서울 ソウル
A-20	김승익	キム・スンイク KIM SEUNGIK	M	서울특별시교육청 Seoul Metropolitan Office of Education	장학관 統括指導主事	Physics	서울 ソウル

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
A-21	김원준	キム・ウォンジュン KIM WONJUNE	M	동산초등학교 Dongsan Elementary School	교사 教諭	Science	경남 慶尚南道
A-22	김영태	キム・ヨンテ KIM YEOUNG THAE	M	용연초등학교 Youngyeon Elementary School	교감 教頭	-	울산 蔚山
A-23	권혁준	クォン・ヒョクジュン KWON HYUCKJOON	M	강원도교육청 Gangwon Provincial Office of Education	교사 教諭	-	강원 江原道
A-24	이하진	イ・ハジン LEE HAJIN	M	남원주초등학교 Namwonju Elementary School	교사 教諭	-	강원 江原道
A-25	이향아	イ・ヒャンア LEE HYANG-AH	F	서울상월초등학교 Seoul Sangwol Elementary School	교장 校長	Multicultural Education	서울 ソウル
A-26	이향자	イ・ヒャンジャ LEE HYANGJA	F	석봉초등학교 Sukbong Elementary School	교감 教頭	Elementary Education	경남 慶尚南道
A-27	이정순	イ・ジョンスン LEE JEONG SOON	F	양산초등학교 Yangsan Elementary School	교감 教頭	-	충북 忠清北道
A-28	이지현	イ・ジヒョン LEE JIHYUN	F	자란초등학교 Jaran Elementary School	교사 教諭	Elementary Education	경기 京畿道
A-29	임규선	イム・ギュソン LIM GEUSUN	M	안동동부초등학교 Andongdongbu Elementary School	교장 校長	-	경북 慶尚北道
A-30	노화연	ノ・ファヨン NOH HWA YEON	F	연현초등학교 Yeonhyeon Elementary School	교사 教諭	English, Science	경기 京畿道
A-31	노혁	ノ・ヒョク NOH HYEAK	M	경기도교육청 Gyeonggi Provincial Office of Education	사무관 事務官	-	경기 京畿道
A-32	박지원	パク・ジウォン PARK JIEWON	F	반천초등학교 Bancheon Elementary School	교사 教諭	Elementary Education	울산 蔚山
A-33	박태연	パク・テヨン PARK TAE YEON	F	석천초등학교 Seokcheon Elementary School	교장 校長	-	경기 京畿道
A-34	박영자	パク・ヨンジャ PARK YOUNGJA	F	영동초등학교 Yeongdong Elementary School	교장 校長	-	충북 忠清北道
A-35	노정아	ノ・ジョンア RHO JANGAH	F	안천초등학교 Ancheon Elementary School	교사 教諭	Science	서울 ソウル
A-36	선광식	ソン・グァンシク SUN KWANG SIK	M	대련한국국제학교 Dalian Korean International School	교사 教諭	-	중국 中国
A-37	임진환	イム・ジンファン IM JIN HWAN	M	세종시교육청 Sejong City Office of Education	장학관 統括指導主事	Music	세종 世宗
A-38	이하나	イ・ハナ LEE HANA	F	교육부 Ministry of Education (MOE)	교육연구사 教育研究士	-	세종 世宗
A-39	한미현	ハン・ミヒョン HAN MIHYUN	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	선임행정원 先任行政員	-	경기 京畿道
A-40	서현숙	ソ・ヒョンスク SEO HYUNSOOK	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	팀장 チーム長	-	서울 ソウル

ACCU 随行員：河口　枝里子
通訳：金　美京、金　敬善

A グループ参加者

有馬教育長（中央）と狛江市のゆるキャラ安安丸とえこまさんと記念撮影をする訪問団

児童からの歓迎を受ける様子（狛江市立第一小学校）

授業交流で文化を紹介しあう様子（町田市立小山田小学校）

日韓教育交流会の様子（狛江市立緑野小学校）

えのき学級見学の様子（狛江市立緑野小学校）

日韓教育交流会（1 月 21 日）成果まとめ

		現状・課題	解決策	取り入れたい点
① 教科横断型				
A	日本	総合的な学習の時間を中心に教科横断型 総合以外ではあまり行われない	人だけではなく、学年や学校カリキュラムを作る。 参考にしたいこと･･･教科を統合した教科書（1、2年）	
	韓国	1、2年生の統合教科（テーマこと統合授業）春・夏・秋・冬、教科間又は教科内融合授業（2015改訂の創意融合型人材育成）、創意的な体験活動、進路教育の活性化		テーマを決めて全教師が1年間協力して共同研修を実施、基本教育（生活指導、作文授業、書道）が充実、総合的学習時間に融合活動を長期プロジェクトで実施（学校の伝統や特徴を生かせる融合授業）
B	日本	体験学習を行っているが、課題意識として広がっていない、自主的な学習に発展させていくのが難しい、学習内容を生活の中に還元させるのが難しい。	達段階にあった資料を揃える、地域にあった題材を設定する、木曽基本の定着	世界を意識した教育、教科横断的な連携
	韓国	小1、2年生は統合教科、小3～6年生はテーマ統合、創意的な体験活動活用、教科の再構成	将来のための力を育てる、学校・生徒・地域の特性別に再構成、地域と連帯した教育課程の運営	地域と連帯した教育の活性化、基礎生活習慣の教育、総合的学習時間の科目の編成
② 健康教育				
A	日本	体力調査（投力・握力の低下、睡眠不足）、運動の日常化、能力の二極化、保健の学習（3年～）	ゲストティーチャー、学校行事（体育的活動）、ICTの活用（アプリなど）、スマホの約束（家庭）	運動の日常化にむけた朝運動（登校後マラソン）と休み時間の充実、長期休業や放課後活動の充実（外部からのプログラム）
	韓国	近い距離からも車で登校、スマートフォンの使用で屋外での活動時間が減り体力低下、長距離競走など大変な運動を避ける、体育・運動・生涯体育（生活体育）について関心を高めるのが課題	週3回ある授業を充実させる、登校は歩いて・運動場を散歩・縄跳び（休み時間に）、スポーツクラブ・放課後学校で体育を勧める	生徒の体育測定・管理、専門家（スポーツ選手）を招き関心を高める、様々な校内の大会（水泳・マラソン）などを通して動機を与える
B	日本	体育に苦手な子を積極的に参加させるには 偏食について	子どもが主体的な活動となるような工夫、教科の中で「食」の大切さを伝える。全部食べたら褒める。	勝負や競争をしない、男女差をなくす。一人ひとりに役割を与える。
	韓国	女子生徒の消極的な体育活動の参加、食べ物の材料についての知識不足でインスタント食品を好む・偏食増加	男女生徒皆が楽しめる新しい体育活動の開発、稲作や畑作りの活性化・調理過程全般を体験できる機会を提供	生徒が楽しめる実戦的なスポーツ経験、育てた収穫物で料理をしたり食べて食べ物の大切さを教育
③特別支援				
A	日本	特別支援教室の名前（けやき・ひまわり）、児童は曜日や時間割によって来る（グループ学習、個別学習、ソーシャルスキルを学ぶ）、問題点は、理解教育、人員環境の設備（教員数、教室数、個別学習室）		学校内の時間だけではなく、放課後に支援教室に行っている。また、特別なセンターがあり、個別に選択できる。そこで専門的な教育を受けることができる。
	韓国	病院で障害等級を受けて特別支援学校（障害が重い）・特別支援学級（障害が軽い）に在学	保護者への支援・相談、障害生徒支援についての効果管理（市役所）	
B	日本	知的には高いが、読み書きが苦手な子や情緒に問題がある子は特別支援学級に入る。ものを伝えることが苦手な子どもに個に応じた支援	特別支援学級の担任と学級担任が連携して個に応じた支援を図っている。	登校できない子は、家庭へいって教えている。
	韓国	時間制授業で教科（国語・数学など）時間を活用して学習・社会性教育の実施、放課後学校か治療支援から選べる、1クラスに6人まで		特別心理士（専門家）がいて障害生徒及び助けが必要な生徒を支援する、障害を前向きに認識（コミュニケーション・社会性教育などの支援）、障碍者スポーツの活性化、障害レベルによる支援システム構築
④いじめ・不登校				
A	日本	暴力的ないじめより、SNS等を使った仲間はずれが増えている。いじめの認知件数は増加しているが、学校が対応している。	カウンセラーをもっと利用する、SOSに気づいてあげる、いじめられていることを打ち明ける勇気を持たせる、保護者や地域、学校など回りの人と協力をする。	年間を通していじめの調査やいじめに関する研修や会議を計画的にしている。
	韓国	いじめが高学年から低学年に進んでる、SNSでのいじめが拡散、いじめの原因が複雑で様々	生徒自らプライドを持つ、扇情的なマスコミ番組は控える、体罰よりは回復のための生活指導、カウンセラー教師の配置及び拡大、不登校生徒への社会的関心と代案プログラムを備える	全ての子どもを自分の子どものように考える
B	日本	いじめ1%、不登校1%、5%　年々件数は増加している	前に防ぐ、相談カウンセラー、組織で対応（1人で抱え込まない）暴力対策委員会を利用、心に寄り添う、	チーム対応を明確にしている点
	韓国	いじめ3%、不登校3%、0.5%　年々件数は増加している	事前に防ぐための活動、相談、組織的な対応（訓話など）、学校暴力対策委員会を利用、心に寄り添う	基礎的な教育
⑤ 外国語教育・英語教育				
A	日本	3,4年生は来年スタート、5,6年生は週1時間、10年前から英語教育がスタート。授業はALTと担任の二人体制、2016年から海外派遣がスタート		教員養成のシステムがよい。オンラインで自主的に英語の勉強ができる。土曜日や放課後に英語の課外授業がある。
	韓国	3、4年生は週2回、5、6年生は週3回指導、1997年から英語教育実施、ネーティブ教師と担任先生、又は英語担当教師のチームで教える、英語体験専用教室を設置		ライティングが良くできている、変わろうと努力しているところ。
B	日本	3,4年は週1回、5,6年は週2回（2018年施行）、クラス担任と外国人講師、英語推進リーダーのスタート。 先生の研修が不足している。英語教育に対する情報不足により、教員の理解が得られない。	文部科学省が中心になって明確な研修プログラムを作ってもらいたい。	
	韓国	3,4年は週2回、5,6年は週3回、クラス担任のみ、専門の先生、ALT、会話専門の先生、専門の先生+ネイティブ 教育（塾や英語教室）があり、学校への不満がある。英語専門の先生を確保するのが難しい。	保護者の認識を変える。（大学入試が変わることが大切）	

【B グループ：千葉県八千代市】40 名

☆Group Leader: B-34 Mr. SEON JONGBOK

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
B-1	조선옥	チョ・ソンオク CHO SEONOK	F	금정고등학교 Keumjeong High School	교사 教諭	Korean Language and Literature	부산 釜山
B-2	추성식	チュ・ソンシク CHU SUNG SIK	M	충청남도교육청 Chungcheongnam-do Office of Education	장학사 指導主事	English	충남 忠清南道
B-3	길미선	ギル・ミソン GIL MISUN	F	마송중학교 Masong Middle School	교사 教諭	English	경기 京畿道
B-4	홍성심	ホン・ソンシム HONG SUNGSIM	F	보성여자중학교 Bosung Girls' Middle School	교장 校長	-	서울 ソウル
B-5	황성희	ファン・ソンヒ HWANG SEONG HEE	F	영훈국제중학교 Younghoon International Middle School	교장 校長	-	서울 ソウル
B-6	정정호	チョン・ジョンホ JEONG JEONG HO	M	미추홀외국어고등학교 Michuhol Foreign Language High School	교장 校長	English	인천 仁川
B-7	정지연	チョン・ジヨン JEONG JIYEON	F	시흥은행중학교 Shiheung Eunhaeng Middle School	교사 教諭	Korean	경기 京畿道
B-8	강성	カン・ソン KANG SUNG	M	염광중학교 Yumkwang Middle School	교사 教諭	Social Studies	서울 ソウル
B-9	강윤희	カン・ユンヒ KANG YOONHEE	F	광주광역시교육청 Gwangju Metropolitan Office of Education	장학사 指導主事	-	광주 光州
B-10	강영호	カン・ヨンホ KANG YOUNG HO	M	창원중앙고등학교 Changwon Jungang High School	교장 校長	Physics	경남 慶尚南道
B-11	길영주	ギル・ヨンジュ KEEL YOUNG-JU	F	대전태평중학교 Daejeon Taephyeong Middle School	교사 教諭	English	대전 大田
B-12	김도영	キム・ドヨン KIM DOYOUNG	F	진해여자고등학교 Jinhae Girl's High School	교장 校長	-	경남 慶尚南道
B-13	김규하	キム・ギュハ KIM GYUHA	M	함창중학교 Hamchang Middle School	교감 教頭	-	경북 慶尚北道
B-14	김인숙	キム・インスク KIM INSUK	F	한국교원대학교부설미호중학교 The Mi-ho Middle school affiliated with Korea National University of Education	교사 教諭	Home Economics	충북 忠清北道
B-15	정종문	チョン・ジョンムン JUNG JONG MOON	M	신라공업고등학교 Silla Technical High School	교사 教諭	Electrical Engineering	경북 慶尚北道
B-16	김남훈	キム・ナムフン KIM NAMHOON	M	세종국제고등학교 Sejong Global High School	교장 校長	English	세종 世宗
B-17	김요섭	キム・ヨソプ KIM YOSEOP	M	전남외국어고등학교 Jeonnam Foreign Language High School	교사 教諭	Korean	전남 全羅南道
B-18	이안옥	イ・アンオク LEE ANOK	F	선일여자중학교 Sunil Girls' Middle School	교사 教諭	Health Education	서울 ソウル
B-19	이병곤	イ・ビョンゴン LEE BYUNG GON	M	염광중학교 Yumkwang Middle School	교장 校長	Commerce	서울 ソウル
B-20	이경환	イ・ギョンフワン LEE GYUNGHWAN	M	화양중학교 Hwayang Middle School	교장 校長	History	전남 全羅南道

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
B-21	이해경	イ・ヘギョン LEE HAE-KYOUNG	F	만수고등학교 Incheon Mansu High School	교장 校長	-	인천 仁川
B-22	이현덕	イ・ヒョンドク LEE HYUNDUK	M	충남외국어고등학교 Chungnam Foreign Language High School	교장 校長	-	충남 忠清南道
B-23	이지영	イ・ジヨン LEE JIYOUNG	F	영훈국제중학교 Younghoon International Middle School	교사 教諭	Social Studies	서울 ソウル
B-24	이기한	イ・ギハン LEE KIHAN	M	경기자동차과학고등학교 Gyeonggi High School of Automotive Science	교사 教諭	Math	경기 京畿道
B-25	이미선	イ・ミソン LEE MEESEON	F	대룡중학교 Daeyong Middle School	교사 教諭	Music	강원 江原道
B-26	이상기	イ・サンギ LEE SANGGI	M	송면중학교 Songmyun Middle School	교사 教諭	Science	충북 忠清北道
B-27	이연숙	イ・ヨンスク LEE YEONSOOK	F	인천양촌중학교 Incheon YangChon Middle School	교감 教頭	-	인천 仁川
B-28	문태성	ムン・テソン MOON TAESEOUNG	M	제주중앙고등학교 Jeju Jungang High School	교사 教諭	Business Administration	제주 済州
B-29	노복순	ノ・ボクスン NOH BOK SOON	F	늘푸른중학교 Neulpuren Middle School	교장 校長	English	경기 京畿道
B-30	오성숙	オ・ソンスク OH SEONGSUK	F	대전광역시교육청 Daejeon Metropolitan Office of Education	장학사 指導主事	English	대전 大田
B-31	박찬임	パク・チャンイム PARK CHAN NIM	F	용강중학교 Yonggang Middle School	교사 教諭	English	서울 ソウル
B-32	박경숙	パク・キョンソク PARK KYOUNG SOOK	F	진건중학교 Jingeon Middle School	교감 教頭	Korean	경기 京畿道
B-33	서왕원	ソ・ワンウォン SEO WANGWON	M	해미중학교 Haemi Middle School	교사 教諭	History	충남 忠清南道
☆B-34	선종복	ソン・ジョンボク SEON JONGBOK	M	여의도중학교 Seoul Yeouido Middle School	교장 校長	-	서울 ソウル
B-35	양성윤	ヤン・ソンユン YANG SUNGYOON	M	대구서부고등학교 Daegu Seobu High School	교장 校長	-	대구 大邱
B-36	양완국	ヤン・ワングク YANG WAN GOOK	M	월촌중학교 Wolchon Middle School	교감 教頭	Electrical and Electronics Studies	서울 ソウル
B-37	윤소희	ユン・ソヒ YOON SO HEE	F	원봉중학교 Wonbong Middle School	교사 教諭	Chinese	충북 忠清北道
B-38	윤선옥	ユン・ソンオク YOUN SUN OK	F	인천양촌중학교 Incheon YangChon Middle School	교사 教諭	English	인천 仁川
B-39	박기연	パク・キヨン PARK KIYEON	F	교육부 Ministry of Education (MOE)	주무관 主務官	-	세종 世宗
B-40	이지은	イ・ジウン LEE JI EUN	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	담당관 担当官	-	서울 ソウル

ACCU 随行員：齋藤　盛午
通訳：小柳　恩英、金　美英

B グループ参加者

秀明大学にて記念撮影をする訪問団

音楽やダンスを通じて交流を楽しんだ両国の教職員
（歓迎交流会）

熱心に英語の授業を参観する訪問団員
（八千代市立萱田中学校）

家庭科の授業に興味を示す訪問団員
（八千代市立萱田小学校）

教育について熱く語り合う両国の教職員
（文京学院大学女子中学校高等学校）

【C グループ：千葉県】39 名

☆Group Leader: C-21 Mr. KIM YOUNGBO

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
C-1	채광희	チェ・グァンヒ CHAE KWANGHEE	F	미추홀외국어고등학교 Michuhol Foreign Language High School	교사 教諭	Arts	인천 仁川
C-2	장재만	チャン・ジェマン CHANG JAE MAN	M	장성여자고등학교 Jangsung Girls' High School	교장 校長	-	강원 江原道
C-3	조재승	チョ・ジェスン CHO JAESEUNG	M	전주신흥고등학교 Jeon Ju Shin Heung High School	교장 校長	Korean History	전북 全羅北道
C-4	조상길	チョ・サンギル CHO SANGKIL	M	효성여자고등학교 Hyosung Girls' High School	교사 教諭	Physical Education	대구 大邱
C-5	천현봉	チョン・ヒョンボン CHON HYUNBONG	M	상록고등학교 Sangrok High School	교장 校長	Music	경기 京畿道
C-6	하태완	ハ・テワン HA TAEWAN	M	안동영명학교 Andong Young Myung School	교사 教諭	Middle School Youth Group	경북 慶尚北道
C-7	이효숙	イ・ヒョスク YI HYO SUK	F	경상북도교육청 Gyeongsangbuk-do Office of Education	장학사 指導主事	-	경북 慶尚北道
C-8	전영대	チョン・ヨンデ JEON YOUNG DAE	M	인천광역시교육청 Incheon Metropolitan City Office of Education	장학사 指導主事	-	인천 仁川
C-9	정은주	チョン・ウンジュ JEONG EUNJU	F	서울대학교사범대학부설고등학교 Seoul National University High School	교사 教諭	Korean Language	서울 ソウル
C-10	정세리	チョン・セリ JEONG SELI	F	남악고등학교 Namak High School	교사 教諭	Japanese	전남 全羅南道
C-11	주진영	ジュ・ジンヨン JU JINYOUNG	M	대전외국어고등학교 Daejeon Foreign Language High School	교감 教頭	Korean	대전 大田
C-12	전형숙	チョン・ヒョンスク JUN HYUNGSUK	F	한양대학교사범대학부속고등학교 Hanyang University High School	교사 教諭	Math	서울 ソウル
C-13	정경아	チョン・ギョンア JUNG KYUNGAH	F	한국관광고등학교 Korea Tourism Senior High School	교사 教諭	Japanese	경기 京畿道
C-14	강민구	カン・ミング KANG MINGU	M	아산성심학교 Asan Sungsim School	교사 教諭	Special Education	충남 忠清南道
C-15	김두봉	キム・ドゥボン KIM DOOBONG	M	경성전자고등학교 Kyeongsung Electronic High School	교사 教諭	Ethics	부산 釜山
C-16	김형승	キム・ヒョンスン KIM HYUNG SEUNG	M	대전지족고등학교 Daejeon JiJok High School	교장 校長	-	대전 大田
C-17	김지숙	キム・ジスク KIM JI SUK	F	동일여자고등학교 Dongil Girls' High School	교사 教諭	Korean Language	서울 ソウル
C-18	김종선	キム・ジョンソン KIM JONGSUN	M	문산수억고등학교 Munsan Sueok High School	교사 教諭	Korean Language and Literature	경기 京畿道
C-19	김문인	キム・ムンイン KIM MUNIN	F	동탄국제고등학교 Dongtan Global High School	교사 教諭	Math	경기 京畿道
C-20	김순자	キム・スンジャ KIM SOONJA	F	애월고등학교 Aewol High School	교사 教諭	Chinese	제주 済州

No	성함 氏名		성별 性別	소속 所属	직책 役職	과목 科目	소재지 所在地
☆C-21	김영보	キム･ヨンボ KIM YOUNGBO	M	송현여자고등학교 Songhyun Girls' High School	교장 校長	-	대구 大邱
C-22	고경천	コ・ギョンチョン KO KYEONG CHEON	M	성포고등학교 Seongpo High School	교장 校長	-	경기 京畿道
C-23	고옥란	コ・オクラン KO OGRAN	F	만수고등학교 Incheon Mansu High School	교사 教諭	-	인천 仁川
C-24	권영춘	クォン・ヨンチュン KWON YOUNGCHUN	M	안동영명학교 Andong Young Myung School	교감 教頭	Middle School Youth Group	경북 慶尚北道
C-25	이한나	イ・ハンナ LEE HAN NA	F	진경여자고등학교 Jingyeong Girl's High School	교사 教諭	History	전북 全羅北道
C-26	이재오	イ・ジェオ LEE JAEOH	M	경상남도교육청 Gyeongsangnam-do Office of Education	교육행정원 教育行政員	-	경남 慶尚南道
C-27	이종민	イ・ジョンミン LEE JONGMIN	M	진해고등학교 Jinhae High School	교감 教頭	Biology	경남 慶尚南道
C-28	이신애	イ・シンエ LEE SINAE	F	서울고등학교 Seoul High School	교사 教諭	English	서울 ソウル
C-29	이영세	イ・ヨンセ LEE YOUNG SE	M	원화여자고등학교 Wonhwa Girls' High School	교사 教諭	Social Studies	대구 大邱
C-30	임성표	イム・ソンピョ LIM SUNGPYO	M	덕이고등학교 Deogi High School	교사 教諭	Physics	경기 京畿道
C-31	민경희	ミン・ギョンヒ MIN KYUNG HEE	F	작전여자고등학교 Jackjeon Girls' High School	교장 校長	-	인천 仁川
C-32	문윤주	ムン・ユンジュ MUN YUNJU	M	삼호고등학교 Samho High School	교사 教諭	Korean	전남 全羅南道
C-33	오재훈	オ・ジェフン OH JAE HOON	M	대전송촌고등학교 Daejeon Songchon High School	교장 校長	Social Education	대전 大田
C-34	박현숙	パク・ヒョンスク PARK HYUN SOOK	F	동국대학교사범대학부속여자고등학교 Girls' High School Attached to College of Education, Dongguk University	교장 校長	English	서울 ソウル
C-35	박정욱	パク・ジョンウク PARK JOUNGWOOK	M	중화고등학교 Junghwa High School	교감 教頭	Math	서울 ソウル
C-36	서동신	ソ・ドンシン SEO DONG SHIN	F	수원외국어고등학교 Suwon Academy of World Languages	교장 校長	Japanese	경기 京畿道
C-37	우제환	ウ・ジェファン WOO JEA WHOAN	M	충남고등학교 Chungnam High School	교장 校長	Math	대전 大田
C-39	윤영선	ユン・ヨンソン YOON YOUNG SUN	M	인천국제고등학교 Incheon International High School	교사 教諭	English	인천 仁川
C-40	백승현	ペク・スンヒョン BAEK SEUNGHYUN	F	유네스코한국위원회 Korean National Commission for UNESCO	담당관 担当官	-	서울 ソウル

ACCU 随行員：高松　彩乃
通訳：朴　志ヨン、李　貞姫

Cグループ参加者

千葉県歓迎交流会での集合写真

教職員・生徒との昼食交流（浅野中学・高等学校）

校内見学（千葉県立印旛特別支援学校）

金グループ長による挨拶（歓迎交流会）

韓国文化を紹介する授業（千葉県立国分高等学校）

◆付録 4. 関係機関リスト

（1） 全体プログラム

United Nations University (UNU) ／国際連合大学
5-53-70 Jingumae Shibuya-ku, Tokyo 150-8925
〒150-8925　東京都渋谷区神宮前 5-53-70
Tel:+81-3-5467-1212　Fax:+81-3-3499-2828　URL: http://unu.edu/

Ph.D. TAKEMOTO Kazuhiko
Director,
UNU-Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)
竹本　和彦
国際連合大学　サステイナビリティ高等研究所　所長

Ms. FURUTA Tomomi
Administrative Director,
UNU-Institute for the Advanced Study of Sustainability (UNU-IAS)
古田　知美
国際連合大学サステイナビリティ高等研究所　事務局長

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) ／文部科学省
3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8959
〒100-8959　東京都千代田区霞ヶ関 3 丁目 2 番 2 号
TEL: +81-3-5253-4111　URL: http://www.mext.go.jp

Mr. SAGISAKA Katsuhisa
Director-General for International Affairs
匂坂　克久
大臣官房国際課　課長

Embassy of the Republic of Korea／駐日本国大韓民国大使館
1-2-5 Minami-Azabu, Minato-ku, Tokyo 106-8577
〒106-8577　東京都港区南麻布 1 丁目 2 番 5 号
TEL: +81-3-3452-7611/9　Fax: +81-3-5476-3299
URL: http://www.japanem.or.kr

Mr. CHOI Seongyu
Counsellor, Embassy of the Republic of Korea to Japan
崔　成有
駐日本国大韓民国大使館　参事官

（２）グループプログラム

Board of Education (Group Programme)
受入れ教育委員会でご協力いただいた方々

Group A. Komae City Board of Education／狛江市教育委員会
1-1-5 Honcho Izumi Komae-City, Tokyo 201-8585
〒201-8585　狛江市和泉本町 1 丁目 1 番 5 号
TEL: +81-3-3430-1111
URL: https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/48,html

Superintendent: Mr. ARIMA Moriichi
Programme Coordinator: Mr. SAKAMOTO Naoki
教育長：有馬　守一
担当者：坂本　尚毅

Group B. Yachiyo City Board of Education／八千代市教育委員会
138-2 Ohwada Yachiyo-shi,Chiba, 276-0045
〒276-0045　千葉県八千代市大和田 138-2
TEL: +81-47-481-0302
URL: http://www.yachiyo.ed.jp/

Superintendent: Mr. KAGAYA Takashi
Programme Coordinator: Ms. OSAWA Noriko, Mr. TANEMURA Tamotsu
教育長：加賀谷　孝
担当者：大澤　紀子、種村　保

Group C. Chiba Prefecture Board of Education／千葉県教育委員会
1-1, Ichiba-cho, Chuo-ku, Chiba-shi, Chiba 260-8662
〒260-8662　千葉県千葉市中央区市場町 1-1
TEL: +81-43-223-4176
URL: http://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/

Superintendent: Mr. NAITO Toshiya
Programme Coordinator: Mr. SAKAMOTO Kazunori
教育長：内藤　敏也
担当者：坂本　和則

School Visit Hosts (Alumini of Invitation Programme for Japanese Teachers to Korea)
学校訪問などでご協力いただいた方々（過去の派遣プログラム参加者）

Group A Mr. HOSOYA Shuntaro, Komae City Broad of Education (2015 A Group)
細谷　俊太郎　狛江市教育委員会

Mr. SAKAMOTO Naoki, Komae City Broad of Education (2016 A Group)
坂本　尚毅　狛江市教育委員会

Mr. SHIBATA Hosaku, Komae Dai-ichi Elementary School (2016 A Group)
柴田　芳作　狛江市立狛江第一小学校

Mr. OBA Kazuteru, Komae City Midorino Elementary School (2016 A Group)
大場　一輝　狛江市立緑野小学校

Mr. MORIYA Toru, Komae Dai-san Elementary School (2016 A Group)
森谷　亨　狛江市立狛江第三小学校

Mr. MOMOTA Akihiro, Oyamada Elemetary school (2016 A Group)
百田　明弘　町田市立小山田小学校

Group B Mr. KUROTOBI Masaki, Education Center, Yachiyo City Board of Education (2011 B Group)
黒飛　雅樹　八千代市教育委員会　教育センター

Ms. NAGAISHI Toshie, Yachiyo City Board of Education (2013 A Group)
永石　利恵　八千代市教育委員会

Mr. NODA Hiroyuki, Kayada Elementary School (2016 A Group)
野田　裕行　八千代市立萱田小学校

Ms. OZAKI Saori, Yachiyo City Board of Education (2016 B Group)
尾崎　さおり　八千代市教育委員会

Ms. KOBAYASHI Miho, Kayada Junior High School (2016 B Group)
小林　美帆　八千代市立萱田中学校

Group C Ms. YAMAJI Yoko, Kokubun High School (2015 A Group)
山地　陽子　千葉県立国分高等学校

Mr. UMEZAWA Kazuhisa, Chiba Prefecture Board of Education (2016 A Group)
梅澤　一久　千葉県教育庁

Mr. MIYASAKA Takeshi, Asano Junior and Senior High School (2016 B Group)
宮坂　武志　浅野中学・高等学校

Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU) ／公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター
Japan Publishers Building, 6 Fukuromachi, Shinjuku-ku, Tokyo 162-8484
〒162-8484　東京都新宿区袋町 6　日本出版会館
TEL: +81-3-3269-4498　FAX: +81-3-3269-4510
Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp　URL: http://www.accu.or.jp

Mr. TAMURA Tetsuo
Director-General
田村　哲夫
理事長

Mr. HORIE Shinichiro
Executive Director, Secretary-General
堀江　振一郎
業務執行理事・事務局長

Ms. SHINDO Yumi
Director, International Exchange Department
進藤　由美
人物交流部　部長

Ms. TAKAMATSU Ayano (Group C)
Programme Officer, International Exchange Department
高松　彩乃
人物交流部　事務専門員

Mr. SAITO Seigo (Group B)
Programme Officer, International Exchange Department
齋藤　盛午
人物交流部　事務専門員

Ms. KAWAGUCHI Eriko (Group A)
Programme Officer, International Exchange Department
河口　枝里子
人物交流部　事務専門員

Ms. ARIZONO Yoshiko
Programme Officer, International Exchange Department
有薗　佳子
人物交流部　事務専門員

◆付録 5. 文部科学省講義資料

日本の初等中等教育の概要

文部科学省　初等中等教育局
市川　清治
平成29年1月17日

文部科学省

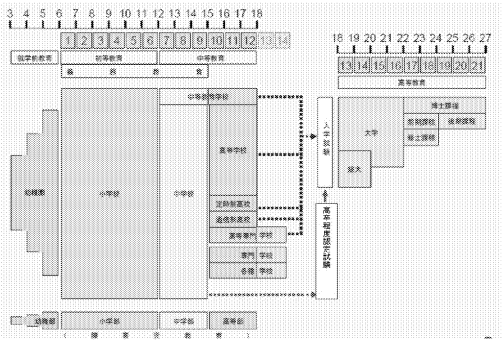
講演の構成

Ⅰ. 日本の初等中等教育制度・・・・・・・・・・・・3

Ⅱ. 日本の教育政策の一部の紹介・・・・・・・・14

Ⅰ. 日本の基本的な初等中等教育制度

学校体系

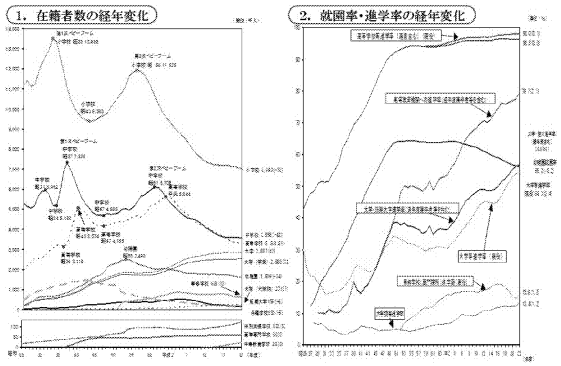


学校数、生徒、教員数

		学校数	生徒数	教員数
幼稚園		11,100	133万人	10万人
小学校	6 年	19,900	639万人	41万人
中学校	3 年	10,200	335万人	25万人
高等学校	3 年	4,800	326万人	23万人
中等教育学校	6 年	50	3万人	2,500人
特別支援学校		1,100	14万人	8万人

出典：平成28年度　学校基本調査

在籍者数、就園率・就学率の経年変化



義務教育制度の概要

憲　法

第26条 すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。

すべて国民は、法律の定めるところにより、その保護する子女に普通教育を受けさせる義務を負ふ。義務教育は、これを無償とする。

教育基本法

第5条　国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。

2　義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

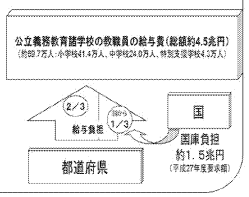
3　国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。

4　国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

7

義務教育費国庫負担制度の概要

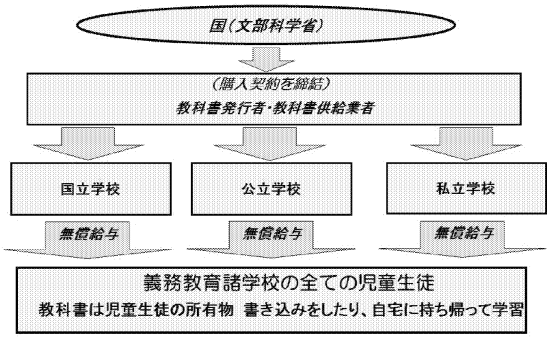
●憲法の要請に基づき、義務教育の根幹（機会均等、水準確保、無償制）を国が責任をもって支える制度。
●市町村が小中学校を設置・運営。
●都道府県が教職員を任命し、給与を負担。
●国は教職員給与費の1／3を負担。



【教員の給与】
●人材確保法は、教員に優れた人材を確保し、もって義務教育水準の維持向上を図ることを目的として、教員の給与を一般の公務員より優遇することを定めている。

8

教科書無償給与制度



9

教員養成・免許制度の概要

【免許状主義】

教員は、教育職員免許法により授与される各担当の免許状を有する者でなければならない。

【教員養成・採用・研修等の各段階を通じた教員の資質向上】

養成
- 大学における養成が原則
- 教職課程の認定を受けた学科等において、教科に関する科目、教職に関する科目などを修得することにより、採用当初から学級や教科を担任し、教科指導、生徒指導等を実践するために必要な基礎的な資質能力を養成

採用
- 都道府県・指定都市教育委員会等において採用選考試験を実施
- 多面的な人物評価の一層の推進
  - ・面接試験・実技試験の重視
  - ・様々な社会体験等の評価

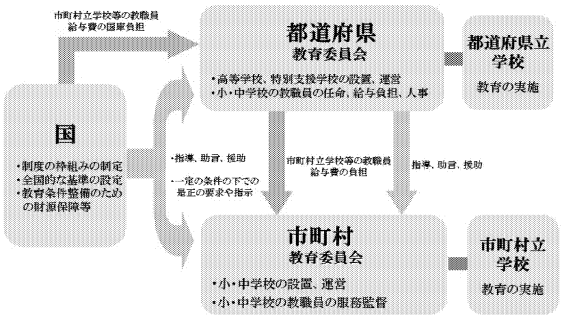
研修
- 都道府県教育委員会等における研修
  - ・初任者研修　・10年経験者研修　等
- 国（教員研修センター）における研修
  - ・各地域において中心的な役割を担う教職員に対する学校運営研修
  - ・喫緊の重要課題研修　等

適切な人事管理
- 指導が不適切な教員に対する人事管理システム　の適切な運用
- 教員評価システム　●　優秀教員表彰

免許更新制
- 教員が定期的に最新の知識技能を身につけることで教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることが目的
- 免許状に10年の有効期間を定める

10

教育行政制度の概要（国・都道府県・市町村の役割）

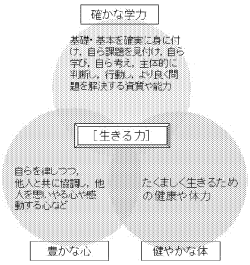


11

学習指導要領とは

全国のどの地域で教育を受けても、一定の水準の教育を受けられるようにするため、文部科学省では、学校教育法等に基づき、各学校で教育課程（カリキュラム）を編成する際の基準を定めています。これを「学習指導要領」といいます。

「学習指導要領」では、小学校、中学校、高等学校等ごとに、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容を定めています。また、これとは別に、学校教育法施行規則で、例えば小・中学校の教科等の年間の標準授業時数等が定められています。　各学校では、この「学習指導要領」や年間の標準授業時数等を踏まえ、地域や学校の実態に応じて、教育課程（カリキュラム）を編成しています。



現行学習指導要領においては，これまでの理念を継承し，教育基本法改正等を踏まえ，「生きる力」を育成

12

学習指導要領改訂の視点

新しい時代に必要となる資質・能力の育成

①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」
各教科等に関する個別の知識や技能など。身体的技能や芸術表現のための技能等も含む。

②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」
主体的・協働的に問題を発見し解決していくために必要な思考力・判断力・表現力等。

③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（人間性や学びに向かう力等）」
①や②の力が働く方向性を決定付ける情意や態度等に関わるもの。以下のようなものが含まれる。

・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を制御する能力など、いわゆる「メタ認知」に関するもの。
・多様性を尊重する態度と互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会作りに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、人間性に関するもの。

何ができるようになるか

育成すべき資質・能力を育む観点からの学習評価の充実

何を学ぶか

育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

- ◆ グローバル社会において不可欠な英語の能力の強化（小学校高学年での教科化等）や、我が国の伝統的な文化に関する教育の充実
- ◆ 国家・社会の責任ある形成者として、また、自立した人間として生きる力の育成に向けた高等学校教育の改善（地理歴史科における「地理総合」「歴史総合」、公民科における「公共」の設置等、新たな共通必履修科目の設置や科目構成の見直しなど抜本的な検討を行う。） 等

どのように学ぶか

アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善

- ◆ 習得・活用・探究という学習プロセスのなかで、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの実現ができているかどうか
- ◆ 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか
- ◆ 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか

13

Ⅱ．日本の教育政策の一部の紹介
高大接続について

「高大接続改革」

○「高大接続改革」とは何か。

- ◆ 大学入試改革も含まれているが、それだけではない。
- ◆ ①「高等学校教育」と、
  ②「大学教育」、
  ③両者を接続する「大学入学者選抜」を、
  連続した1つの軸として、一体的に改革するもの。

○なぜ「高大接続改革」なのか。（なぜ三者一体なのか。）

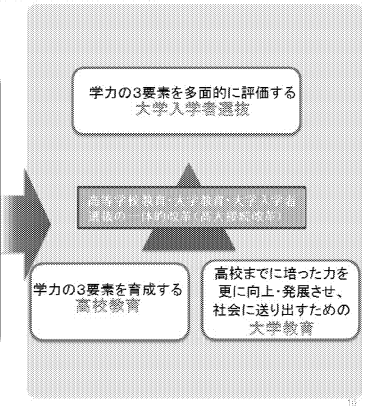
- ◆「高等学校教育」と「入学者選抜（大学入試）」は一緒に変わる必要。
  - ・大学入試が変わらないと高校教育が変わらない、
  - ・受験圧力の低下と高校生の学修量の低下、等
- ◆ 少子化・国際競争の進展の中で、大学教育の質的転換（しっかりと学ぶ大学教育へ）
  - ・大学教育を受けるに足る入学者の選抜
  - ・多様な入学者とそれに合わせた教育プログラムの必要性、等

15

「高大接続改革」の必要性

- ●国際化、情報化の急速な進展
  → 社会構造も急速に、かつ大きく変革。
- ●知識基盤社会のなかで、新たな価値を創造していく力を育てることが必要。
- ●社会で自立的に活動していくために必要な「学力の3要素」をバランスよく育むことが必要。

【学力の3要素】
① 知識・技能の確実な習得
②（①を基にした）思考力、判断力、表現力
③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度



16

高大接続改革の全体像イメージ

（高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の一体的な改革により、「学力の3要素」の育成・評価を通じた学力の質的向上を目指す）

高等学校教育改革

《「学力の３要素」の確実な育成》

✔学習指導要領の抜本的な見直し
- 育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の見直し
  （歴史総合（仮称）、「新探究」（仮称）、情報を活用する能力を育成する教科目など）
- カリキュラム・マネジメントの普及・促進

✔学習・指導方法の改善
- アクティブ・ラーニングの視点からの学習・指導方法の改善
- 教員の養成・採用・研修の見直し

✔多面的な評価の推進
- 学習評価の改善
- 多様な学習成果を測定するツールの充実
  →「高等学校基礎学力テスト（仮称）」の導入
  基礎学力の定着度合いを把握し、指導の工夫に生かす仕組み。
  CBT導入を検討。
  （平成31～34年度：試行実施、平成35年度～：新学習指導要領に対応）
  ※義務教育段階、文部科学省において、関係団体等の意見を踏まえ、実施的・専門的検討。新テストの実施方針（平成30年度）に反映
  →農・工・商業などの検定試験や英語などの民間検定試験の利活用の促進

✔「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入
（平成32年度～実施、平成35年度からは新学習指導要領に対応）

◎ 思考力・判断力・表現力の一層の重視
- 記述式問題の段階的導入
  平成32～35年度：短文記述式
  平成36年度～：より長文記述式
- マークシート式問題の改善（平成32年度～）
- CBTの検討・導入（平成36年度以降の導入を目指す）
  ※検討課題については、目指しの課題（CBTの導入、等）解決のための実証・研究を行う。
  →義務教育段階、文部科学省において、関係団体等の意見を踏まえ、実施的・専門的検討。新テストの実施方針（平成35年度）に反映

大学入学者選抜改革

《「学力の３要素」の多面的・総合的評価》

✔個別入学者選抜の改革

◎ 明確な「入学者受入れの方針」に基づき、
「学力の3要素」を多面的・総合的に評価する選抜へ改善
※入学希望者に求める能力と評価方法の関係の明確化とそれに基づく選抜
- 新たな選抜実施ルールの構築
- 「調査書」の改善や「学修計画書」の充実

※義務教育段階、「大学入学者選抜方法の改善」に関する協議の場で具体的な取り方を検討（平成32年度に実施、それ以降から適用）

大学教育改革

《「学力の３要素」の育成を通じた質的転換》

✔三つの方針（卒業認定・学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入れ）に基づく大学教育の質的転換

- 関係省令の改正（「三つの方針」の一体的な策定・公表の制度化。（平成29年3月改正、平成29年4月施行））
- 「三つの方針」の策定・運用に関する「参考指針」の作成（平成29年3月）
- 各大学において育成を目指す人材像や具体的な教育活動の明確化
- 入学から卒業までの、大学教育を充実するためのPDCAサイクルを強化

✔認証評価制度の改善
- 高大接続改革の趣旨を踏まえた評価項目・方法の改善（「三つの方針」に基づく大学教育の質的転換促進や、内部質保証を重視した評価（平成30年度から始まる第3サイクルの評価に反映））

17

◆付録 6. 過去のプログラム実績

実施期間	開催地	訪問人数
2001 年 2 月 5 日～24 日	東京都、広島県、佐賀県、鹿児島県、京都府、奈良県	50 名
2002 年 1 月 24 日～2 月 5 日	東京都、三重県、兵庫県、京都府、奈良県	50 名
2003 年 1 月 15 日～28 日	東京都、山口県、鳥取県、香川県、宮崎県、大阪府、京都府、奈良県	98 名
2004 年 1 月 29 日～2 月 10 日	東京都、北海道、静岡県、大分県、愛媛県、京都府、奈良県	100 名
2005 年1月 19 日～2 月1日	東京都、北海道、福島県、兵庫県、鳥取県、大阪府、京都府、奈良県	99 名
2006 年 1 月 11 日～24 日	東京都、北海道、滋賀県、鳥取県、熊本県、大阪府、京都府	98 名
2007 年 1 月 23 日～2 月 5 日	東京都、北海道、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、奈良県、鹿児島県、大阪府、奈良県	159 名
2008 年1月 22 日～2 月 4 日	東京都、群馬県、宮城県気仙沼市、兵庫県宝塚市、埼玉県さいたま市、秋田県、大阪府、京都府	158 名
2009 年 2 月 3 日～16 日	東京都、福島県西郷村、埼玉県さいたま市、奈良県奈良市、高知県、熊本県、大阪府、京都府	148 名
2010 年 1 月 12 日～25 日	東京都、宮城県気仙沼市、石川県金沢市、和歌山県、大阪府、大阪府豊中市、京都府	149 名
2011 年 1 月 11 日～24 日	東京都、千葉県八千代市、京都府与謝野町、埼玉県さいたま市、千葉県、奈良県奈良市、大阪府	149 名
2012 年 1 月 11 日～22 日	東京都、埼玉県さいたま市、京都府与謝野町、宮城県気仙沼市、岡山県岡山市、福岡県、大阪府	148 名
2013 年 1 月 16 日～27 日	東京都、千葉県八千代市、和歌山県橋本市、石川県小松市、千葉県、福岡県、大阪府	144 名
2014 年 1 月 19 日～27 日	東京都、奈良県奈良市、東京都稲城市、和歌山県橋本市、石川県小松市、大阪府	118 名
2015 年 1 月 18 日～26 日	東京都、千葉県八千代市、千葉県、和歌山県、大阪府	98 名
2016 年 2 月 16 日～22 日	東京都、東京都狛江市、埼玉県さいたま市、長野県	111 名
2017 年 1 月 17 日～23 日	東京都、東京都狛江市、千葉県八千代市、千葉県	118 名

計 1,995 名

●国際連合大学 2016-2017 年国際教育交流事業●
韓国教職員招へいプログラム
実施報告書

2017 年 3 月
編集・発行

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)

〒162-8484
東京都新宿区袋町 6 番地　日本出版会館
電話　(03) 3269-4498
Email　accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL　http://www.accu.or.jp

Printed in Japan by WACO Inc. [120]
ⓒ2017 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)